

平成 1 9 年度

足立区立小・中学校 P T A

ブロック研修会実施記録

足立区立小学校 P T A 連合会

足立区立中学校 P T A 連合会

足立区教育委員会

は じ め に

足立区の教育改革の取り組みは、「開かれた学校づくり」を基盤として、制度改革を中心とした教育環境の整備を図りながら進められてきました。足立区基本計画においても、「確かな基礎学力と学ぶ喜びを育む」「子どもの豊かな心と健やかな身体を育む」「学校・家庭・地域が連携した特色ある学校づくりを進める」「安全で魅力ある教育環境をつくる」という学校に関わる4つの柱が位置づけられています。

P T Aにおいても、「開かれた学校づくり協議会」の主要メンバーとして「学校が地域・家庭と協働するしくみづくり」と「地域が学校を支えるしくみづくり」の実現に力を注いでいます。

このような中で、平成19年度ブロック研修会は小学校では新たなテーマとして「家庭の教育力向上をめざす学校・地域と連携したP T A活動」を設定して実施しました。また、中学校では昨年度と同様に「教育環境の向上と活力あるP T A」をテーマとしました。

これらのテーマには、子どもたちの様々な課題が深刻化する中で、家庭教育の重要性が議論されるとともに、家庭を支える仕組みづくりの必要性が高まっていることを、P T Aとしてどう受け止め、あり方を再検討していくかという小・中学校P T A連合会の問題意識が込められております。

P T Aは、保護者と学校が共に手を携え、児童・生徒の成長を支援するだけでなく、大人自身の成長をも目指しています。現状では、会員や予算の減少、役員のなり手がいないといった問題も抱えています。しかし、困難な時であるからこそ、P T Aの持つ意味やなすべきことを会員一人ひとりが考えることが必要となります。そのための機会として、ブロック研修会が毎年実施されています。他校のP T Aとの情報交換などを通して、自らの活動を見直す機会でもある本研修会は、非常に重要な意味を持っています。

研修会の様子をまとめ、実施記録として発行いたします。この記録が、今後のP T A活動の充実に役立てば幸いです。

おわりに、本研修会の実施ならびに記録の発行のためにご協力いただきました皆様方に、心よりお礼申し上げます。

平成20年7月

足立区立小学校P T A連合会会長	原田 勉
足立区立中学校P T A連合会会長	太齋 利幸
足 立 区 教 育 委 員 会	

目 次

小学校P T Aブロック研修会

第 1 ブ ロ ッ ク	1
第 2 ブ ロ ッ ク	5
第 3 ブ ロ ッ ク	8
第 4 ブ ロ ッ ク	1 6
第 5 ブ ロ ッ ク	2 2
第 6 ブ ロ ッ ク	2 5
第 7 ブ ロ ッ ク	3 2
第 8 ブ ロ ッ ク	3 8
第 9 ブ ロ ッ ク	4 4
第 1 0 ブ ロ ッ ク	5 2
第 1 1 ブ ロ ッ ク	5 8
第 1 2 ブ ロ ッ ク	6 3
第 1 3 ブ ロ ッ ク	6 6

中学校P T Aブロック研修会

西新井北ブロック	7 1
江北ブロック	7 5
西新井南ブロック	7 9
千住中央ブロック	8 3
綾瀬ブロック	8 8
竹の塚ブロック	9 3

小学校ブロック研修会

ブロック	開催日	会場校
1	7月 7日(土)	千 寿 双 葉 小 学 校
2	9月29日(土)	宮 城 小 学 校
3	6月23日(土)	本 木 小 学 校
4	7月 7日(土)	亀 田 小 学 校
5	9月 8日(土)	弥 生 小 学 校
6	6月30日(土)	北 三 谷 小 学 校
7	7月 7日(土)	六 木 小 学 校
8	9月29日(土)	平 野 小 学 校
9	7月 7日(土)	花 畑 小 学 校
10	10月13日(土)	淵 江 小 学 校
11	10月13日(土)	伊 興 小 学 校
12	7月 7日(土)	鹿 浜 小 学 校
13	9月29日(土)	舎 人 小 学 校

【研修テーマ】

昭和53、54年度	望ましいPTAを求めて
昭和55、56年度	実りあるPTA活動を求めて
昭和57、58年度	活力あるPTA活動を求めて
昭和59、60年度	地域の調和のとれたPTA活動を求めて
昭和61、62年度	心豊かなPTA活動を求めて
昭和63～平成14年度	これからのPTA活動のあり方を求めて
平成15、16年度	教育改革とこれからのPTA活動のあり方
平成17年度	教育改革の中のPTA活動と家庭教育
平成18年度	これからのPTA活動のあり方と家庭教育
平成19年度	家庭の教育力向上をめざす学校・地域と連携したPTA活動

第 1 ブ ロ ッ ク

千 寿 小 学 校
千 寿 本 町 小 学 校
千 寿 双 葉 小 学 校
千 寿 第 三 小 学 校
千 寿 常 東 小 学 校
千 寿 桜 小 学 校
千 寿 第 八 小 学 校

- 1 . 月 日 : 平成 1 9 年 7 月 7 日 (土)
- 2 . 会 場 : 千寿双葉小学校
- 3 . 研 修 テ ー マ : 家庭の教育力向上をめざす学校・地域と連携した P T A 活動
- 4 . サ ブ テ ー マ : 子どものために保護者として何が出来るか?
- 5 . 分 科 会 テ ー マ : 第 1 子どものために広報として何が出来るか
第 2 学級の役割について
第 3 これからの成人保体
第 4 校外

第1分科会 広報

会場校：千寿双葉小学校

参加者：32名

テーマ「子どものために広報として何が出来るか」

<各校活動内容>

- 千寿小 専門委員を設けていないため、有志で成り立っている
広報委員が集まらないので、原稿が出来ない
- 千八小 担当の先生の目線の記事や先生が載せてほしいことなど
- 桜小 保護者会の後、井戸端会議という先生との話し合いの場を設けてもらっている
その内容を広報誌で伝えたい
- 本町小 年2回から3回にしたい
- 常東小 読書による特集(アンケートをとる)・保護者が興味ある物を伝える
- 双葉小 広報誌を通して家庭での会話が増えるとよい

各校の広報誌の紹介や活動内容を話し合いました。

広報の役割としては、ただ発行することだけではなく、何を伝えたらいいのか、どうすれば伝わられるのか？言う意見あり、電子化にしたらどうか・お父さんたちの視点からの見た物・先生方の体験談など今までと違った物を作ってみる・千住地区6校で作ってみてはどうか？など、他の学校にも興味があったりするなど

いろいろな意見がありました。

第2分科会 学級

会場校：千寿双葉小学校

参加者：30名

テーマ「学級の役割について」

<各学校の活動内容>

- ・学年行事 ・学年学級パイプ役 ・PTA、学校行事のお手伝い

やはりどの学校も、学年学級はまとめる役割なので大変だということでした。

役員決めの時などなかなか、決まらず大変なので、専門委員をなくし年に1度のお手伝いのやり方のほうがいい、言う意見もありました。

各校役員決めにはかなり困難しているようでした。

第3分科会 成人保体

会場校：千寿双葉小学校

参加者：35名

テーマ「これからの成人保体」

<各校活動内容>

ビーチボールバレー大会・母親バレーボール大会・絵付け教室・星の観察・PTA、学校行事のお手伝い

各校いろいろな企画を行っているようです。全体的に児童数に対して保護者の参加人数が少ないようでした。

各校親子で楽しめるよう、ビーチボールバレー大会を行ったりしている学校もあるようですが、スポーツが苦手な保護者がいたり、コミュニケーションをもっととれる企画をしてもよいのではないのでしょうか？

例えば、凧づくり・ペッコウ細工・タイル工作など地域の人の中にはいろいろな技術を持った方がたくさんいます。地域の人とコミュニケーションをとりながら、学べる場があってもいいかもしれません。

星の観察を行った学校では、昼間は参加できない保護者の参加が多数あったそうです。

授業時間だけでなく、曜日や時間帯を変えてみると参加者の人数も変わるようです。

もっと参加者を増やす工夫・企画等を6校で情報交換を協力していきたいと思います。

第4分科会 校外

会場校：千寿双葉小学校

参加者：35名

テーマ「校外」

<各校の活動内容>

- 千八小 1年を通じて父兄全体にパトロールの実施
 新学期に向け新一年生を入れての集団登校のお手伝い
 本町小・・・地域のお年寄りを参加を募り、本校児童と自転車安全教室の開催
 登下校時に通学路立ってもらい様子を見る
- 桜小 あいさつ運動
 桜フェスティバルのお手伝い
 子ども見守り隊のステッカーを作成し、地域に登録してもらい配布
- 常東小 放課後パトロールの実施
 交通安全指導、登校指導
- 千寿小 専門部はないが、パトロールを一人年一回は必ず実施
- 双葉小 地域・PTAを含めた父親パレーポール大会
 地域のお祭りのパトロール

<千寿本町小学校長 林正樹先生より>

それぞれの学校でのPTA活動とは、出来ることから始めてみようと言うことで、最低でも年に1回は活動を行うこと。

大人として子供たちを育てるというPRをし、自分の子だけでなく人の子も育ててるという意識を持ってもらえると、全体がよくなると思います。

<千寿第八小学校長 新山田信夫先生より>

校外とは役に立つ事を子どもたちのためにやってほしい。それは、人の目があったり、声かけがあったりと進んで自ら行ってほしい。パトロールが主としている学校が多いようです。地域のお祭り等や子どもたちの登下校時に合わせて見守りをしてもらうなど、校外以外にもPTA全体で協力しあっているようです。

日々小さな事ですが、自転車に「パトロール中」のシートを取り付けてもらい地域全体で子どもたちを守っていきましょう。

第 2 ブ ロ ッ ク

宮 城 小 学 校
扇 小 学 校
江 北 小 学 校
高 野 小 学 校

- 1 . 日 時 : 平成 1 9 年 9 月 2 9 日 (土)
- 2 . 会 場 : 宮城小学校
- 3 . 研 修 テ ー マ : 家庭の教育力向上をめざす学校・地域と連携した P T A 活動
- 4 . 講 演 会 テ ー マ : 学校・地域と連携した P T A 活動 -

講演会

会場校：宮城小学校

参加者：186名

学校・地域と連携したPTA活動

講師 ラジオDJ

品川区立第四日野小学校 元PTA会長 山本 シュウ 氏

ワークショップ...10人と握手をして挨拶をかわす。

参加者全員が1人10人と握手、挨拶をかわし、会場が和やかな雰囲気になりました。この意図は、挨拶を交わすことにより人との距離を縮め、知り合いから友人、友人から親戚のような人との関わり方へと心を開くことにあります。

三位一体(学校・地域・親)

戦前...国を守る 戦後...地域・家族を守る 現在...自分さえよければ

現在をどのようにして昔のようにもどすのか？

人と関わるのが薄れていっているのが、相手の立場と気持ちを思いやる愛を持ったおせっかいをどんどんしていき、一人から二人、二人から三人と仲間を増やしていくこと。例えば、学校では親父の会・サポーターズ、地域では登下校の旗持ち、「いってらっしゃい」「おかえりなさい」の声かけなど家庭ではPTA活動などがある。

子育て

大人は人生のソムリエ

メニューを見せる・・・子どもに雨の日にどの靴を履くのか選ばせる。サンダル・スニーカー・長靴の中から

アドバイス・・・お父さんは長靴がお勧めだよ。サンダル・スニーカーだと濡れて気持ち悪くなるよ。

テイस्टینگ・・・子どもはサンダルを選んだ。

決定・・・サンダルを履いて外に出る。

お勘定・・・雨に濡れてぐちょぐちょになる。あなたが選んだもの。

子どもは自分で体験して学習する。教育とは自立させることであり、勉強とは生きていく強さを学ぶためのものである。学校では、脳みそ・体・心を育てる場であり、脳みそは難しいと思った時に鍛えられる。

コミュニケーション＝話を聞く。頭ごなしではなく、信頼とは押し付けるものではない。話を聞いて理解することで信頼のパイプが出来る。

思春期（8才～18才）では自我に目覚め親の言うことを聞かなくなるが、正常な成長であるので、頭ごなしに否定せず反抗を喜ぶべきもの。COME ON 思春期！ WELCOME 思春期！！思春期の子どもがよく使うことば、うざい。う...うっとうしい ざ...ざけんなよ い...意味わからん

何か問題があった時には、家族会議を開いてお互いの意見を聞くことによって、家族が一つのチーム、チームの一員として問題を解決していくことが大切である。

一艘の船

P T Aとは例えるなら一艘の船と一緒にです。

これからの航海に向けて、イカリは上がりもう帰れません。

皆でオールを持ってこの船をこがないと、どこに流されるかわかりません。

すごい嵐や海賊にあうかもしれません。

そんな中でもし船酔いしたり、体力の限界だと思ったら「もうこげません、ちょっと休ませて下さい。」

と、正直に手を挙げて下さい。

あなたのフォローをみんなで行います。

この航海は辛いけど、やり遂げた時必ず素敵な航海になるでしょう。

その経験こそが、P T A活動であり、子どもを持つ親の特権なのです。

文責：鳥山敬子 箱田好美

第 3 ブ ロ ッ ク

寺 地 小 学 校
本 木 小 学 校
本 木 東 小 学 校
興 本 小 学 校
西 新 井 小 学 校
西 新 井 第 一 小 学 校

- 1 . 日 時 : 平成 1 9 年 6 月 2 3 日 (土)
- 2 . 会 場 : 本木小学校
- 3 . 研 修 テ ー マ : 家庭の教育力向上をめざす学校・地域と連携した P
T A 活動
- 4 . 講 演 会 テ ー マ : 子どものしつけと生活
- 5 . 分 科 会 テ ー マ : 第 1 学校・地域・家庭での保護者の意識と子ども
たちのマナー
第 2 みんなに親しまれる広報紙作りを目指して
第 3 家庭・学校・地域の連携によってできる校外
活動
第 4 家庭の教育力向上への有効な取組み
第 5 保護者の役割を考え学ぶ成人活動

講演会(要旨)

会場校：本木小学校

参加者：180名

テーマ「子どものしつけと生活」

講師 教育委員会相談指導室 指導主事 吉野達雄先生

1.子どもを取り巻く環境と問題行動

・現代の子ども達は、以前に比べて体力の低下が顕著である。昭和40年代の子ども達の一日平均歩数は約27000歩だったのに対し、現在では44%以下の12000歩、中には学校の行き帰りと校内だけしか歩かないという5000歩程度の子どももいる。原因として、「時間」「空間」「仲間」の三つの「間」がない事が考えられる。習い事などで忙しく時間がない、遊ぶ場所がない、外に出ないので仲間がいない。友達と一緒にいても、無言でそれぞれが持っているゲーム機で遊んでおり、コミュニケーション能力が不足しているようだ。

・小学生でも携帯電話を持っている子どもが増えている。使い方によれば、子どもの安全確保のために有効だが(GPS機能)、出会い系サイトや見せたくない写真などが、子どもの(目に触れる可能性も大きいので、保護者の方は、契約時にぜひフィルタリング機能をつけるなど対策を講じてほしい。

2.家庭・地域でできること

・「早寝・早起き・朝ごはん」に言われるように、基本的な生活習慣をしっかりとつけることが大事である。その他にも、「あいさつができるか」「学校の準備を前日に済ませているか」「家庭学習ができているか」「学校であったことを話しているか」「睡眠時間を充分にとっているか」などは、是非家庭で身につけていただきたい。また、親子のコミュニケーションをとる努力を。

・「怒る」のではなく「叱る」子育てをする。「叱る」とは、その子のことを考えて言い聞かせるという意味合いがあり、昔は近所のおじさんが他人の子どもでも叱ってくれたが、今ではなかなか難しい。

3.理想の親の姿

・教員時代、保護者の方から相談を受けると一生懸命正論で答えていた。東京都教育委員会で配布している「家庭教育読本」の中の、『子どもを不幸せにしたければ、好きなものを何でもかってあげる』と

いう項目を、保護者会で話したりしていたが、実際子どもをもってみると、可愛さのあまりつい何でも買ってあげたりと、頭でわかっている知識と行動を一致させるのが難しい。

・「子どもが育つ魔法の言葉」～ドロシー・ロー・ノルト～より

『ひやかしを受けて育った子は、はにかみやになります』

『批判ばかりを受けて育った子は、非難ばかりします』

『ほめられる中で育った子は、いつも感謝することができます』

『励ましを受けて育った子は、自信を持ちます』

『人に認めてもらえる中で育った子は、自分を大切にします』

・理想の姿を具体的に出すことはできなかったが、「魔法の言葉」を確認したことで、どういう親になればいいのかを、もう一度考えてみたい。「子どもの姿を見て嘆くことがあったら、自分の姿を見ているのだと思いなさい」という言葉を耳にしたことがあるが、本当に自分の姿を見て子どもは育っていくのだと感じている。今回、改めて自分でも家庭教育について、親としてどうすべきか考えるいいきっかけになった。皆さんにも、何かひとつでも考えていただけたら、この講演がお役に立てたのではないだろうか。

第1分科会 本部

会場校：本木小学校

参加者：3ブロック各校本部役員

テーマ「学校・地域・家庭での保護者の意識と子どもたちのマナー」

<討議内容>

最近の保護者の様子、どうすれば意識が向上し、より良いPTA活動ができるのか

西 一 保護者のPTA活動参加意識は年々低くなり、役員は、理解して受けてくれる方を時間をかけて説得している。一部の保護者に対しては、運動会等行事の時のマナーの低下を感じる。

西新井 モラルは下がる一方のようである。これまでは理解し合えるように、お互い歩み寄ってきたが、今までとは違う考え方も必要である。

興 本 学年の役員を決めるのに苦慮している。取り組みに工夫をしても親の学校に対する関心が薄れているのを感じる。

本木東 子ども連れで参加した時、親はおしゃべりをしていて子どもに目が届かず、注意をしない。役員を決める時も様々な理由で断るなど、相互理解が難しく、目をつぶっている。

本 木 運動会でルールを守らない人がいる。場所取りの為に夜中2時に並ぶ人、限られたスペースに広く場所を取る人、混雑しているのに日傘を差す人など、注意しても言い返されてしまうこともある。他人の事を気にしない。自分さえ良ければいいという人が増えていると感じる。

寺 地 委員は一人2回受けるようになってきている。意思の疎通に苦慮し、連絡をとるのもたいへんな方もいる。保護者には子どもの為に行事等には参加してもらい協力を呼びかけていきたい。

<他校に聞きたいこと>

漢検・数検について

- ・ 漢字検定に向けてのサタデースクールで使用するテキストは実費で購入。申込は学校がする。
- ・ 本部が手紙を出し、集金して、インターネットで申し込み。監督は学校、補佐は本部。
- ・ 個人情報扱わなければならないし、合否もあるので学校が全てを担当している。

PTA会費の集金方法について

- ・ 2日間の集金日を設け、持ってこない場合は電話。それ以降は連絡帳。
- ・ 前日に連絡網。責任をもって当日に集金する。持ってこない場合は、手紙。次に、電話や自宅訪問。最後は先生にお願いする。

<助言者のまとめ> 寺地小学校長 丸山昌哉先生

行事でのマナーについては、保護者の目、学校の目、いろいろな目を見て、よい方向にもっていく工夫が必要だと感じています。

子どものマナーについては、今現在（6月）本校では地域から3件の報告があります。学校から帰ってきてからの遊び方について、共通して言われることは「最近の子どもは言うことを聞かない。」「大人も黙らなければいけない。」の2点です。そして、地域の方に「いけない事はその場で注意。その後、学校にも連絡をしてほしい。」とお願いしました。地域・家庭・学校で協力をしながら子どもたちのマナーの向上を図っていきたいと考えています。

第2分科会 広報

会場校：本木小学校

参加者：30名

テーマ「みんなに親しまれる広報紙作りを目指して」

<各校、テーマについて感じたこと>

本木小...保護者が知りたいこと・関心のある事柄・学校や地域に関して知っているようで知らなかった事など、テーマを探して記事にしていこうと思う。

本木東小 ...広報誌の社約は、取材した相手なので、率直な意見を頂き、読み手にストレートに伝えられる紙面作りをしていきたい。

寺地小...学校・家庭・地域をつなぐ、パイプ的役割を、持つものなので、部員全員で協力して行きたい。

興本扇学園...いろいろな学校の広報紙作りを参考にしながら、少しでも関心を持って頂きたい。

西新井小 ...地域の方やPTAの誰もが、好感そして関心あるテーマで読みたくなる紙面作り。

西新井第一...学校・家庭・地域の皆さん誰もが楽しんでもらえるようにしたい。

<各校の今後を考えている特集>

本木小... ボランティアのお母さんについて。募集も兼ねて。
学習支援の大学生の方の紹介。

子供会の地区長たちの役割などを、座談会形式でやってみたい。

本木東小 ... 学校だけでなく地域の方の声を入れて生きたい。

寺地小... 学習ボランティア・図書ボランティアの特集。

興本扇学園... 小中一貫校の特色について。

中学校の広報委員と一緒に、小学生に知ってもらうために、部活動の紹介など。

西新井小 ... 年間のテーマ「親の役割とは？」について。

西新井第一... 「83運動」と「早寝・早起き・朝ごはん」に重点を置いて。

地域の方とのつながり、感謝の思いを込めた特集。

<助言者のまとめ> 本木東小学校校長 小玉一夫先生

広報委員の選出は、なかなか難しいでしょうが、紙面作りを共にした仲間として横のつながりが出来ていき、子どもたちについての話し合いが出来るようになっていきます。期日までに仕上げる大変さがありますが、形となって残る喜びもあるのではないかと思います。

文責：村中清 安井昌子

第3分科会 校外

会場校：本木小学校

参加者：40名

テーマ「家庭・学校・地域の連携によってできる校外活動」

<各校の活動内容>

本木小・・・地域マップ作成。110番ステッカー（新規・継続のお願い）。夏休みパトロールの内容の見直し。

本木東小・・・地域パトロール（2回）。自転車教室実施（3～6学年）。地域懇談会（地域の方とのコミュニケーションの場）。ポスター作り。

西新井小・・・110番ステッカー配布。運動会のパトロール。自転車教室実施。夏休みパトロール。校庭開放（土・日実施）。

興本小・・・登校班のお世話や校門前でのあいさつ運動（保護者全員が当番制で実施）。自転車安全講習会。

西新井第一小・自転車無料点検（近隣自転車屋さんのボランティア）。登下校時のパトロール（83運動）。子供を守ろう110番ステッカー配布（掲示のお願い）。通学路安全・防犯マップ作成配布。運動会（パトロール）・学校公開（受付）の手伝い。

寺地小・・・交通安全教室（自転車）。運動会校内パトロール。セーフティ教室。校内ソフトボールたいかい。夏休み校外パトロール。荒川クリーン作戦。

<討議内容>

110番ステッカー作成配布について

足立区役所から枚数分を頂き、各地域の方におねがいし賛同して下さった方々の氏名や住所を記入し、それを区役所に送り返すと保険がかかる仕組みである。本木小・西新井小・西新井第一小が現在行っているため、連絡を密にし他校にも広めていければ、あちこちにステッカーが貼ってある地域になりパトロール強化につながる。（ステッカー請求先：教育委員会 青少年センター）

地域パトロールについて

地域・学校・保護者との連携で共通の腕章をし、登下校時（8時と3時）に声かけやパトロールを行っている（83運動）。連携でという事だが、地域の方に頼りきってしまっている傾向にあるので、保護者がもっと積極的になり、地域や学校と常に連絡を取り合う事（西新井第一小）。登校班がある学校は、他校の下校時の安全対策法を聞き参考にしたい（興本小）。各校ともパトロールは強化している。やはり地域の方の力が大きい。

<助言者のまとめ> 西新井第一小学校校長 矢萩 恵一 先生

校外委員と地域のつながりはなかなか難しく、自治会の行事や町会・子供会等の行事に積極的に参加して行く必要がある。コミュニケーションの不足を多くの保護者が気付き、地域の一員であると認識し地域とふれあう事が大切である。教育の最終責任者は保護者である。地域・学校・保護者が連携する事によって、子供達も自分達は守られているんだと思い自然とあいさつもするようになる。今後83運動や地域行事をとおり、地域とのコミュニケーションの不足を改善して欲しい。

文責：榎本ゆかり 戸狩忍

第4分科会 学年学級

会場校：本木小学校

参加者：46名

テーマ「家庭の教育力向上への有効な取組み」

学校別のグループから席を移動し、他校のそれぞれ同学年の人とグループになり、意見交換をしました。

1 学年... 役員の決め方について やりたくない方より、少しでも子どものためにと関わっていく気持ちのある人にやっていただいたほうが良く運ぶのでは。(全員1回は役員をやることを前提として)

2 学年... 学年行事はどのように決めるのか、役員選出はどのようにするのかについて 保護者会の参加など人数が少なく、選出にたいへん困る。

3 学年... (学年行事を何にしたら良いかについて 人数の少ない学校(本木東)は、特に悩む。2 学年合同でやることも考えている。

4 学年... 役員の選出方法について 選挙管理委員会が選挙を行い、クラスからの2名の候補者の中から全校選挙により選出する学校(西新井小)もある。働いている方の役員会出席について 役員会は任意の出席としている学校もある。欠席者には、学年で内容を連絡している。

5 学年... 学年行事をどのように行っているかについて 興本扇学園/5年生は稲刈りをする。西新井小/学年で特に決まってないが、毎年親子でコミュニケーションの取れる行事をする。西新井第一小/バレーボール大会、親子レクリエーション、時間があれば七輪大会などを行う。寺地小/5年生は田植えをする。学校行事(わくわく寺地)の中で各学年行事として親子で参加する形をとっている。仕事で参加できない人もなるべく参加してもらおうよう、日にち、時間などを考える。

6 学年... バレーボール大会について 西新井第一小・本木東小は学年学級が、西新井小・寺地小は成人が担当している。学年でのバレーの参加希望が少なく、人集めが大変。学年行事について 親子レクリエーションの方が、人が集まる。西新井小では親子キックベース、西新井第一小では竹とんぼ数室、本木東小ではビーチボールバレー、寺地小ではうちわ作りなどがある。役員の選出について 本木東小は卒対を決めるとき、くじ引きをする。

<助言者のまとめ> 西新井小学校校長 丸西美佐子先生

皆さんの様子を拝見し、本当に頼もしく思いました。学校には様々な課題があります。そして学年学級の委員さんは、もしも学級にいろいろな課題が起きたとき、解決していただくための「要」となります。学級または学年の保護者の皆様の横のつながりをつくっていただけるとのことです。学年行事では、どなたでも参加していただき、お声かけをして、次の行事や保護者会に来たいと思うようにコミュニケーションの輪の種を蒔き、広げていただくことが、学級崩壊やいじめなどの問題を解決していく大きな力になります。楽しい学年行事・親子行事がどんなに大きな力になり、お力添えをいただいているか、日頃のお礼を申し上げるとともに、これからもどうぞよろしく願いいたします。

文責：近藤肇子

第5分科会 成人

会場校：本木小学校

参加者：37名

テーマ「保護者の役割りを考え学ぶ 成人活動」

<各校の活動内容・今後の計画>

- | | |
|--------|---------------------------------|
| 西新井小 | 学年対抗バレーボール大会。ミニ集会 |
| 本木小 | 学年対抗バレーボール大会。散策。食事会。 |
| 興本扇学園 | 給食試食会。美化運動。ベルマーク収集。 |
| 西新井第一小 | 社会見学。給食試食会。料理講習会 |
| 寺地小 | 学年対抗バレーボール大会。寺地祭。家庭教育学級。ベルマーク活動 |
| 本木東小 | 給食試食会。フラワーアレンジメント。 |

<討議内容>

活動内容について

- 問題点
- ・行事などに対する保護者の参加意欲を高める工夫をどの様にしているのか。
 - ・講習会の企画、講師の選び方など、どの様にしているのか。
- 解決案
- ・行事案内の手紙等を色付の紙にして興味を引くようにしている。
 - ・ビーズ作りなど親も楽しめる行事を行い、作品などは文化祭に展示している。
 - ・社会見学を年間行事に取り入れ、見学後には食事会を開き、保護者の参加意欲を高めている。
 - ・他校の成人活動に参加させてもらい、参考にさせていただきたい。

<分科会校長のまとめ> 興本扇学園校長 角田勝彦先生

各学校の取り組み、一人一人が委員として悩んでいらっしゃるなどたくさん聞かせていただきました。まず1番に成人委員会は大人が対象、大人が楽しむこと、その中で親睦をはかろうということなのですが、これは一体なぜなのでしょう。私が思うにはそのやる行事を考えるのではなく、その行事の裏にある目的、狙いを抑えていただいたら、方法は見つかると思います。まず参加意欲の高める方法としては、自分ならどんな条件が整えばいいのか、自分に置き換えて考えていただきたいと思います。働いているお母さん方がたくさんいらっしゃるという現状を知り、行事を選択できるようにする方法もあると思います。計画を立てるのではなく、参画させるという事も大事にしていただきたいと思います。それから講演会の企画、講師の選び方は、皆様がどのようなお話を聞きたいのかで選べば良いと思います。成人活動を楽しくするかしないかは、皆様方の心一つです。「する心」「する工夫」「楽しんでやること」が一番大事だと思います。

文責：恵内明美 小田桐裕美子

第 4 ブ ロ ッ ク

梅 島 小 学 校
梅 島 第 一 小 学 校
梅 島 第 二 小 学 校
亀 田 小 学 校
関 原 小 学 校
栗 原 小 学 校
島 根 小 学 校

- 1 . 日 時 : 平成 1 9 年 7 月 7 日 (土)
- 2 . 会 場 : 亀田小学校
- 3 . 研 修 テ ー マ : 家庭の教育力向上をめざす学校・地域と連携した P
T A 活動
- 4 . 分 科 会 テ ー マ : 第 1 地域と調和の取れた P T A 活動
第 2 地域と調和の取れた P T A 活動
第 3 地域と調和の取れた P T A 活動
第 4 地域と調和の取れた P T A 活動
第 5 地域と調和の取れた P T A 活動

第1分科会 特別

テーマ「家庭の教育力向上を目指す学校・地域と連携したPTA活動」

<各校の活動内容>

PTA総会・役員会（運営委員会）など開き意志の疎通を計る

学校行事のお手伝い

ブロック当番校時のブロック行事運営

開かれた学校づくり協議会の参加

PTA主催の歓送迎会・新年会の参加

役員の選出が年々難しくなっており、選出方法・任期内容について検討している

<討議内容>

～本部役員・委員の引継ぎ方法及び仕事内容～

各学年ごとに引継ぎ用ノートを作り全員が目を通すようにする。

本部役員・委員の仕事を広報誌に連載し理解を求める。

仕事を持つ保護者が多い為、役員負担を軽くするように、各種行事のお手伝いを委員の方々にもお願いしている。

～お父さんの参加人数をどのようにして増やすか～

ソフトボール部・親父の会などに参加していえるお父さん達が中心に参加を呼びかけている。

～役割・認識～

保護者・学校・地域で連携してそれぞれの役割認識をしっかりと持つ。

PTA活動は、子どもと自分の為だと思い積極的に参加する。

PTA・地域の行事は出来るだけ親子で参加して欲しい。

一般の子育ての先輩の話聞く機会を作って欲しいという意見が多かった。

<助言者のまとめ> 栗原小学校副校長 田邊一枝先生

各学校により特色・伝統があり良い所は導入していく事で良い活動が出来る。地域・PTA・学校の三位一体を目指し、各行事を通して学校と親と子どもの参加・協力、相互理解を深め子どもの為、親の為にPTA活動をより良い形で深めていけたらと思う。

いろいろな考えがあって難しいが達成感を感じられればPTA活動の参加者も増えるのではないだろうか。

第2分科会 学年

テーマ「地域と調和のとれたPTA活動」

<各校の活動内容>

・各学年行事の開催 ・ベルマーク集計 ・茶話会 ・給食試食会

<討議内容>

～現在、進めている活動～

梅島小・関原小・島根小 学年行事の内容を検討中

梅一小 グリーンプロジェクト（芝生育成のため地域の方の協力を経て、月2回
小石、雑草の除去等） 資源回収

栗原小 夏祭りの準備

梅二小 低学年とその保護者を対象とした「歯」についての講演会

～活動を進めていく上での課題～

学年行事は、クラスの子どもや親を覚える機会にもなるため、どの学校も早めに連絡をとるよう心掛けていますが、共働き、小さい子がいて参加しにくい、という理由で参加者が少ないというのが現状でした。その対策として、「保育ボランティア」を依頼し、参加者が増えた。（栗原小）土曜参観後に開催し、父親の参加者も多かった。（亀田小）という工夫も見られました。

また、詳細が分かりやすい引継ぎノートの作成が必要という意見もありました。

～学校とのコミュニケーションのとり方～

行事を開催するにあたり、子どもの連絡帳を利用したり、放課後や休み時間を使って、学校と調整をとっています。

<助言者のまとめ> 島根小学校校長 石岡勝彦先生

学年行事は、親と子、親と親、親と教師のふれ合いの場です。担当者の中で楽しめるものを決めて、早めに計画を立てる事が必要だと思います。

高学年については、教育を深めるために研修というのもよいと思います。

参加者確保のために、参観日や土曜日も考えてみてはいかがでしょうか。2学年合同で開催するのも1つの方法だと思われます。

ぜひ、自らが楽しめる計画をたててほしいと思います。

文責：大澤 江口

第3分科会 成人教育

会場校：亀田小学校

参加者：41名

テーマ「地域と調和のとれたPTA活動」

<各校の活動内容>

梅島第一小 学年対抗ビーチボールバレー大会、運動会PTA競技、ブロックバレーボール・ソフトボール大会応援、教養教室

栗島小 パーソナルカラーメイクアップ、フルーツデコルテ

島根小 給食試食会、講習会、ブロックバレーボール大会手伝い、運動会・学校公開パトロール

関原小 給食試食会、他

梅島第二小 PTAビーチバレー大会、PTAソフトボール・バレーボール大会応援、学校公開手伝い

亀田小 運動会、バレーボール部・バドミントン部発足会、給食試食会、学習会、ブロックバレーボール大会応援、学年対抗ビーチボールバレー大会

梅島小 料理教室、トールペイント教室、チョコレート作り、他

<討議内容>

～課題とその解決策～

限られた予算の中で、PTAが興味を持ち集まってもらえる様な企画作り、参加者の確保がどの学校も課題となっています。講師の依頼などは、インターネットや知り合いの方、卒業生の親やPTA会員の中から探したり、積極的に参加してもらうために早めの募集や声かけを行っています。

～学校・地域と連携した活動について～

成人教育部としては、学校・地域との連携はありませんが、本部のお手伝いとして協力しています。

～活動の企画などで工夫している点～

前例を参考にしながら、興味をひくテーマ、参加しやすい日程作り、参加者からの意見を次の企画へのアイデアにし、参加した人が楽しく企画した人も楽しめる行事作りをしていく。

母親だけでなく父親が参加できる行事も企画してみるのも良いと思います。

<助言者のまとめ> 梅島小学校校長 川上彰久先生

- 1、活動のねらいを明確にし、前例ファイルで検討。適任者に助言をいただきながら、参加者と担当者が良かったと思える活動を推進しましょう。
- 2、家族の役割として、睡眠・食事（ビタミン・ミネラルの摂取）は健康の源。子供の将来へのサポート。親の働く姿から、生き方を教える。近所付き合いからマナー・公共心を育ててほしい。
- 3、子離れする事は不安ですが、子供を社会人として巣立たせ、子供の良さを職業に生かし社会に貢献できる人として独立させてほしいと思います。

第4分科会 広報

会場校：亀田小学校

参加者：38名

テーマ「地域と調和のとれたPTA活動」

<各校の活動内容>

・年3～4回の広報誌の発行

* 広報誌発行に伴う取材、記事などのまとめ、編集会議など。活動日・時間は各校様々で、仕事を分担し工夫をしながら集まる日程を決めて、作業を行なっている。

<討論内容>

・現在、進めている活動について

* 各校1号目の発行に向け作業中。「教職員の紹介・行事の紹介・PTAの紹介」などが多い。

・今後、予定している活動または進めていきたいと考えている活動について

* 開かれた学校づくり協議会や地域の行事に関する内容や子ども達の為になるようなテーマをしぼり込みアンケートの実施。特集記事を組むなど。

* 委員会で十分に検討し合い、興味を持ってもらえるような内容で読みやすく、楽しい誌面づくり。

・活動方法、広報誌づくりで工夫している点について

* 各校、仕事を持つ委員が多いので、一人ひとりの負担を考えて作業を分担している。誌面づくりも読みやすさ、インパクトのある見出しや特集、カラー印刷などを工夫。

・その他

* パソコンでの編集が多い中、編集作業は自宅のパソコンを使用し作業を行なっている学校が多い。

* 毎年同じ印刷所へお願いしている学校もあれば、予算の関係で、印刷所探しに苦労している学校もある。

* 委員決めで苦労する学校が多い。どの学校も「集まる時間が多い、大変」ということが広まっているのが現状。引継ぎをしっかりと行ない、大変さだけではなく「楽しい委員会」と伝えることも必要。

<助言者のまとめ> 関原小学校校長 木下良一先生

大変な作業を行ないながら苦労が広報誌となってカタチとなって残っていく広報委員会。広報誌は各学校色々な特色があると思います。見る側から作る側になった今「こんな情報があったのか。初めて知ったな」と、読者の視点になって作り上げ、毎号に生かせる事が出来ればベストな方法だと思われます。大変さだけではなく、楽しい思いで充実した委員会を行なってってもらいたいと思います。それが次年度への良い引継ぎに繋がると思われます。

今はデジカメなどでデータをパソコンに取り込み、写真や個人情報などフロッピーやCD-Rなどに保存していると思います。処分する際は使えないように完璧に壊して捨てるなど、個人情報の保護として十分に気を使っていたらいいと思います。

文責：高橋佳子

第5分科会 校外生活指導

会場校：亀田小学校

参加者：41名

テーマ「地域と調和のとれたPTA活動」

<各校の活動内容>

前年に引き続き、自転車教室・夏休みパトロール・校外だよりの発行・挨拶運動などを行っている。中には、島根小の花火の取り扱いプリントの作成・配布、栗原小の登校班班長の激励会、梅島小・島根小の授業の一環としての校内・地域のクリーン作戦の引率を兼ねたお手伝いなどもあった。

<討議内容>

～夏休みパトロール及び不審者対策～

- ・パトロール中、「僕は 小じゃないから。」等、子供からたとえ反発があってもめげずに注意し合おう。自分の地域だけでなく、子供たち全員がよくなるよう声をかけていく。
- ・Aメールの活用（特に西新井警察署管内だけのものもある）個人で登録し、把握しておくことよい。
- ・学校から不審者情報を得たら、即座にパトロールをするなどすぐ行動をおこすことにより、不審者を野放しにせずすむのではないだろうか。
- ・子供110番ステッカーの依頼先の見直しやお願いも忘れずに行う。

～地域との連携～

- ・地域の一員としての認識が薄い家庭もある。
- ・盆踊りや年末の夜回りなどの諸行事に積極的に参加し、地域の皆さんに子供の顔を覚えてもらい、協力していただく。

<助言者のまとめ> 梅島第二小学校 大串すみ彘先生

- ・児童・学校のための活動に感謝しています。
- ・児童の安全に関しては、事前に見守る（スクールサポーター・シルバーポリス）・未然に防ぐ（点検マップの作成・立て看板の設置・トラック協会の「ハッとひやりマップ」の活用）ことなど、登下校の安全という面から通学路の点検を行うことにより、交通安全のため、強いては不審者の防御にもつながります。
- ・地域との連携は、お願いするばかりでなく諸行事に積極的に参加し、児童も地域の一員であることを自覚するよう促すとよいでしょう。
- ・ブロック研修会というこの機会を情報の共有・交換の場から、各校にもどり本日あったことを話し合い、自校で取り入れたら良いことなど考え活動していければよいと思います。今回参加してよかったと思える一日であってほしいとおもいます。

第 5 ブ ロ ッ ク

千 寿 第 五 小 学 校
弥 生 小 学 校
五 反 野 小 学 校
弘 道 小 学 校
弘 道 第 一 小 学 校

- 1 . 日 時 : 平成 1 9 年 9 月 8 日 (土)
- 2 . 会 場 : 弥生小学校
- 3 . 研 修 テ ー マ : 家庭の教育力向上をめざす学校・地域と連携した P T A 活動
- 4 . 講 演 会 テ ー マ : P T A 活動における家庭の教育力向上の重要性

講演会

会場校：弥生小学校

参加者：179名

研究副題「PTA活動における家庭の教育力向上の重要性」

講演会 元宝塚歌劇団 red clanes 登坂 倫子 先生

第一部：アメリカ生活時代のPTAとアート

第二部：日本(現在)に帰国してからのPTA活動(交わり・過程・成果)

第三部：ヴォイスのリラクゼーション体験

1. 講師プロフィール

神奈川県湘南高校より、1984年宝塚歌劇団入団。9年の舞台生活の後、1993年、駐在員の妻として渡米。その後離婚をきっかけにハリウッドの演劇学校ステラ・アドラー・アカデミー・オブ・アクティングを卒業。現地の舞台で女優、演出家としてデビュー、イラク戦争下のアメリカで演出、出演した広島英語劇「A Thousand Cranes」(邦題 禎子と千羽鶴)では、約1,000名の現地の子どもたちを招待する。2005年帰国。現在は東京二子玉川をベースに、女優、演出家、演劇講師、そして2児の母として活動中。著書：「宝塚」「アート オブ フェイス」現代書館。

2. 講演内容

登坂倫子さんの体験されたアメリカでのPTA活動、そして帰国後、日本でのPTA活動についてなど、とても興味深くお話を聞くことができました。

アメリカでの「NO」という教育についてのお話がありました。「学校生活の中で『NO』と言ったら褒められた。」という登坂さんのお子様のお話には、大変驚きました。きちんと自分の意思を相手に伝えることができた、先生は褒めたそうです。ここでの「NO」は今使っているものを貸してくれといわれた場合ですが、「だめ！」という拒否ではなく、その後に「まだ使っているから終わったら貸してあげるからね」という順番を守るという教えです。登坂さんの始めは驚かれたとのことですが、「NO」といえることこそ決してわがままから来るものではなく、自分の意思をはっきりと伝えるという意味で大切なのだということに気づかされました。まず、子どもの気持ちを受け入れてあげることが大切であり、親として私たち自身が心がけていかなければならないと思いました。そして「NO」といえる勇気を持つこと、それは大人社会でも大切なことではないかと考えさせられました。

また、アメリカはPTA発祥の地ということで活動もとても盛んだそうです。そして学校行事には地域との協力も欠かさないそうです。アメリカでのボランティアの考え方として「やりたい人が、やりたいことを、自発的に行う」という考え方があるそうです。だからフルタイムで働いている人も、専業主婦の人も、自分で出来る関わり方でPTAの活動をしています。そしてその対象は決して自分

の子どもたちだけではないということです。できる範囲で、できる時間に自発的に行うことにより自発的に関われば、物事はスムーズに回り、やっている本人も満足感が持てるのだそうです。保護者のPTA活動に参加する姿勢にも日本との違いを感じました。保護者の一人一人が自分の子どもだけでなく、他の子どもたちも大切に思い学校をよりよくしていこうと思う意識が高いことです。私たちも子どもたちのために、自分は、今、何ができるのか、何をしてあげられるのか、改めて考えなければならぬと気づかされました。自分ができることを小さなことでも行動する、さらに学校や地域に対して興味を持ち積極的に関わるように親の意識を変えることが、子どもたちの成長にも良い影響を与えるのではないかと思います。

また、アメリカでは小学校の授業にアート（芸術）すなわち音楽、美術、体育の科目が無いそうです。これらは地域の人たちの活動によって補われているそうです。ここにもPTAの役割が大きく関わっています。アメリカではペアレンティング(子育て)は父母の完全なフィフティフィフティ（50：50）の役割だと認識されているそうです。したがって仕事が忙しいとはまったく言い訳にならず、それが出来ない親は常識がないと思われるそうです。「こういう世の中で、子どもたちにプラスになるのがアートだ、そして吸収する感性は小さいうちから育てるものだ」とおっしゃっていました。豊かな感性を素直に吸収できる子どもの今の時間を、有意義に過ごせるように親として出来るだけの努力を惜しまずやってみようという気にさせていただきました。そして五感で感じるすばらしさを子どもにも感じてほしいと思いました。

最後に登坂さんがやってくださったボイスワーク。目をつぶって、自分のことを内側からスキャンしていくという内容ですが、日々の生活でいつも体のどこかに力が入って、頭に中もいっぱいいっぱいになっている日常、そこから一時的に開放してもらえたような気持ちです。目をつぶって心の目で自分の体を改めて見つめなおし、頭の中を空っぽにするという動作自体、あまり経験もありませんでした。新たな自分を引き出せていただけたようなすっきりとした気持ちになりました。

文責：徳永吏絵

第 6 ブ ロ ッ ク

綾 瀬 小 学 校
東 綾 瀬 小 学 校
東 湊 江 小 学 校
北 三 谷 小 学 校
東 加 平 小 学 校
大 谷 田 小 学 校
長 門 小 学 校

- 1 . 日 時 : 平成 1 9 年 6 月 3 0 日 (土)
- 2 . 会 場 : 北三谷小学校
- 3 . 研 修 テ ー マ : 家庭の教育力向上をめざす学校・地域と連携した P T A 活動
- 4 . 分科会テーマ : 第 1 新しい成人活動を目指して
第 2 スポーツを通じて広がる P T A の輪
第 3 楽しみながら学べる、学年学級活動を目指して
第 4 P T A ・ 地 域 ・ 子 ども の 連 携 を 目 指 し て
第 5 よりよい広報紙づくりを目指して
第 6 子ども達を守る危険情報のキャッチ、その後は？

第1分科会 成人

会場校：北三谷小学校

参加者：35名

テーマ「新しい成人活動を目指して」

<事例発表> 大谷田小学校PTA成人教育部 羽野一之

大谷田小学校では、保体と成人教育の活動を一緒に行っている。新年度の引き継ぎ時には年間行事日程が決められている現状で、成人教育部とは何のためにあるのか考えさせられる。主な活動は、運動会のPTA競技、学年対抗バレーボール大会、卓球大会、ペットボトルロケット打ち上げ大会、毎年企画を変える成人教室である。「ペットボトルロケット打ち上げ大会」は、夏休みに学校で親と子が協力してペットボトルロケットをつくり、飛距離とデザインを競うものである。PTA会員により焼きそばやゲームも用意される。毎年300名程の親子の参加があり、父親の参加も多い。開かれた学校づくり協議会との共催なので地域の方々や先生の参加もあり非常に賑わい、全体を一つの交流の場として大きな成果をあげている。その一方で、マンネリ化した活動になりつつある。家庭、学校、地域が一丸となることを考え、改善することが今後の新しい成人活動につながると思っている。

<各学校の活動内容>

大人対象・・・手芸教室（ハワイアンリボンレイなど）ヨガ教室 IT教室 PTAコーラス

親子対象・・・茶道教室 風呂敷の包み方教室 料理教室 陶芸絵付け教室

<討議内容>

- ◆ 成人活動をしているとき子どもの保育はどうしていますか。
 - 条件が整わず保育できなくて、企画側と参加希望者の双方で困っている。
 - 近隣の保育園から保育士を派遣してもらった。（ボランティア）
 - 活動中の体育館の1/3を平均台で区切り、子どものスペースを確保し委員たちで保育していた。
 - 保護者の休憩時間だけ一緒に過ごせるようランチルームを開放した。等
- ◆ 講師は どなたにお願いしていますか。また謝礼はどのようにしていますか。
 - 成人委員の趣味・特技を活かした活動にし、講師は成人委員が行った。
 - 地域のサークル活動をされている方をお願いした。
 - 謝礼は・・・材料費や交通費のみ、菓子折り、商品券、忌憚無く講習料を請求してもらう 等様々
『実費に代わる物や交通費でご理解していただければよいのではないか。』（助言者より）

<助言者のまとめ> 長門小学校校長 林正明先生

マンネリ化を心配する声もありましたが、各学校がアイデアとPTAや地域の人材を活かし、PTAのニーズを取り入れた活動をされていました。「PTAが地域の特色や会員のニーズを活かす」こうした考えに立つことが新しい成人活動であり、研修会の定義にもつながると思います。自信を持って取り組んでください。地域の人材活用は、色々な方に学校やPTAへ関心をもっていただくきっかけとなります。今後はこの情報や人材を学校間で共有する体制を整えていけたらよいのではないかと思います。

文責：徳丸久美 丸岡清美

第2分科会

会場校：北三谷小学校

参加者：37名

テーマ「スポーツを通じて広がるPTAの輪」

<事例発表> 東淵江小学校PTA保健体育委員長 浅野栄子

今年は校内球技大会として、初めての試みで、保体委員会とPTAソフトボールサークルとの共同主催という形をとりました。学校へ足を運ぶ機会の少ない父親も、サークルのメンバーと交流を持つことで、入会に関心をもってもらうのが主な目的です。我が子と一緒に参加しやすいのではと親子参加にしました。当日は雨天でドッジボール大会となりソフトは出来ませんでした。参加された先生や父母、委員、役員、ソフトのメンバー、皆、大いに盛り上がりました。次回は天気にも恵まれて、ソフトボール大会ができれば、と思っています。

<討議内容>

各校の活動を参考に、以下の点を主に討議されました。

行事に参加する人がいつも同じ。対策は...

- ・親子参加にすると、初めての人も参加しやすい。
- ・学年対抗試合にすると、興味がわき当日盛り上がる。練習日を設けると、さらに交流が深まる。
- ・東加平小は、成人委員会と合同のため、行事日に日赤の献血コーナーも設けている。その結果、地域の方々が大勢来校している。スポーツ以外にも目を向けてみてはどうか。
- ・運動会のプログラムに取り入れてもらえると、参加人数が増える（綱引き、玉入れ、障害物競走、アイデア競技など）。
- ・綾瀬小のPTAバレーボール同好会では、毎月通信プリントを発行しており、バレー大会も参加者が多い。企画側の意識が高いと父母に伝わる。

参加品について

- ・飲み物、カイロ・ゴム手袋・ティッシュ等の雑貨、弁当 などを用意。
- ・参加することで充分楽しんでもらえるので、参加品は特に用意しない学校も多数ある。

6ブロックの学校対抗試合をしてみたい（大なわとび、30人31脚など）との案が出されました。

<助言者のまとめ> 綾瀬小学校校長 砥柄敬三先生

情報交換の場として、実情がよくわかりました。「あだち“学び”応援隊」を参考にしても良いでしょう。父親の参加は、実はソフトボールからという例が多いのです。そしてPTA活動へ誘い、他の教育活動へと広がっていくので、保体委員会の役割は大きいと言えるでしょう。ビーチバレーも手軽でおもしろいスポーツです。地少協でも実践しています。卓球も最近人気があります。PTA競技を運動会のプログラムに取り入れる案は、学校の規模にもよるので、一概に是非は問えません。

また、全体のテーマから、家庭教育「いろはがるた読本」（五十嵐正美著）を紹介します。今後は家庭・親子のあり方が大切になってきます。親子が触れ合える貴重な体験を企画していきましょう。

文責：金井ゆきみ 本部けい子

第3分科会 学年学級

会場校：北三谷小学校

参加者：38名

テーマ「楽しみながら学べる学年学級活動を目指して」

<事例発表> 東加平小学校PTA学年学級委員長 新井裕子

「わいわいチャレンジ」という全学年を対象にして、前期後期に親子で楽しく学べる活動を行なっています。前期では安全に楽しく参加できる活動ということで、ペットボトルを利用してのバター作りをしました。200人という多数の参加者があり大好評でした。後期では茶話会形式で子どもの成長と発育に視点を置き、養護の先生に“ゲーム脳”のお話を聞き、話し合いをしてゲーム脳について再認識する良い機会となりました。今後も家族、子どもたちが興味を持って楽しく学べる活動を目指して行きたいと思います。

<各校の活動内容>

大谷田小 おせんべい焼き体験、朝の交通安全指導、ベルマーク運動、他

長門小 親子ミニゲーム、再資源回収、茶話会、他

綾瀬小 自転車安全運転免許検定、大型ペーパーサートを使った読み聞かせと親子お楽しみ会、他

北三谷小 給食試食会、自転車安全教室、他

東湊江小 ボール運び送りゲーム大会、茶話会、給食試食会、他

東綾瀬小 安全パトロール、給食試食会、ベルマーク集計、他

東加平小 親子で楽しいクッキング、茶話会、給食試食会、他

<討議内容>

評判の良かった活動、参加者が多かった活動は？という質問で、特に注目した活動としては、大谷田小の学校の授業の一貫として、5、6時間目を利用しての“おせんべい焼き”体験。毎年3年生が昔の道具を使う目的として七輪を遣う体験をしています。綾瀬小の“自転車安全運転免許検定”は、区、警察、土木課、PTAの4者の話し合いで行なっています。他の学校にとっては写真付の自転車免許証取得に関して、とても活気的な情報でした。学校行事の参加を増やす為には？という質問には、保護者会や学校行事の同一日に活動を企画するという事で参加しやすく考えている学校もありました。又、委員の引き継ぎについては毎年新しい人になってしまう為、前年度の方がなるべく残るように声かけをする学校や前年度の委員から2名残す学校、詳評な内容のノートを残す学校等、どの学校も引き継ぎに苦戦しています。

<助言者のまとめ> 東綾瀬小学校校長 小野寺輝子先生

各学校共工夫していて、火を使うことで保護者の参加を促したり、全学年対象の活動もひとつの方法だと思いました。各学校の意見を聞くことで今後の活動の参考になったのではないのでしょうか。保護者の方には、学校に来ると自分の子どもを見ることができる、学校になるべく足を運んでほしいという願いをこめて、委員の方々が「自分が参加したい」と思えるものを考え、企画していただけたら良いと思います。各学校の人数、規模によって違いますが、今日の話し合いを生かして行ってください。

文責：岡本美幸 大庭恵美子

第4分科会

会場校：北三谷小学校

参加者：38名

テーマ「PTA・地域・子どもの連携を目指して」

<事例発> 東綾瀬小学校PTA学年委員 小林かおる

本校における学年委員は、「朝のパトロール」「給食試食会」「ベルマーク収集」の3つを中心に活動しています。「朝のパトロール」では子どもたちのより一層の安全と事故防止を考え毎朝5箇所パトロールをしているなか、地域の方々も自然な形で朝家の前で挨拶をしていただくようになり、協力していただいております。「給食試食会」では、栄養士の先生に食育のお話をしていただき、家庭での食生活の大切さを学んでおります。「ベルマーク収集」においては、家庭・地域で集めたベルマークで子どもたちの必要なものを購入し役立てております。家庭・学校・地域それぞれに役割があり、その立場をわきまえ力を合わせることで、子供たちが安全に守られつつ、すくすくと伸びやかに育っていくものと確信しております。

<各校の活動内容>

- ・安全パトロール ・給食試食会 ・ワイワイチャレンジ ・移動教室のビデオ鑑賞会
- ・スポーツ大会 ・餅つき大会 ・1/2成人式 ・茶話会 ・ベルマーク収集

<討議内>

PTA主体ではなく、学校の授業、主に総合学習に参加協力することで、地域の方々といろいろな学習が行われている学校が多いことがわかりました。これは活動を行っていく中で、特に学年委員の活動は先生の助けがないとなかなか進まないこともあり、また両親ともに仕事をもつ家庭も増え、参加協力者の減少などPTAだけでは活動がやりにくくなってきているためという意見も出ました。

一方、開かれた学校づくり協議会とPTAが協賛して、地域との関わりを持っている学校もあり、この研修会を通し、開かれた学校づくり協議会に今後の活動のアドバイスをいただくことでPTA主体の活動もできるのではないかと期待を持った学校もありました。

<助言者のまとめ> 東加平小学校校長 佐藤衆一先生

本音の意見で話し合う事ができて、良かったと思います。テーマの中の「地域」との関わりは、開かれた学校づくり協議会とPTAの連携がこのテーマに迫っていくことでしょう。また、「子ども」との連携については、異文化交流・1/2成人式など科目の枠を超えた自由な総合学習の授業の中で、先生や地域の方と一緒に、親子が共に学ぶ場を持つことで実現されることでしょう。PTA活動は親の勉強会ではなく、先生、地域の方、親子が共に親しみ学ぶ場と考えることで積極的な参加も増えることとされます。

文責：田村寿江 櫻村道子

第5分科会 広報

会場校：北三谷小学校

参加者：35名

テーマ「よりよい広報紙づくりをを目指して」

<事例発表> 綾瀬小学校PTA広報調査委員長 岡田晴美

足立区内の小学校からたくさんの広報紙が送られてきますが、つくり方や発行数は学校によって様々である事に気づきます。そこで私たち綾瀬小学校での広報紙発行までの過程をお話させていただきます。

夏休み前・冬休み前・春休み前の年3回の発行に、全校各クラス1名ずつ計25名の委員が委・副を除いて3グループに分かれ活動しています。発行手順として、まず話し合いをしてテーマを決め行事などの日にちの確認をします。それに沿って取材をして原稿を書き、イラストやレイアウトを決めてわりつけをしてから印刷所へ持って行きます。印刷所から一稿が上がリ次第校正をかけ、間に合わなかった分の記事もあわせて二稿を入れて発行、という手順です。印刷所に依頼しているので、パソコンがなくても広報紙づくりが出来ます。よって部員の負担は少なく済みます。それと、代々委・副が前年度から引き継いでいるので全員が初めてということがありません。1年の流れが解っているという点ではスムーズに作業がすすめられているのではと思います。一方で紙面がマンネリにならないように注意しなければいけません。その為にはコンクールへの参加や他校から送られてくる広報紙がよい刺激となり参考になっています。

<各校の質問事項と討議内容>

個人情報保護上、紙面の写真掲載の工夫は？

後ろ姿を載せる 遠目からの写真を使用 体操着などは名前をぼかして写真と名前が一致しないよう心がける

取材の時に気をつけていることは？

取材側、受ける側のスケジュールをしっかりとる 腕章を必ずつける 保護者のいけないような鋸南など学校行事には学校担当広報の先生に取材協力を得る

広報紙依頼の印刷所の探し方は？

何年も前から同じ印刷所を引き継いでいる PTAでカラーコピー機を持ち、作成印刷等全て広報委員でおこなっている

記事はどのようにして決めているのか？

学年便り等学校配布の印刷物と内容がかぶる事がないよう、行事取材はPTAの頑張りなど視点をかえて裏方を取り上げたりと工夫をこらしている

<助言者のまとめ> 東湊江小学校校長 坂入信敏先生

学校に通っていないお子さんのいる家庭でも足立区役所へ行けば各小学校の広報紙を手にとり見る事が出来ます。そういう意味では広報紙は「学校の顔」でもあるのです。学校行事中心の決まった紙面になってしまう「マンネリ化」、これは決して悪い事ではありません。切り口をかえて違った視点からの取材もまた、同じ行事でも楽しい広報紙をつくれるのではないのでしょうか。

文責：植木千秋

第6分科会

会場校：北三谷小学校

テーマ「子ども達を守る危険情報のキャッチ、その後は？」

<各校の活動内容>

各校ともそれぞれ工夫をし安全マップを児童用に作成し直したり、挨拶運動などをとりいれたりしている。登校時の見守り、登校指導、年間を通してのパトロールなど。

<討議内容>

今回の第6分科会（校外生活指導）については、子供達の安全をいかに守るか、又守る為にどのような取り組みをされているのか話し合われた。地域と連携をとりパトロールを充実させたり、朝通学路の危険箇所に関員を配置し児童への声かけを行ったり、中には児童用の安全マップを作成し直していつも遊ぶ場所にある危険箇所を子供達自身にニンシキデキルにデジタルカメラを使って分かりやすく工夫されている学校もあった。そして危険情報に関しては学校がプリントを作成し配布するという学校がほとんどだった。この点については長門小学校では携帯メール連絡網を導入しており、これは危険かつ緊急な情報を一斉に各家庭に漏れなく配信することが出来る点でとても好評を得ている。ただ、危険情報をキャッチしてもそれが事実なのか、重要か、知らせる必要があるかなど、一斉にメール配信する基準や判断を誰がするのか疑問であり、又被害者のご家庭が情報公開されるのをいやがられるという問題もあるということが分かった。やはり安全の基本は犯罪をおこさせない個々の意識や、防犯ポスターの作成、地域のパトロール活動、又家庭が子供達の躰として危険な場所には行かない、しない、知らない人には着いて行かない、夕方までには帰宅するなどといった親子間での約束が一番の抑止力になるのではないかとこの事であった。

<助言者のまとめ> 大谷田小学校校長 大橋利通先生

今回の第6分科会（校外生活指導）で話し合われた内容のひとつに、危険情報の配信方法がありました。学校からの携帯メール連絡網は一斉に各家庭に情報を配信出来るという点では有効だが、携帯を持っていない保護者やせっかく学校から配信を受けても保護者が学校の遠くにいる場合もある。かと言って固定電話による連絡網にしても児童から直接個人情報の聞き出しをするような犯罪につながる危険もあるので決して安全であるとは言えない。危険情報をどう扱うかは各学校の判断で情報の配信の有無を決めているが、今のところは児童にプリントを配布する方法を取られている学校が多い。情報も必要であるが今は子供達に防犯の意識をいかに持たせるかが重要であり、危険に近寄らせない、各児童に注意をさせる事こそが、学校や保護者の方々の勤めではないかと考える。

文責：長門小学校 下嶋麻衣

第 7 ブ ロ ッ ク

中 川 小 学 校
中 川 東 小 学 校
中 川 北 小 学 校
辰 沼 小 学 校
六 木 小 学 校

- 1 . 日 時 : 平成 1 9 年 7 月 7 日 (土)
- 2 . 会 場 : 六木小学校
- 3 . 研 修 テ ー マ : 家庭の教育力向上をめざす学校・地域と連携
した P T A 活動
 サブ テ ー マ : 参加しやすい P T A 活動とは . . .
- 4 . 分 科 会 テ ー マ : 参加しやすい P T A 活動とは . . .

第1分科会 学年委員会1年～3年

テーマ「参加しやすいPTA活動とは・・・」

中川小学校PTA会長吉田氏司会の下、各学校の参加者により、各学校の現状をお話いただいた。

六木小学校の「お父さんの会」は希望者だけで集っており、現在約20名。イベント開催やお手伝いのお願いの連絡は役員がメールにて知らせる。現在ではメールでの連絡方法が負担に思われない。

中川東小学校では、PTAのサークル活動(卓球、等)への参加者が少ない現状がある。これに対し、他学校では入学式の時にプリントにてPR。学年対抗試合を開催する。学校主催の卓球教室の開催。(親子での参加)練習時は子どもと一緒に参加している。PTAのサークルは子どもと一緒に活動できるのが魅力である。教師も一緒にきっかけを作ってあげる。(教師の参加)

中川北小学校では、今年、学年対抗ソフトボール大会を開催予定。学校公開時に大会のチラシをソフトボール部により配布したところ、人が集まった。キャンプの開催も呼びかけてみたが、人がなかなか集まらないのが現状。

辰沼小学校では、現在、「朝のあいさつ運動」を協議会と協力して、毎朝7:50~8:30に正門・北門にて実施中。今後は休日を利用してお父さん達に参加していただけるスポーツ大会を開催予定。

中川小学校では、PTA歓送迎会時に託児として保育ボランティアを募り、ご父兄の方に安心して参加していただけるようにしている。また、校庭遊び場開放を本年度より学校がある平日毎日開催しているが、開催にあたり地域の方々にボランティアとして協力していただいている。(現在約27名)常時100名程度の児童が遊んでいるが、習い事などで入れ替わりがあるので混み合うことなく開催中。

各学校とも創意工夫を凝らし、PTA活動に参加しやすい状況を作っているが、子どもだけを家に残してPTA活動をするのが困難な状況との意見があった。それに対し、参加できる時期は必ずくるので、その時には参加してほしいとの意見があった。

また、学年行事においては、毎年同じことをするのではなく、足立区のHPに載っている無料の講習会を有効活用すると良い。(今年は六木小にて東京ガスの講習会を実施)

中川小学校の校庭キャンプに各学校、大変興味を持った。ブロックの横のつながりを利用して詳しいことは教えることができますので、ぜひ声を掛け合っていきたい。

助言者の意見(中川小学校長 石川和巳先生)

PTA活動への参加が難しいのはそれなりに理由があつてのこと、無関心故とは思えない。今後は、お父さん方の活動への参加が大きな力になる。ソフトボール等のサークル活動などは、すでに仲間ができているところに入っていくのは難しいが、イベント(親子教室、学年対抗、等)としてのスポーツへの参加を一つのきっかけとして楽しみ、そこから無理せず楽しみながら、参加したい時に参加していただくことが大事。また、参加しやすいシステム(託児、等)を具体化していく。本日の意見を各学校で可能な限りどんどん取り入れてほしい。ブロック全体で大きな力を作って、1校では無理なことでもブロックの力で実現していく方法もある。また、PTA活動に人数の基準はない。なかなか委員になってくれる人はいないかもしれないが、集まった人数でやれるだけのことを無理せず、楽しみながらやっていただきたい。それを見た次世代の方々が引き継ぎ巡っていくもの。構えずに無理せず活動してほしい。

第2分科会 高学年

会場校：六木小学校

参加者：24名

テーマ「参加しやすいPTA活動とは・・・」

<各校の活動内容>

2分の1成人式・親子クイズ・親子スポーツ・本の読み聞かせ・PTAまつり（バザー・出店等）

<討議内容>

第二分科会では、主にサブテーマに沿って話し合いました。

委員決めについて

参加した5校とも、委員決めでは大変苦労している。入学時に、何学年でどの委員ができるか？というアンケートをとる学校もあるが、実際にはそのアンケートが生かされてない。また、高学年になるにつれて、仕事を持つ保護者が増え、保護者会の参加率も低くなり、なおさら難しくなる。様々な事情もあるが、もっともっと子どもに関心をもって欲しいということと、日頃お世話になっているお返しという気持ちで、1人でも多くの保護者にPTA活動に参加してほしいと思う。あまり積極的ではない保護者に参加してもらうためには、子どものために参加してあげなくては！！と思ってもらえるような企画を立てたり、低学年のうちから保護者同士の横の繋がりをしっかりともち、「和」を大切にすることだと思う。

PTA = 母親？！

PTA活動は母親がやるということが当たり前になってきている。父親は子どもの学級行事には顔を出すが、深く携わる訳ではないので『お客さん』という感じ。自分の子どもは勿論、他の子どもたちとも直接触れ合うことにより子どもとの会話も増えると思う。また、父親が参加することで、PTA活動がより活発になるのではないかと…。まずは気軽に学校に足を運んでもらうことから始めて『お父さんの会』を立ち上げたり、『パトロール隊』を発足してみるのもいいのではないかとと思う。

<助言者のまとめ> 六木小学校校長 齊藤登先生

PTA活動はボランティア。そこにどう関わってもらうかが課題。

PTA活動に（意義を出す 楽しみを見出す きっかけづくり）この3つがポイントになるのではないのでしょうか。

防犯・学力向上等様々な場面で、学校ではやりきれなくなっているのが現状です。保護者の方々のお力なしでは学校運営は出来ないとと言っても過言ではありません。勿論学力向上に関しては学校側に多くの責任がありますが、そこには子どもたちの集中力や忍耐力も必要とされます。これには家庭教育も多に関わってくると考えます。PTA活動に参加している姿を子どもに見せる...それも立派な家庭教育のひとつではないのでしょうか。

今後とも保護者の方々のご理解・ご協力をお願いいたします。

文責：中山菊代 佐藤有子

第3分科会 成人・保体

会場校：六木小学校

参加者：25名

テーマ「参加しやすいPTA活動とは・・・」

<各校の活動報告>

中川小学校運動会では役割分担があり、委員になった方は責任を持ち協力している。ソフトボール部のお父さん方も協力している。

中川東小学校献血では、地域の若い方々にも参加協力いただいた。今後、お父さん方にも参加をしてもらいたい。

六木小学校土曜目の(かっぱクラブ)を中心に、委員に関係なく当番制で参加協力している。また、パトロール等は、クラス単位で取り組んでいる。

中川北小学校運動会のPTA競技で大玉ころがしを成功させ、献血活動も盛況に終わった。また、OBの保護者が中北まつりに参加している。最近では学年対抗ソフトボール大会を開催し、親睦を図った。

辰沼小学校 80名もの参加のもと給食試食会を開催した。皆協力的で近年一番の盛況だった。

<討議内容>

学校活動に興味が無い人をどの様に参加させるか？

六木小学校の「お父さんの会」MOTの例で、イベント開催のお知らせを送り、できる時に、できることをしてもらおう。

参加しやすいPTA活動とは？

PTA活動の分囲気づくりが必要ではないか？

連絡はメールを活用する。欠席者には、活動内容を手紙で知らせる。

家庭の教育向上をめざす学校・地域と連携したPTA活動とは？

親自身のマナー・教育向上が一番求められている。地域の人にしかられる事も、子供にとっては良い事ではないか。

(助言者のまとめ) 中川東小学校校長 吉岡博明先生

PTA活動は、学校と家庭と地域を結んでいく核となるものだと思う。各学校のPTA活動が発展するよう知恵を出していただきたい。参加しやすいPTA活動のキーワードは「できるときにできることを」になると思う。お父さん達の参加のために皆さんで受け皿を考えてみたらどうか。家庭の教育については、3歳までで概ね人格が決まってしまうといわれている。特にお母さんの影響が大きい。ご家庭では子ども達に声かけをしてあげてほしい。そして子どもと一緒に学校を見ていただければありがたいと思う。

第4分科会

会場校：六木小学校

参加者：23名

テーマ「参加しやすいPTA活動とは・・・」

<各校の活動内容>

- ・中川小 運動会の自転車整理・春と秋の交通整理・パトロール(夏季、非行化防止キャンペーン)
- ・中川東小 運動会の自転車整理・「子どもを守ろう110番」ステッカー作成・パトロール(盆踊り、非行化防止キャンペーン)
- ・六木小 運動会の自転車整理・「子どもを守ろう110番」ステッカー作成・秋のあいさつ運動・パトロール(夏季、冬季)
- ・中川北小 運動会の自転車整理・「子どもを守ろう110番」ステッカー作成・夏季パトロール・持久走の手伝い・交通安全教室
- ・辰沼小 「子どもを守ろう110番」ステッカー作成、回収・パトロール(夏季、盆踊り、非行化防止キャンペーン)

<討議内容>

- ・学区を超えて通学する児童も増えているのに学区にこだわった通学路、パトロールを改善できないか。通学路点検シートを共有できないか。
- ・パトロールは全員参加が難しいのが現状。より多くの方に参加して頂くにはどうしたら良いか。
- ・「お父さんの会」を発足し、パトロールに参加してもらっている学校もある。パトロール中、声をかけづらい児童もいる為、父親にも参加してもらいたい。
- ・青色パトロール隊の推進。
- ・朝の交通整理の人材確保について。

<助言者のまとめ> 辰沼小学校校長 櫻井美代子先生

やって良かったと思える活動が、参加しやすいPTA活動です。校外生活指導部は、子どもや地域の安全に直結する見えやすい活動です。今日のブロック研修会で、各学校の特色ある活動が交流できたこと良かったです。

お父さんをまき込みながら、全員参加を心がけること。また、学区の自由化により更に地域との連携が必要となり、大人が学区・年齢にかかわらず声をかけていくことが校外活動になります。今後も青色パトロール隊を浸透させ、七ブロック全体の安全を守っていきましょう。

文責：斉藤珠恵 浮谷史子

第5分科会 広報

会場校：六木小学校

参加者：23名

テーマ「参加しやすいPTA活動とは・・・」(広報委員会)

<各校の活動内容>

中川小学校	「なかがわ」	年3回発行	A4	8面
六木小学校	「むつぎっこ」	年3回発行	A4	4~8面
中川東小学校	「なかがわ東」	年3回発行	B5	8面
辰沼小学校	「たつぬま」	年3回発行	A4	8面
中川北小学校	「あしはら」	年3回発行	A4	4~6面(号外あり)

<討議内容>

各校ともに「広報委員は大変である」と、言う認識が強く、なかなか継続してくださる方がいないため、毎年引継ぎがうまくいかないのが現状です。せめて、任期を2年ずつ半数交代制にすれば引継ぎが上手くいくのでは？という意見もありましたが、年々家庭の事情も複雑になりそれも難しいようです。

仕事をしながら活動に参加する為には連絡を密に取り、役割分担を決めて無理のないように、「楽しみながら」できるようにしていけたらよいのではないのでしょうか。「自分の知りたいことは、みんなも知りたいはず。」これを基準に、普段は広報委員でなければ見られない学校行事の中身を取材する楽しさを実感してもらえれば、やり遂げた充実感が得られて次回への活力になると思います。また、パソコンやプリンタの性能も上がり、カラーの広報誌に切り替えた学校から、見た目もよく、より多くの人に読んでもらえるという報告に、カラーではない広報誌の学校もそれぞれに読みやすく、目を引く見出しなどの工夫と自分から「作ってみたい広報誌」を今後の課題としていければよいのではないのでしょうか。

<助言者のまとめ> 中川北小学校校長 沼野みどり先生

PTAの活動についていつもお話していることは、ボランティアでありますから「楽しみながら参加して、やってよかった」と思えるようにしていただきたいです。それでも仕事をしながら、介護をしながらなど家庭の事情もさまざまですが、「無理をせずに自分も参加できた」と自信を持って広報活動を行い、それを次の人に伝えることができれば、なり手が増えるのではないのでしょうか。また、学校(校長・副校長)は長年広報誌を見てきています。どんなことでもいいですから、ぜひとも疑問、質問などがあったら、遠慮なくしてください。学校側の人間として、PTAの活動には喜んでご協力いたします。

文責：酒井栄美子 橋口直美

第 8 ブ ロ ッ ク

青 井 小 学 校
加 平 小 学 校
栗 島 小 学 校
東 栗 原 小 学 校
平 野 小 学 校

- 1 . 日 時 : 平成 1 9 年 9 月 9 日 (土)
- 2 . 会 場 : 栗島小学校
- 3 . 研 修 テ ー マ : 家庭の教育力向上をめざす学校・地域と連携した P T A 活動
- 4 . 分科会テーマ : 第 1 地域に学び、地域とかわる
第 2 成人教育委員会活動で出来ることは
第 3 「はっとさせる広報紙～」より多くの保護者に家庭教育と P T A 参加の大切さを伝えるには
第 4 P T A の校外指導活動への理解と協力について
第 5 開かれた学年学級活動とは

第 1 分科会

会場校：栗島小学校

参加者：35 名

テーマ「地域に学び、地域とかがわる」

<事例発表> 平野小学校 P T A 副会長 田邊由美子

平野小では地域学習、地域の方々との連携を深めるため多くの土曜事業、地域公開講座を計画しました。すでに定着している土曜事業の「スポーツひろば」「子どもの本を読む会」の他に地域公開講座として焼き物やソロバン、工作など様々な企画を年 10 回行う予定でいます。地域の方々と接することで顔見知りになり、挨拶を交わし、知恵・技など学力とは違う大切な何かを保護者も子どもたちも得られるのではないかと思います。色々と創意工夫をし、学校が孤立しない、地域とかがわりあえる学校づくりをしていきたいと考えています。これからの平野小の目標として「P T A という形から PTCA へ」を目指し活動していきたいと思っています。

<各学校の活動>

東栗原小学校 ひがくりっ子まつり、肝だめし(チチの会主催)など

加平小学校 ビーチバレー大会、ドッチボール大会、かへい祭り、大豆作り(オヤジの会主催)

栗島小学校 栗島サマーフェスタ、あかしあ園ふれあいフェスティバルなど

青井小学校 あおいっ子フェスタ、4 つ星通信、漢検、行事アンケートなど

平野小学校 地域公開講座(年 10 回)、子育てセミナーなど

<討議内容>

地域とのコミュニケーションをどの様にとっているのか。町会などで行われるイベントに学校側からも呼びかけをする、逆に、学校側のイベントには地域の方々も参加しやすい企画を提案するなど各校工夫をしている。また、保護者に対してもっと P T A 活動に参加協力を得るためにはどうすればよいか等のアンケートを実施し日時等を検討する学校、お父さん方主催のイベントを行い大盛況を収めた学校、イベントの際のお土産をカレーセットにした学校など活発な意見交換の場となった。

<助言者のまとめ> 平野小学校校長 鋪野久男先生

最近、子どもたちを取り巻く環境が変化する中で、P T A に対する期待はますます大きくなっています。熱気に満ちた教室で、各校のすばらしい実践の発表がありました。各ブロック P T A 相互の討議、情報交換を通し、ブロック及び各校の P T A 活動に今後生かせることを期待すると同時に足立区立小学校 P T A 第 8 ブックの益々の発展を願っております。有り難うございました。

文責：江尻雅美 堀田ユカエ

第2分科会 成人

会場校：栗島小学校

参加者：37名

テーマ「成人教育委員会活動でできることは」

<事例発表> 加平小学校PTA成人教育委員会委員長 齊藤洋子

加平小の委員会活動では、毎年定例的に行っているのが「給食試食会」です。給食には豆や小魚、海藻類が多く調理され、一手間かけられた献立を提供されています。今日では食生活全般に洋風化が進み馴染みが薄くなってきている食材をぜひ栄養バランスを一番に考えながら、私達母親は命をつなぐ大切なものとして子供たちに「食育」を伝え続けていく責任があると思います。そして、毎日が楽しい食卓であることを心がけていきたいです。そのサポートをすることも、委員会の活動として成立するのではないかと考えます。

<各校の活動内容>

青井小 家庭教育向上を目的とする学校・家庭を結ぶ「知恵袋通信」年5回発行

加平小 給食試食会手芸教室(ビーズの携帯ストラップ)

栗島小 クラス対抗ビーチボールバレー大会救命救急講習会

東栗原小 給食試食会陶芸教室冊子「ひがくりっ子」発行

平野小 ぞうり作り教室子どもの本を読む会ポーセラーツカップ作り

<討議内容> 成人教育委員会活動における企画アイデア等

成人教育委員会の主な活動は、給食試食会・スポーツ大会・陶芸・手芸・料理教室等が多く、各校で共通していることは、関心をよせていただける活動を企画することに苦慮しています。例えば、「給食試食会」は事前に各家庭にアンケート調査をし、人気のメニュー・食べてみたいメニューに焦点を絞り決定します。一方で、スポーツ大会はチームワークが良く、意気揚々と毎年楽しみにしていただいている方も多いようです。また、陶芸にも興味が集まり、図工の先生にご協力いただき、陶芸教室も多数参加されています。従来はこのような活動で保護者の親睦を深める場を考案してきましたが、近年、新たな取組みとして、先生方にアドバイスをいただきながら、身近な情報提供や得する豆知識等を定期的に発信し、好評を得ている学校もありました。

<助言者のまとめ> 加平小学校校長 富田勇次先生

PTA役員を積極的に努めてくれる保護者が各校少なくなっている中、委員会活動の企画及び参加者を募ることはたいへんなご苦労があると思いますが、皆さんと活動している過程で楽しんでいる自分を見つけることも必要なことで、自分が笑顔でいられると自然と周りにも笑顔の人々が集まってくるのではないかと思います。特に、学校行事・PTA活動等に関心が無い人、一度も来校されたことのない人にも自分の経験談を伝え誘ってみてはいかがでしょうか。PTA活動に参加することにより、子供の共通の悩みも情報交換することで解決したり、お互いの親睦も深まることで教育力の向上にもつながっていくのではないかと考えます。

文責：金柁浩代

第3分科会

会場校：栗島小学校

参加者：40名

テーマ「はっとさせる広報誌～より多くの保護者に家庭教育とPTA参加の大切さを伝えるには」

<事例発表> 東栗原小学校PTA広報委員会副委員長 久保田麻抄代

必ず読んでもらえる広報誌を作る為に、「記事の内容」と「レイアウト」を工夫しています。「記事の内容」では、行事の結果報告だけでなく、それにまつわる「苦労話」「感動秘話」をリサーチします。

「レイアウト」では、写真やイラストを効率よく使い、ページによって項目をかえるなど同じようなデザインが続かないようにします。人目を引く広報誌を作ることは、保護者が学校に興味をもつことになり、PTA活動の参加へつながる事と考えています。

<各校の活動内容>

青井小学校	「あおい」	年5回発行700部
加平小学校	「かへい」	年5回発行400部(号外含む)
栗島小学校	「くりしま」	年3回発行800部
東栗原小学校	「東くりはら」	年3回発行550部
平野小学校	「ひらの」	年4回発行550部(運動会当日速報含む)

<討議内容>

*魅力ある広報誌作成の工夫について

記事の内容が毎年同じようにならず、保護者の知りたいことやタイムリーな話題を載せている。

写真やイラストを多くし、貼り方等にも工夫をする。

カラーにして目を引くようにしている。

*全委員が活動に参加できるような取り組みについて

働きながら委員をしている人が多く、みんなで集まって作業をすることが難しくなってきているので、集まれる時間帯・曜日でグループ分けをしたり、初めにおおまかなスケジュールを決めている。

パソコンのメールを使って記事を送信して、集まる回数を減らす工夫をしています。

<助言者のまとめ> 東栗原小学校長 瀧常晴先生

限られた中で広報誌を作っていくうえでは企画が大切です。記事の内容にボリュームや驚きを加えて、作ることの楽しさを考えながらやっていると良いと思います。情報をたくさんもっている中で広報誌を作り、それを学校活動にもいかして頂きたいです。

文責：馬場康子 澤根玲子

第4分科会 校外

会場校：栗島小学校

参加者：51名

テーマ「PTAの校外指導活動への理解と協力について」

<事例発表> 青井小学校PTA校外委員会委員長 山内遥

青井小校外委員会では、従来の活動「夏休みパトロール」に加え、昨年より全会員による「見守り街角隊」の活動を行っている。当番制ということもあり出席率は85%だが、夏休み地域パトロールは年々、出席率が低くなっている。子供の安全を確保する為には、保護者・先生・地域が「三位一体」となり協力する事が必要で、地域の方にもパトロールを、お願いしている。見守り時に交わす挨拶は、安全な環境作りにも繋がるので、根気よく活動を呼びかけ、多くの方が参加し易い活動を目指している。

<各校の活動内容>

加平小学校 = クリーン作戦、夏休み地域パトロール、加平まつりの協力

東栗原小学校 = 登校時間の馬だし、地域パトロール、ひがくりっ子まつりの協力

青井小学校 = 校外パトロール、夏休みパトロール、見守り街角隊、あおいっ子フェスタの協力

栗島小学校 = 朝の安全指導及び馬だし、夏の地域パトロール、栗島サマーフェスタの協力

平野小学校 = 夏休み校外パトロール、8・3運動見守り活動

<討議内容> 討議内容は、主に以下について意見交換をした。

携帯電話は、便利ではあるが犯罪や事件に発展する可能性もある。最近、子供同士の過激なメールがいじめへと発展し、マスコミでも多く取り上げられている。各家庭でも、危険性をふまえて、使い方等を充分話し合った上で、持たせるべきである。(加平小)

地域パトロールの参加者が減り、手紙や連絡網といった従来の方法にも制約がある。パトロールに参加すると危険性がわかるので、積極的に参加を働きかけていきたい。(東栗原小)

隣り合う学校同士、パトロールコースを交換し協力していく必要がある。また、各々の学校の委員長同士が、連絡を取り合い情報交換していくと、効果があると思う。(青井小)

綾瀬警察に、子供110番ステッカーを貼っている家庭の名簿を作成し提出する事で、保険対象となる。8・3運動等、既存の活動に綾瀬警察が加わる事で、横の連携が強くなると思う。(栗島小)

子供が学校に在籍していない家庭にも、子供110の番ステッカーをお願いしている。学校の配布物を地域に配布する等、学校の活動を地域の方に理解して頂く必要がある。(平野小)

<助言者のまとめ> 青井小学校校長 後藤 とも 先生

PTA校外活動は、学校に子供を通わせる保護者全体の安心に繋がっている。忙しい時代には、いつでも、誰でも、どこでも出来る活動を広げ、多勢で少しずつ協力していくことが、大きな安全の力になる。8・3運動、子供110番のステッカー張付等、まず、第一歩をふみ出して頂きたい。そして、楽しんで活動をして頂きたい。地域では、様々な情報が流れることがあるが、まず、綾瀬警察のホームページや直接関係者に確認し、正しい情報を得ることが大切です。

文責：長谷川しのぶ 高橋真由美

第5分科会 学年学級

会場校：栗島小学校

参加者：49名

テーマ「開かれた学年学級活動とは」

<事例発表> 栗島小学校PTA学年委員会委員長 藤田千明

栗島小の学年学級活動としては、PTAのメンバーに子供たちの生活に密着した、魅力ある活動を提案していき、参加者を多くすることを目標にしています。私たち保護者が楽しく活動しているという姿を子供たちに見せることで、子供たちも一緒になって楽しむことができると思います。その為に多くの保護者に参加してもらうような工夫が必要になってくると思います。「いっしょ」という重要性をもう一度考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

<各校の活動内容>

- ・加平小学校 ミサンガ作り、リース作り、移動教室のビデオ鑑賞など。
- ・東栗原小学校 着衣水泳・プール参観、スイートポテト作り、移動教室のビデオ鑑賞など。
- ・青井小学校 えんぴつ持ち方教室、あんしん教室、薬物乱用防止教室、移動教室のビデオ鑑賞など。
- ・平野小学校 プール見学、給食試食会、移動教室のビデオ鑑賞など。
- ・栗島小学校 給食試食会、プール見学、親子昔遊び・ゲーム大会、移動教室のビデオ鑑賞など。

<討議内容>

参加者をつのる為の各校の工夫点、行事の日程の決め方

- ・ 移動教室のビデオ鑑賞の後に運動系の親子行事を組み合わせている。
 - ・ リサイクル活動（古紙、空き缶を学校で回収）に多くの参加があった。
 - ・ 授業参観、保護者会の後に行事を行なう事で多くの参加を得ている。
 - ・ 親子農園を活用し、収穫を親子で行なっている。
- 委員決めはどのように行っているか。
- ・ 各校共、アンケートを取り、それを元に委員決めをしている。アンケート未回収の方へは再発行している学校や、委員が決まらない場合は、まだ引き受けていない方のお子さんにくじ引きを引いてもらい決めている学校もありました。

<助言者のまとめ> 栗島小学校校長 齋藤由隆先生

学年学級活動は、マンネリ化とってしまうが、この学年には大切な恒久事業と思って欲しい。

定着している行事は、次年度の委員の方々も事例があるということで不安が削減できるのではないのでしょうか。学校側としては保護者会のあり方を工夫をしていくという課題もあると思う。

PTAに関わっていくのは、交友関係を広め、自分自身の楽しい老後の為と思い積極的に参加して楽しんでもらいたいと願っている。

文責：伊藤靖子 広木みちよ

第 9 ブロック

花 畑 小 学 校
花 畑 第 一 小 学 校
花 畑 西 小 学 校
桜 花 小 学 校
花 保 小 学 校

- 1 . 日 時 : 平成 1 9 年 7 月 7 日 (土)
- 2 . 会 場 : 花畑小学校
- 3 . 研 修 テ ー マ : 家庭の教育力向上をめざす学校・地域と連携した P T A 活動
- 4 . 講 演 会 テ ー マ : 思春期をむかえるにあたり、子どもへ親の関わり方
- 5 . 分 科 会 テ ー マ : 第 1 執行部としての役割と運営のあり方について
第 2 子どもたちが楽しめる学年学級活動について
第 3 P T A 活動における大人の教育活動について
第 4 みんなに読んでもらえる広報誌づくりについて
第 5 校外における安全と防犯について

講演会

会場校：花畑小学校

参加者：120名

テーマ 『思春期を迎えるにあたり親の子どもへの関わり方』

講師 東京保護観察所
保護監察官 里見 有功先生

思春期の一步手前の小学生、その時期の子どもたちとはどう接したら良いのでしょうか。

“荒れて当然”の思春期に静か過ぎるのも問題で、素直で真面目だった子が中学生ぐらいになって非行や問題行動を起こしてしまうのは、小学校時代に子どもたちの心の中に起きている事がとても大きいのに、なかなか周りの親・先生・カウンセラーも気づきにくくなっているという事が言えます。例えば、小さな頃から虐待や育児放棄を受けたりという基本的なところでつまずきのある子は難しいですが、幼稚園、保育園、小学校低学年ぐらいの時に、きちんと親に関わってもらった子というのは思春期の波の中で色々な事があっても戻って来られるようで、問題行動の目立つ子ほど敏感に、親がどう関わってくれているかを感じ取るようです。

最近では年間約12,000人の子が補導されていますが、その少年たちと少し危なっかしいところに近づきながらもうまく乗り越えていける子たちに、どんな差があるのでしょうか。

たくさんの少年たちに行った『親との関わりについて』のアンケートで非行少年と普通の少年と、どちらの少年にも当てはまり、差が出なかったのは『悪いことをした時に叱られた』でした。

一方、大きな差が出たのは

『運動会や参観日等の学校行事に参加してくれた事が無い』『誕生日を祝ってくれた事が無い』『発表会等に来てくれた事が無い』でした。

悪いことをした時に叱られるのは同じでも、良い時や節目の時に認めてもらえる事が大切で、自分の存在

を認められている子は非行に走りにくいようです。

また『人が犯罪に走らない理由はどんな要素が大きいか』というアンケートには

法律で決まっているから

親や家族に迷惑をかけるから

良心が咎めるから

の三択で答えが用意されましたが非行少年では を、普通の少年では を選ぶ事が多く、 は犯罪への心のブレーキとしては弱く、 は強い傾向があるようです。

もうひとつ、小学生に親からのどんな言葉が嬉しいか、傷つくかというアンケートをスクールカウンセラーが行った結果ですが、

傷つく言葉は『お兄ちゃんは出来たのに、あなたは出来ない』『友達の 君は出来るのに・・・』等、他人と比較して叱られる事で、

嬉しい言葉は

3位が『ありがとう』2位が『頑張ったね』や『よくやったね』、そして1位は『おかえり』でした。

『おかえり』

意外に感じるかもしれません。でも、それがとてもホッとする言葉なのです。

毎日言われれば当たり前になるのかもしれません。でも、忙しい両親から時折でも『おかえり』と言われる事で我が家を感じ、安心する事ができる。ですから、言える時には『おかえり』『ただいま』を言ってみてください。親に反抗しようが、罵倒しようが、暴力を振るおうが、心の中では親や家庭を求めている。その心を大切に、わが子だけでなくあらゆる人に『おかえり』と言ってみてください。

第1分科会 運営

会場校：花畑小学校

テーマ「執行部としての運営の役割とあり方」

<各校の現状報告>

- ・花畑小学校・・・役員（特に部長）を引き受けてくれる方が少なく、本年度よりPTA執行部が5役を兼任している為負担が増えているため見直す必要がある。
- ・花畑第一小学校・・・共働きの方が多く、興味があってもなかなか役員を引き受けられない人が増えている為、毎年決まるまで時間がかかる。
- ・花畑西小学校・・・CAP活動を3年前から行っている。本年度より成人委員と学年委員に行ってもらっています。委員選出方法も変更、委員履歴カードを全児童分作り何年生のときに何の役員を行ったか書いてもらうようにした。決まらないときはこのカードを使い、最後は履歴のない人でくじ引きを行ってもらった。
- ・桜花小学校・・・役員会などの時になかなか全員の時間が合わないのが揃わないので困る時もある。
- ・花保小学校・・・今年度より係り制度にした。分担が大変だが、先の運動会では係りの人数が増えた為成功した。

<各校問題点及び活動の質疑応答>

CAPとは？・・・「暴力防止プログラム」です。何か自分の身に起きたときに、子どもは自分の力で立ち直ったり、解決したり出来るようにする為。また保護者は自分の子どもへの対処の仕方などを学ぶものです。花西では保護者・2年生・5年生・教員（本年度より）が受講しています。とても役に立つものなので他の学校でも取り入れてもらいたい。予算がないので取り入れられない所もある。

運営委員の決め方・・・まず仕事の中身を見直し、減らせるところを減らし1年間のスケジュールを各委員さんに最初にどこに出席するかなどを決めてもらった。係り制度を導入し、全員に係りを引き受けてもらうようにした。係りの中で長を決めてもらい運営は係長さんと打ち合わせをすることにした。人数が少ないので兄弟のいる方も兄弟の人数分係りを行ってもらっています。但し、兄弟で同じ係りは出来ないことにしてある。パソコンでデータベース化してある。

ポイント制を取り入れた。ポイント制とは会議に何回以上でたらOKなど。

運営の役割・・・一番の役割は苦情処理と先生と保護者の間のクッションの役目を果たすこと。

<助言者のまとめ> 花畑第一小学校校長 米澤利正先生

どこの学校も苦勞があるが、仕事の量を減らしたり、1年間のスケジュールを最初に出したりすると引き受ける方もやり易いですし選びやすいと思います。良い点はどの学校もうまく取り入れていけばいいと思います。また、コミュニケーションを取っていればやりやすいし新しい方も入りやすいのではないかと思います。パソコンの導入なども良い方法だと思います。

文責：坂本真理 服部裕希江

第2分科会 学年

会場校：花畑小学校

<各校の活動内容>

- 花畑第一小学校 運動会手伝い・各行事への手伝い、参加・学校授業の一環として参加・ブロック研修会・リーダー研修会
- 花畑西小学校 プレゼント用アルバム作り・お話し会・音読カードのカバー作り・親子で遊ぼう昔の遊び・写真たて作り・オータムフェスタ出店
- 桜花小学校 各行事への手伝い、参加・リーダー研修会、ブロック研修会・PTA会費集金手伝い・学校公開時パトロール・桜花まつり出店・各学年行事の開催、参加
- 花保小学校 各学年学級行事・ブロック大会
- 花畑小学校 リーダー研修会・ブロック研修会・ビーチボールバレー大会懇親会・子どもまつりへの協力・茶話会・学校公開受付

<討議内容>

- 花畑第一小学校 学年行事の関わり方が一昨年より変化した。学校側からの声掛けで、授業に参加する形に変わってきた。最初は参加の仕方がわからず大変でしたが、先生方もなれてきたので上手く流れている。授業の様子が判るので、保護者の参加が増えた。
- 花畑西小学校 各学年に任せている。授業で七輪等を使用するなどの際に、学年行事を組みこみ参加するときもある。
- 桜花小学校 学年行事以外の行事のお手伝いが多い。内容はその年の委員がやりたい事をやっている。先生方からお手伝いの要望はない
- 花保小学校 新たに委員の他に「係」を作った。「係」の制度が上手くいけば、今後も続くと思う。おかげで、学年委員は学年委員の仕事のみに集中できる。
- 花畑小学校 各学年に任せている。先生からの声掛けで、生活科の授業に参加する場合もある。学年行事活動時間は2時間もらっている。

授業に参加している学校は、ほとんどが生活科の授業に参加するが多い。その際、学年行事費は使用せず、教材費を使用するなどしている。学年活動に集中できるところは、委員会の回数を少なくしたりしている。全体の集まりが多くてもムダ話になりがちという意見も。また、学年委員の魅力は保護者から企画を持ちこめること。保護者から色々な声を集めて考えていくのも大切なのではないかという意見もでした。

<助言者のまとめ> 花畑西小学校副校長 渡辺雅也先生

まず、学年活動とかが必要なのかと言う所から考えてもらいたい。「やらされている」と思うとつまらないので、「やろう」という気持ちからスタートしないと、保護者の皆様もつまらないのでは。行事の相談を受けた時に考えることは、安全が確保されているかが第一です。時代により、行事内容に規制が出来てしまっているが、子ども達は保護者と一緒に行う学年活動を楽しみにしているし、楽しんでいる。工夫して、今出来る事をやってほしい。先生方に相談するのもよいのではないだろうか。

文責：野澤恵子

第3分科会 成人

会場校：花畑小学校

参加者：18名

テーマ「PTA活動における大人の教育活動について」

<各校の活動内容>

花畑第一小学校 フィリピン料理・中華料理教室 講演会「命について」
花畑西小学校 給食試食会の及び保護者CAP 指編み教室
桜花小学校 桜花小祭り 展覧会（コースター作り）
花保小学校 運動会PTA競技（玉入れ）運動会パトロール（運動会係 100名強）
花畑小学校 運動会PTA競技（追いかけて玉入れ）催し物（秋予定）

<討議内容>

各校とも、行事や催し物の参加者が少ない事が共通の問題点ですが、工夫をしている点や、好評な事例などを発表しました。

- ・ PTA活動に参加しやすい様に、時間を朝と夕方に分けている。
- ・ フィリピンや中国の保護者が増えているので、その方達も進んで参加できるような催しを企画した。（フィリピン料理教室）
- ・ 全員参加型のPTA活動を目標に、今年度より係制度をスタートした。
- ・ 「命について」の講演会（渡部成俊さん）を企画している。自殺者が増える昨今、命の大切さを考える機会にして欲しい。
- ・ 給食試食会は、高学年の保護者の参加が少ないが、食育は家庭での指導が重要なので各学年でバランス良く参加してもらい、大人の勉強に役立てて欲しい。

<助言者のまとめ> 花畑小学校校長 絹順一先生

成人部の活動は、PTAの絆や親睦を深めるためには どういう活動を行えばよいのか？

大人として更に高めていくにはどういうものを補っていくべきか？

を考えて取り組む事が必要です。楽しいからだけでは、大人の教育活動にはならないが、楽しくなければ人は集まらないというジレンマがあります。バランスを保ち、楽しいだけでは終わらず、その後子ども達に還元される活動を心がけて下さい。

文責：倉持幸恵 笹沼亜紀子

第4分科会 広報

会場校：花畑小学校

テーマ「みんなに読んでもらえる広報誌づくりについて」

<各校の活動内容>

花一小 年2回の広報誌の発行。印刷は印刷会社に頼み、今年からカラー印刷にしました。

委員の選出は、基本的には、各クラス2名です。

花西小 年2回の広報誌の発行で班別に担当しています。職員室のプリンターを借りて印刷をしているので、安い印刷会社があれば教えて欲しいです。委員は学年ごとにクラス数の人数を選出しています。

桜花小 年3回の広報誌の発行で3回とも全員で担当しています。印刷はコピーの業者に頼んでいて、予算が少ないのでカラーにできません。委員はクラス2名以上で選出しています。

花保小 年3回の広報誌の発行で班別に担当しています。印刷は印刷会社に頼み、白黒です。昨年、足立区のコンクールで最優秀賞をいただきました。みんなの色々なアイデアがあり受賞できたと思います。

花畑小 年3回の広報誌の発行で班別に担当しています。職員室のプリンターを借りて4ページはカラーで4ページはPTAの印刷機で白黒で印刷しています。委員は基本的に各クラス1名以上で選出です。

<討議内容>

- ・ 広報誌に写真を載せる際に子どもの顔がはっきり判らない様にしているか。
ほとんどの学校が判らないようにしている。
助言者の石井校長先生より、親の許可なしで子どもの顔が判るように写真を載せてはいけないとのことでした。
- ・ 予算が少なく印刷に苦労している。委員の人数が足りない。
各校とも印刷に苦労している。委員も名前だけの人や仕事をしていて、あまり参加できる時間のない人などがいて負担が片寄ってしまう。すると広報委員をやってくれる人がいなくなってしまうという悪循環になっている。

<助言者のまとめ> 桜花小学校校長 石井勉先生

一般的に広報誌というと、一番取材しやすい学校行事がありますがそうすると適時性があるので、10月に発行するのに5月の運動会などを載せるのはどうかなあということがあります。みんなに読んでもらえる広報誌というと、レイアウトやキャッチコピーが重要になると思います。電車の中刷りや週刊誌の見出しなどを意識してみると良いのではないのでしょうか。

どの学校も広報誌を作成するのに苦労していると思います。みんなで集まり話し合いの中で、自分が知らなかった部分を教えあって保護者同士の良い関係をつくり、発展させ、自分を成長させる良い機会、良い出会いの場になってくれたらいいと思います。会議が多いからなあとかではなく、そういう事をプラスと考えてこれからも頑張っていたいただけるとありがたいです。各学校の広報委員同士のつながり、横の連携も充実するといいと思います。

第5分科会 校外

会場校：花畑小学校

参加者：25名

テーマ「校外における安全と防犯について」

<事例発表> 花畑第一小学校PTA会長 小柳進

先日、神明町付近で子供の後を付いてくる不審者が現われました。昨今、子供を取り巻く事件、事故が多発している中で、各校のパトロールの取り組み方について意見交換したいと思います。

各校の活動内容

花畑小学校：各クラスで夕焼けチャイム15分後、2チームに分かれて門の前や公園を中心にパトロール（通年）、夏休みは行なわれていない、盆踊りパトロール

花畑第一小学校：全校保護者対象で、夏休み前半・後半に分けて5コースにてパトロール

花畑西小学校：子供会にて班を結成、登校班制度を取り入れていて毎朝当番で旗持ちをしている。交通安全の時期は校外委員にて行なう。夏休みは登校班、ブロックに分かれて（3～4人）自分たちの地域周辺をパトロール

桜花小学校：子供会の中に校外委員会を設置。登校班を取り入れ6月半ばから10月半ばは毎週金曜日、夕焼けチャイム後のパトロール（校外委員は関わっていない）、校外委員による夏休みパトロール、酉の市パトロール

花保小学校：4月のみ下校班を導入して1、2年の保護者、校外委員により交差点での見守り。夏休みは行なっていないが、盆踊りのパトロール実施、クラス別防犯パトロール

<討議内容・問題点>

パトロール中 ・中高生の喫煙を目撃した場合、男子生徒だと恐くて声かけられない。

・中学生は制服でないと、どこの学校だか分からず連絡が出来ない。

下校後の事例 ・スポーツセンター隣接のプールにて、ロッカー使用後に返却されるお金を持った子供たちをターゲットに小学校高学年、中学生が待機している。

・ゲームを持って出かけた子供が、カバンごと盗まれた。

何れにせよ、子供のみで出かける場合は、お金、ゲームを持たせないことが好ましいが、子供自身にも警戒させる必要がある。又、中学生以上の場合、すみやかに警察に連絡、その後、学校が判明できれば連絡することが望ましい。

<助言者のまとめ> 花保小学校校長 斉藤涼子先生

各校保護者の情報提供がより早い対応につながります。子供たちはとても無防備なのでパトロールの中で視野が広がるように声をかけてください。又、防犯は校外委員だけで活動するのではなく、保護者が一緒になって取り組んでいただきたいと思います。

これからも5校で情報交換をして、校外活動がより充実していくことを期待しています。

文責：上田実由紀

第 1 0 ブロック

竹の塚小学校
保木間小学校
西保木間小学校
渚江小学校
渚江第一小学校
中島根小学校

- 1 . 日 時 : 平成 1 9 年 1 0 月 1 3 日 (土)
- 2 . 会 場 : 渚江小学校
- 3 . 研 修 テ ー マ : 家庭の教育力向上をめざす学校・地域と連携した P T A 活動
- 4 . 分科会テーマ : 第 1 人間関係を円滑にする成人教育部の活動
第 2 アンケートを通して P T A 会員の声を地域に
第 3 親と子の笑顔を創る校外育成部
第 4 早寝・早起き・朝ごはん
第 5 子どもと地域を結ぶ P T A の役目

第1分科会 成人

会場校：湊江小学校

参加者：37名

テーマ「人間関係を円滑にする成人教育部の活動」

<事例発表> 西保木間小学校PTA成人教育部長 古木淳子

本校成人教育部では今年度からの主な活動は『開かれた学校づくり協議会』の活動補佐となりました。しかし現状は数名の部員が各活動を順番でお手伝いする形だった為、部員同士の交流が図れませんでした。そこで「皆で協力して独自の活動を！」をテーマに話し合いました。その中で『成人教育部の役割』についても改めて考え、保護者の成長を促し、保護者同士のつながりを深めること。という意見が出ました。それを踏まえ考えた結果、多くの保護者は子育て中の親ならではの悩みを抱いた事がある点と本校にはスクールカウンセラーがいらして保護者も相談できるが、カウンセリングとはどんなものなのかよく分らない保護者も多い。もっと身近にスクールカウンセラーを知ってもらいたい。ということから『スクールカウンセラーの講演会』を計画いたしました。先生のお話を聞くだけの講演会ではなく、参加者同士のコミュニケーションが図れる形式の会を計画し、新たな親のつながりを作り、深めていきたいと考えています。また、子供たちの健全な成長に必要なのは、大人が学校・地域・PTA活動に関心を持ち、連携して子供たちを見守る体制作りと考えます。そのためにも円滑な人間関係は必要不可欠です。今後、成人教育部は保護者が参加しやすく実りある活動を検討し、多くの保護者の交流を深める活動をしていきたいと思えます。

<各校の活動内容>

給食試食会、花だんの手入れ、献血、ソフトボール大会、ボランティア活動、救急救命講習会など

<討議内容>

参加しやすい活動の工夫では、保護者が何に興味を持っているのかを考え内容を検討する。授業参観の日に合わせるなどして父親の参加を増やす努力をしている。子どもと一緒にできる活動を考える。先生やPTAソフトボール部の協力を得ながら活動している。などの意見がありました。それでも参加者が少ない場合には部員が個別に参加を呼びかける電話をしている学校が多くありました。

<助言者のまとめ> 竹の塚小学校校長 横山準一先生

成人教育部の役割とは保護者のつながりを深め、成長を促し、社会に貢献する活動だと考えます。現在はつながりを深める活動を重視している傾向があり、それは今、求められているからでありとても大切なことです。つながりを深めた上で成長を促す活動をし、更に社会に貢献する活動、この三つを一年間にバランスよくできると理想的です。また、学校の先生の参加は保護者の参加への興味につながります。美術館見学や企業の施設の利用など新たな活動に目を向けてみるのもよいのではないのでしょうか。

文責：渡邊智子

第2分科会 広報

会場校：瀏江小学校

参加者：30名

テーマ「アンケートを通してPTA会員の声を地域に」

<事例発表> 保木間小学校PTA広報部部長 水野美根子

保木間小学校ではPTA規約により「広報紙は学期末に発行する」とあり年2回の発行と、次年度の教職員・PTA役員紹介号を発行しています。今年度のPTA行事はなるべく全部掲載させたいという思いから夏休み前に「号外」を発行しました。9月に「家庭用ゲーム機」についてのアンケートを取り結果を12月はじめに広報紙に載せる予定です。なぜ今回アンケートを取ったか、親の考えや気持ちを知りたいと思ったからです。部員たちによって下記の4つのテーマが上げられました。

IT関係（ゲーム・ネット・携帯）

朝食・給食

学力向上

子どもの安全（交通事故・いじめ）

一番興味のあるものを特集にしたいということで「ゲーム」に決定しました。広報部員が自分のクラスの集計をし、普段仕事の都合で部会に出席できない人も紙面作りに参加しました。保護者自身がアンケートに答えることで興味を持って読んでくれるのではという期待をもち、会員だけではなく地域の方々にも保護者の悩みや思いを伝えていけたらと思います。

<討議内容>

保護者、子供たちが興味を持って読んでくれる為の工夫としてアンケートを取り入れ、地域の方や先生方のアドバイスなどをいただき、より良い広報紙を作る活動をしています。アンケートの回収率よりも、その結果をこれからどう生かしていくかが大切ではないでしょうか。広報部が一番大変で人気がなく、やり手のない部と思われがちですが、みんなで協力し合い広報紙の発行に携わって分担しながら楽しく参加してもらっています。

<助言者のまとめ> 西保木間小学校校長 梅田龍示先生

アンケートを取ることは大切ですが、目的をはっきり決めておかなければ本筋から外れてしまうのではないのでしょうか。同じ内容のアンケートを10ブロックで実施し比べてみると、その学校の特色や違いが分かって面白い結果が得られ、又このような会で意見交換をすることで、色々な問題が解決できるのではないかと思います。

第3分科会 校外

会場校：淵江小学校

参加者：40名

テーマ「親と子の笑顔を創る校外育成部」

<事例発表> 竹の塚小学校PTA校外育成部部長 横井理恵

校外部にとって大切なのは、気力・体力・笑顔だと実感しております。竹の塚小学校で、今年度より新しく始めた活動は、3年生対象自転車教室のお手伝い「朝の声かけ運動」です。

今回は「朝の声かけ運動」について発表させていただきます。期間10/2～3/24、児童一人につき1回の当番制、7:55～8:15まで校門付近に立ち、登校して来る子供たちに「おはよう」と声をかけています。はじめは、驚きと恥ずかしさで下を向いてしまったり、気づかない子もいましたが、笑顔で挨拶する子が増え、やって良かったと実感しております。最近は、親の事情で朝食抜きや遅刻してくる子がみられます。このような当番制をとることで、保護者の意識を高め、他の分科会で取り上げている「早寝・早起き・朝ごはん」につなげていければと思っています。同時期全保護者家庭数にて、名札を貸し出しました。PTA活動に活用しています。顔と名前がわかる事は大切な事です。子供たちも安心して笑顔で声をかけてくれます。校外育成部の活動を通して、保護者の方々のPTA行事への参加意識を高めていきたいと思えます。

<各校の活動内容>

夏休み中のパトロール、自転車整備、旗もち、夏休みラジオ体操、パトロール札作成・配布

防犯ポスター作成・提示、子どもを守ろうステッカー配布、献血、PTA行事のお手伝い

<討議内容> 討議内容は、主に以下について意見交換をした。

夏休み中のパトロールの参加率向上について、ほとんどの学校が全員参加の当番制、高学年を前半にしたところ参加率が上がった。前日に連絡をする。連絡網をPTA行事に使えない学校もある。

運動会自転車乗り入れ減少について、学校便り、連絡帳に書き親に呼びかける。地域の方に現状を知ってもらおう。夕方のパトロール・自転車整備など男性の協力が少しでもあればよりよくなると思う。

<助言者のまとめ> 淵江第一小学校校長 和田常明先生

本日の研修会において、大変中身の濃い話し合いができました。各校へ持ち帰り、明日からのPTA活動に活かして下さい。学校では、最近「小1プロブレム」という言葉が出ています。要因の一つには家庭の教育力の低下・保護者のモラルの低さが考えられます。PTA活動は、保護者同士のふれあい、話し合い、情報交換の深まりと、さらに保護者のモラル、動機付けを高めていくことで活発化します。正しい情報を提供し、子供のためになるという動機付けをして頂きたいと思えます。連絡網に関わって校長会において保護者向け一斉メール配信の検討会が立ち上がりました。

文責：内田雅美 田島美和子

第4分科会

会場校：湊江小学校

テーマ「早寝・早起き・朝ごはん」

<事例発表> 湊江第一小学校PTA学年学級部副部長 染谷明子

本校の今回の発表テーマは「早寝・早起き・朝ごはん」です。残念ながら、本校では、早寝・早起きをし、朝食を摂るという習慣がなかなかつかられない児童がいるという実態がここ数年続いています。学校では、夏休みと冬休み明けに起床、就寝時間などを含む項目をチェックする「生活しらべカード」（一週間分）を家庭に配布し、生活のリズムを早く整え、自分で自分の生活をコントロールできるように家庭に協力を促しています。その結果、朝食を食べない児童は、17年度は5、9%18年度は4、6%と減少し、少しずつですが、親の意識が変わってきているのだと思います。その他の取り組みとして6月に給食試食会を開催し、栄養士の中村先生より朝食の大切さ、家庭でも栄養のバランスのとれた食事を作ること、愛のある食生活を心がけるようにとご指導いただきました。本校では「早寝・早起き・朝ごはん」を各家庭で心がけることにより、家庭の教育力向上につながっていくと思っています。

他の活動として、親子スポーツ交流会。各学年活動として、授業参観型活動に取り組んでいます。授業に参加し、親と先生が協力して授業を進めることで、親同士の横のつながりや先生とのコミュニケーションがはかれることが期待されます。

<討議内容>

本校の「生活しらべカード」と同様なものが各校にもありました。起床、就寝時間、テレビを見た時間、翌日の準備など項目毎に子ども自身でチェックし、親のコメントを書きます。長期休み明けに実施する学校がほとんどの中、保木間小は1週間毎の用紙が配布され、毎日チェックをしています。また、湊江小は学年、項目毎にデータ化し報告されています。但しこの生活しらべは学校側が行っているものなので、PTAが生かすとすれば、各校で結果をデータ化すれば良いのではないかと意見がありました。

次に学年活動は、親と子のふれあいを取り入れられる体験活動（竹の塚小）。大縄とびなど体を動かすものが中心の活動（保木間小）。母親、父親別に担当を持つおまつり型の活動（中島根小）。と各校それぞれ特色があります。しかし、残念ながら参加人数を集めるのに苦労しているのが現状です。そんな中、西保木間小は、自転車教室や給食試食会など専門部行事だったものを学年活動に変更したら、我が子に直接関わる内容のせいか参加率が上がったとの報告もありました。また、ボランティア制度を設け登録してもらっているとのこと。登録内容（可能な時間帯など）を細かく申請してもらうなど検討が必要ですが、ボランティア制度は各校でも参考になり、参加人数の増加につながればよいと思います。又、湊江小のように「学年活動はどの学年も楽しみにしてもらっている」と羨ましい報告もありました。

<助言者のまとめ> 中島根小学校校長 伊藤保幸先生

学校とは、ひとつの社会です。社会に出る前（入学前）の家庭でのしつけが大切だと思います。家での「早寝・早起き・朝ごはん」は学校教育の前提であり、それができていれば、学校教育がスムーズに行えます。「早寝・早起き・朝ごはん」を保護者の皆様に意識づけしてもらおうとありがたいです。

また、PTA活動全般についていえば、負担は広く浅くなるようにみんなで協力しましょう。この場で得た知識を、是非、情報交換していただきたいと思います。

文責：小野田清美

第5分科会

会場校：渚江小学校

参加者：29名

テーマ「子どもと地域を結ぶPTAの役目」

<事例発表> 中島根小学校学年学級委員長 中金博子

本校では学年学級のメイン活動として、親子、保護者同士、先生と保護者、地域と家庭、学校と地域等の触れ合いを目的とした『中島根まつり』を開催している。まつりを通して、我が子だけでなく、たくさんの子どもの見守り、そして我が子が色々な人に見守られている事を実感出来る。地域の皆さんの協力として、地元の小売店の方、『おやじの会』による餅つき、図書ボランティアによる読み聞かせがある。また、今年の三月には、本校の図書室と教室の一部が類焼したが、地域の方々が、初期消火活動をしてくださり、図書室の本も、図書ボランティアの方が色々な出版社や地域の図書館に寄贈本の依頼をして下さった。子どもと地域の方々の直接の関わり合いは少ないものの間接的には沢山の支援があることを子ども達に伝える事がPTAの役目だと思う。

<各校の活動内容>

西保木間小・・・親子読書（午前2時間程度）、ドッジボール、おまつり。

渚江第一小・・・渚一まつり、学校公開に合わせて行う授業参加型の活動 朝顔のリース作りなど。

渚江小・・・芋掘りや田植え、給食試食会、自転車教室を行い免許証を交付している。

竹の塚小・・・竹小まつり（2日間）、40周年に向け花壇をきれいにした。

保木間小・・・給食試食会、ワイワイフェスティバル、校外学習、昔遊び。

<討議内容>

行事を行うにあたり、お手伝いの方の募り方には各校苦労しているようで、アンケートをとって募集したり、分担して1人1人の負担を少なくするなどの工夫をしている。

年1回、祭りを開催している学校が多く、このような大きな行事になると、保護者の他に、地域の方の力が不可欠となり、父親の会、地域の方などの力を借りているところが多かった。また、まつりを通じて、近くの商店を利用したり、バザーを行って地域の方にも参加しやすくするなど、地域の方との関わりを深めていくようにしている。学年行事で護身術を行った学校があり、不審者情報など度々目することから、質問が多くだされた。

<助言者のまとめ> 保木間小学校長 太田勝彦先生

学年学級の役割は、子ども同士、保護者同士のつながりを円滑にする学校とのパイプ役だと思う。委員活動と地域を結びつけるのは、なかなか難しいと思われるが、学校行事のボランティアという部分での繋がりが考えられるのではないか。これからは、私達から地域に参加を呼びかけ、ボランティアを募り取り組みをする。これと平行して、地域へ学校の様子や子ども達の様子を知らせていく事が大切だと思う。また、こちらから地域行事に親子で積極的に参加する。こうしてお互いの繋がりが出来ていくのではないかと思うし、ひいては子ども達の安心・安全に繋がるのではないかと思う。

文責：仁科光代、南木佳子

第 1 1 ブロック

伊 興 小 学 校
東 伊 興 小 学 校
西 伊 興 小 学 校
西 新 井 第 二 小 学 校
栗 原 北 小 学 校

- 1 . 日 時 : 平成 1 9 年 1 0 月 1 3 日 (土)
- 2 . 会 場 : 伊興小学校
- 3 . 研 修 テ ー マ : 家庭の教育力向上をめざす学校・地域と連携した
P T A 活 動
- 4 . 講 演 会 テ ー マ : P T A 活 動 の 家 庭 ・ 学 校 ・ 地 域 へ の 広 報 、 そ し て
子 ども 達 へ の メ ッ セ ー ジ

講演・パネルディスカッション

会場校：伊興小学校

参加者 155名

テーマ「PTA活動の家庭・学校・地域への広報、そして子ども達へのメッセージ（家庭教育）」

第1部 基調講演

講師 足立朝日記者 渡辺 恵美子 氏

はじめに

昨年度の第11ブロック研修会において、研修会テーマ「これからのPTA活動と家庭教育力の向上」、副題として「今後を見据えたPTA活動」を講師として元教育委員会委員長高田 一雄 様を迎えて講演を行いました。その講演の中で、今までのPTA活動は、子どもの為や学校の為のPTA活動に留まっていた。しかし今後を見据えていく為のPTA活動には、家庭教育力の向上がかかせない。家庭教育とは、家庭の中で何気なく子ども達に社会で生きていく為の躰(しつけ)をしていくこと、また食育も含めいわゆる「早寝・早起き・朝ごはん」も生活習慣を身につけることであり大切で、基本的生活習慣は家庭教育で、学力向上は学校教育が基本になる。そして家庭教育力の向上の方法の一つに、PTA活動がある。PTA活動は当然子どもがいる時しかできないし、活動している親の姿が、なによりの家庭教育力の向上になるのではないかと、というディスカッションで研修会が進みまし。そして究極の家庭教育とは、「何の為に生きるのか」「何の為に学ぶのか」「何の為に働くのか」をわが子に教えることであり、「生きる感動を与えることではないか」との話に至りました。さらにお父さん達にもっとPTA活動に参加してもらいたい、「お父さん、もっとガンバレ」で研修会が盛況に終了しました。

そこで今回の講演テーマとして、お父さんも含め、保護者にどうしたらPTA活動に参加にしてもらえるか、どうしたらもっと参加者を増やせるか、そしてなかなか成り手の無い役員・委員さんにどうやってなってもらおうか。「PTA活動をどう伝えるか」、「PTA活動の参加者をどう集めるか」、広報活動にウェイトを置いた研修会との方向性で企画し、足立朝日の記者である渡辺恵美子さんをお迎えしての講演会となりました。(開会の言葉:伊興小PTA会長 黒川より)

保護者の先輩として、

(小学校・中学校と広報委員・委員長を長年経験した渡辺さんからの話より)

「広報委員って・・・大変!」、そう思っていないですか? 私たちもよくそう言われました。確かに学校に出てくる日数は多いかもしれませんが、それだからこそ良いこともたくさんあるんです。委員会ではいつも大きな笑い声が絶えません。それぞれがフォローしあって、できることをできる人がやっています。「楽しくやることそれが一番ですよ!」(会場が安らぎ、安心感が漂いました)

とかく委員長になってしまったりすると全ての責任を感じてしまって、硬くなってしまったり、萎縮してしまったりしませんが、PTA活動は、責任を一人ですべて抱え込む必要はなく、みんなで分かち合ってやっていくものです。例えばまだパソコン(ワープロが出始め)が普及していない時代、みんなで記事を持ち合って、いざ編集という時、おのおの記事をみんなが一生懸命ワープロで記事を仕上げてくれたのですが、自体や文字の大きさが機種によってのばらつきがあったのですが、これを統一して新たにワープロで仕上げちゃうのは、何かみ

んなの苦勞を拭い去ってしまうような感があり、結局そのまま切り張りして仕上げましたが、とても思い出深い広報誌に仕上がりました。またある時は、パソコンの得意なお父さんが、学校には行く時間がないのですが、自宅なら作業できますと積極的に編集をしてくれたりしました。記事を書く人、編集の得意な人、写真が得意な人、動き回ってくれる人、みんなを和ませてくれる人など多くの委員さんの協力があり「わいわいがやがやしながら楽しく」広報誌を作っていく、そして出来上がった広報誌を見るときに充実感は広報委員やって良かったなと思いました。

広報誌の現状

最近の広報誌は、パソコンを活用しながらの紙面作りが多くなってきたので、カラー写真を自由に活用でき、手軽にレイアウトを繰り返し試し、よりよいものを追及できるという長所が生まれ、これまでにない斬新な紙面がある反面、写真を多用しすぎて紙面の「カラーアルバム化」が進み、また色づかいが鮮やかになり目移りしてしまう、紙面からの「文字離れ」が目立つようになり、見栄え先行の紙面作りが浸透してきた感があります。しかしこれまで主流のタブロイド版の新聞に似た紙面作り、オーソドックスな広報誌も基本で大事ではないでしょうか。ただ、いくら「器」が変化しても、そこに盛り付ける「素材」に大きな変化は、感じられず、例年通り、学校便的な内容が主流です。しかし特集企画のテーマでは、学校への不審者侵入や地域の防犯に警鐘をならすような事件が各地で起きたことを受け、子どもの安全を取り上げたテーマあり、また「早寝・早起き・朝ごはん」も含め食育にかかわるテーマあり、このほか、親子のコミュニケーション、お小遣い、携帯電話などもよく取り上げられるテーマになっています。フェスタなどのPTA・学校まつりや周年行事をめぐり、力が入った紙面作りをしているところもあります。こうしたテーマについては、調査あり、座談会あり、PTA会員の声を紙面化したものがあり、バラエティに富み、工夫されたものが定着しているようです。

家庭教育力向上を踏まえた子ども達へのメッセージ

みなさんとのディスカッションにて。

まとめ

最後に広報誌の課題ですが、PTA活動について正面から取り上げる企画、記事が多くないことです。紙面から日常的な活動が見えにくいのは、紙面自体がPTA活動の活性度のバロメーターとなってしまうからでしょうか。広報委員として、家庭教育力向上させるようなテーマを決めたり、「役員・委員さんが一生懸命PTA活動している事」、「PTA活動は大変、だけど楽しいし充実して得るものがある」などそれらをうまく保護者・地域に伝えられる紙面作りなど、これらはこれからの広報誌作りの課題にしたいところです。

PTA活動も、継続して充実していくには楽しさ・雰囲気の良い活動の場を創ること、そしてお互いの立場を尊重して自らは、「やろう」という気持ちも大事ではないでしょうか。

最後に、もし、あなたに「広報委員になってくださいませんか？」と依頼の電話や話があったら...
どうぞ快く受けてくださいね(笑)！あなた自身に「楽しんでやろう」と思う気持ちがあれば...

きっと楽しい委員会になること間違いなしですから...

第2部 パネルディスカッション

コーディネーター

前栗原北小学校PTA会長

(前第11副ブロック長)床井 弘一氏

パネラー

伊興小学校PTA副会長野中 純子

東伊興小学校PTA副会長佐野 朋美

栗原北小学校PTA副会長関 ひろみ

西伊興小学校PTA広報委員長八木澤 順子

西新井第二小学校PTA広報委員長織田 靖子

各校のPTA活動(役員・委員)の頑張っているなど思える事例は・・・

- ・(大規模校)フェスタ・まつりでは、焼きそばを1400食、模擬店は22店、来場者約2000人の動員です。役員・委員そしてサークルのお父さん・お母さんが中心、協議会・先生の協力も力強いです。
- ・(小規模校)フェスタ・まつりでは、積極的に先生やOBや町会を巻き込んでの充実した活動をしている。
- ・安全の取組みでは、朝のバリケード活動(通学路の自動車制限)は、全保護者が交代でやっている。
- ・校外委員・地域の協力での挨拶運動をやっている。
- ・セーフティボランティア等の緊急時の危機管理体制が出来ている。

各校のPTA活動(役員・委員として)の辛い事例は・・・

- ・委員・役員決めの時の保護者会の雰囲気辛い、耐えられず委員を受けてしまった。
- ・活動時間の制約(平日のみ・土日曜日のみ・夜間のみ活動出来る)による参加者不足だけでも人出不足や調整が大変なのに、参加意識の欠如が感じられる時は辛い。
- ・フェスタ(おまつり)の反省会でのネガティブ(指示が悪い・無いので動けない、大変なので辞めた方が良い等)な発言であり、また「だったら自分でやれよ」って思ってしまう自分が寂しい。

意見交換

- ・やる人がいなくて引き受けましたが、やってしまうと意外に楽しい。
- ・PTAの委員として活動するにあたり、学校のためとか、なり手が居ないから仕方ないと思って来ましたが、最近では、自分のためと思えるようになりました。学校での先生方の姿や、子ども達の様子を見ることが出来たり、委員同士も楽しく仕事をする事ができて、充実感が得られます。
- ・先生の協力が頼もしい。
- ・(お父さん)自営なので暇そうにしているので引っ張られたが、実は時間を作るのに苦労しています。
- ・学校がある時間にPTA活動がある時は、子どもと一緒にその日の話をしながら帰れるので、PTA活動は二人にとって特別な時間です。
- ・委員に関係なく全員参加による活動の実践が必要ではないか。
- ・(今回の渡辺さんのように)子育てが終わった人との交流の機会が欲しい。そのような場や機会が非常に少ないと感じます。
- ・子どもが楽しく学校に通ってくれることが、親としての何より安心なことだと思っております。そのために、子ども達に楽しいと思ってくれる学校づくりに親として出来る事があればと思ってPTAに参加しています。
- ・PTA活動を通して多くの方とコミュニケーションをとることが出来ます。子ども達が地域の方々に見守られてい

るということがよくわかりありがたく思っています。

- ・女性が社会に出て働くことこそ価値があるというような錯覚をつくりあげた結果、子育ての価値を見失っているのではないか。
- ・子育てが終わって、子どもを育てることに大きな価値を感じているという話を良くきく。
- ・母親ばかりでなく父親の子育ても重要であると思う。
- ・PTAは母親として一番身近な社会活動・貢献だと思います。親が社会にどのように関わっているかを子どもながらに感じることもあるのではないのでしょうか。あまり気負わずに楽しくPTAに参加し子どもと共に学校を楽しみたいと思います。

家庭教育力向上を踏まえた子ども達へのメッセージは・・・

- ・未来へ目を向けて
- ・豊かな心と大きな夢を持って、未来を力強くしなやかに生きてほしい
- ・子どもたちがあたたかい愛情に包まれて、のびのびと健やかに成長してほしい
- ・満たされた、輝くような子どもたちの笑顔は、家族を笑顔にし、まわりにいる人たちを笑顔にします
- ・本物に触れる・体験することにより豊かな感性を育てたい
- ・一人ひとりの可能性を広げて欲しい
- ・たくさんの出会いを大切に

まとめ

PTAのあり方について、PTAの活動につきましては、とても良いことだと思いますし、必要であると考えております。何事におきましても、物事をするに当たり、目標・目的を決めるということが大切だといつも思っております。”PTAの目的ってなに？”って考えたときに、第一には、”子ども達”が基本であると思います。「じゃ、子ども達のなにが基本なの？」といったときに、子ども達の教育(勉強だけではなく精神についても)、環境、我々親についても子育てについてのノウハウや、教育へのたずさわり方等、子ども達を中心に我々親も一緒に勉強していく必要があると思います。

PTA活動の多くは、往々にして「今までこうだったから」等、慣例によって事務的にことが進められていくことが多いような気がします。やはり、行事を行うこと等が目的なのではなく、何のために活動するのが大切になってくると思うんです。学校でのPTAでは、そういった我々親の勉強の場としての活動をしているようです。行事はそのための手段であり、我々親が子ども達のために、また私たち自身のために議論し考えることが大切だと思います。よく、「役員は大変だ」「参加しない人がいて不公平」等聞かれますが、そんな損得は子ども達には関係のないことですし、子育ては本当に大変だと思います。子を持った親の責任として、当然考えて行かなければいけないことだと思っております。PTA活動はその一環かと思えます。

PTAは必要かどうかですが、それぞれの小学校の事情とかPTAの活動内容が違うのでどういうのが正しいPTAなのかは自分たちで考えるしかないと思います。そして自分たちでPTAを変えて行くのが一番です。

家庭の教育力向上についてもっと話し合う場が増えると良いと思います。語り合うことによって、こうすれば良いとの答えが出ることもありますし、お互いを尊重し合えるのではないのでしょうか。

有意義で楽しいPTA活動、時には「親子で楽しむ為のPTA活動」が、家庭教育力向上の一步、という話で幕を閉じました。

第 1 2 ブロック

鹿 浜 小 学 校
鹿 浜 第 一 小 学 校
鹿 浜 西 小 学 校
北 鹿 浜 小 学 校
皿 沼 小 学 校
上 沼 田 小 学 校
新 田 小 学 校

- 1 . 日 時 : 平成 1 9 年 7 月 7 日 (土)
- 2 . 会 場 : 鹿浜小学校
- 3 . 研 修 テ ー マ : 家庭の教育力向上をめざす学校・地域と連携した P T
A 活動
- 4 . 講 演 会 テ ー マ : ゲーム脳と早寝早起き朝ご飯

講演会

会場校：鹿浜小学校

参加者：242名

テーマ「ゲーム脳と早寝早起き朝ご飯」

講師 足立区立小学校校長会会長

足立区立西新井第一小学校校長 矢萩恵一先生

最近、脳科学が進歩して、脳の中の様子が映像として観える様になりました。

平成14年には、日本大学の森昭雄教授が、テレビゲームが脳の前頭前野の機能低下を引き起こすことを発見し、「ゲーム脳」という言葉を提唱し、一大センセーションを巻き起こしました。

いまの子ども達は、「自信がない」、「やる気がない」、「すぐキレル」、「引きこもる」など全体として意欲が薄れ、学力が低下しているように思います。これは、学校の先生の教える能力が低下している訳では無く、教育を受ける側の能力が低下していると考えられます。

子どもの学力低下の原因として、主に以下の点が考えられます。

- ・ 親が過保護か放任に偏っている。
- ・ 睡眠時間が足りない。
- ・ 大人の生活を子どもに押しつけている。
- ・ テレビの観過ぎ。
- ・ ゲームのやり過ぎ。

1980年頃からテレビゲームが普及してきましたが、この頃から不登校の数も年々多くなって来ています。

ゲームは脳に悪影響が大きく、ゲームをする時間が長くなると、「暴力シーンにわくわくする」とか「小動物を虐める」といった子どもが多くなります。これは、ゲームをすると脳がゲームの中の世界を楽しんでいると感じ、脳の神経細胞からドーパミンが出ます。この状態が長く続くと薬物乱用と同じ状態になり、治療にはとても時間が掛かります。

皆さんの子どもを「ゲーム脳」にしないためには、感動体験と親の愛情で子どもの脳、特に「前頭前野」を鍛える事が大事です。

前頭前野を鍛える方法としては、

- ・ 家族との会話
- ・ 自然体験・感動体験をする。
- ・ 大勢の友だちとの外遊び
- ・ 読書・音読
- ・ 百ます計算

- ・ 運動
- ・ 十分な睡眠
- ・ バランスのとれた食事

等がありますが、「ゲーム脳」の回復には全身運動やお手玉などの手遊びも効果的です。

子育てには、「金のルール」があります。今日はこれだけでも覚えて帰ってください。

それは、「早寝・早起き・朝ご飯・読書」です。脳の栄養はぶどう糖だけです。栄養がないと脳は働きません。朝食を摂らないと学力向上は無理です。朝食は絶対摂るようにしてください。

また、脳はいくつになっても鍛えられます。保護者の皆さんも、諦めずに、お子さんと一緒に取り組んでいって欲しいと思います。

< 各校感想 >

- ◆ 「ゲームはいけない。」と言う事を耳にしますが、頭を使って考えたり指を動かしたりしているのに、何故なのだろうかと思っていましたが、今日のお話で理解できました。
- ◆ ゲーム脳は、脳の働きを眠らせてしまい、キレやすい子どもや引きこもりの子どもになってしまう。小学生の今が一番大事であり中学生以降では歯止めがきかないという事をしっかり受け止めたい。
- ◆ 今回の講演をお聴きして、テレビやゲームなどを普段、日常的にやっている子どもを放っておくことがとても恐ろしくなりました。

我が家でも静かにしていれば良い時など、ゲームはとても活躍しています。ですが裏を返せば、今手を掛けてあげていない分、後々ゲーム脳によりコミュニケーションがとれず、キレやすい子になり、ゆくゆくは引きこもりや社会に溶け込めない大人になって行くのだと言う事を強く感じました。生活習慣を改めるきっかけになったと思います。

- ◆ 普段、何気なく生活を送っている日々の中で、いかに家庭教育が大事なことなのか、そして、ゲームという遊びがどれだけ悪影響を与えていたのかを知ることが出来ました。
- ◆ 子どもの学力低下の原因は意欲の薄れによるもので、親の愛情不足や睡眠不足、メディアとの関わり、ゲームの氾濫などがもたらす心身への影響を教えて頂きました。特に、「ゲーム脳」の恐ろしさについては想像していた以上で、小さい時ほど汚染されやすく、小学生で放置しておくとも中高生になって引きこもりやキレやすい子どもになる可能性が大きい事が分かりました。
- ◆ IT社会の現代、便利になっていると同時に会話も少なくなっているように感じます。公園にいる子どもの中には、個々にゲームを持ち、友だちと話すことなくゲームをしている姿を見かけます。表情も無く、この形でも一緒に公園で遊んでいると言えるのだろうか、時々考えてしまうことがあります。

「豊かな感性と正しい判断力を持つ子どもを育てる」ために、また、子どもの事をもっと知るために、家族でいる時間を大切に、たくさんの会話、ふれあいを増やしたいと思います。

第 1 3 ブロック

古 千 谷 小 学 校
舎 人 小 学 校
舎 人 第 一 小 学 校
足 立 入 谷 小 学 校

- 1 . 日 時 : 平成 1 9 年 9 月 2 9 日 (土)
- 2 . 会 場 : 舎人小学校
- 3 . 研 修 テ ー マ : 家庭の教育力向上をめざす学校・地域と連携した P
T A 活動
- 4 . 分 科 会 テ ー マ : 第 1 学年学級活動としての役割と学校との協同活
動をめざして
第 2 参加したい、参加してよかったと思う活動
とは . . .
第 3 スクールゾーン・通学路の安全性について
第 4 特色ある広報紙作り

第1分科会 学年学級

会場校：舎人小学校

参加者：37名

テーマ「学年学級としての役割と学校との協同活動をめざして」

<事例発表> 足立入谷小学校PTA学年学級委員長 根橋則子

足立入谷小学校、学年学級の活動方針は、他の委員との連絡を密にし、学年学級に関する事業を企画して、その活動の推進を図ることを目的としています。又、担任と保護者が協力して、教育の効果を高める為、様々な行事を提案していきます。

年間の活動はPTAと連携した行事のほかに、学年行事を企画しています。ここ数年の行事の傾向はスポーツや料理が多く、親子で楽しめる内容になっていますが、今年度からは遊びを中心とした従来の内容から授業に沿った体験学習へと意識を改革するため、先生方との連携を深めて行事内容を模索しています。今後も様々な行事を通して、学校や家庭での意見交換の場を提供し、保護者同士の心の交流ができるよう補佐していくほか、学校との協同体制をより一層強固なものにするため、学年行事を中心として活動していきたいと思えます。

<各校の活動内容>

古千谷小の学年行事は、低学年がレク運動。高学年は性教育、地震体験、薬物の害、携帯やネット犯罪についての講和。舎人小では、ビーチバレーなどのスポーツが多い。舎人第一小は、レク運動や料理の学年行事のほかベルマーク集めも積極的に活動しているとのこと。

<討議内容>

発表者の根橋さんより、「足立入谷小では、今後の学年行事を遊びの要素をもつ内容から、授業に沿った体験学習にする形に移行していきますが、他の学校では、学年行事をどのようにとらえていますか？」という質問に対し、古千谷小では、すべて放課後のみの活動でね低学年はレク運動が多いが、高学年はほぼ体験学習を実施しているという解答でした。舎人小では、土曜日と放課後は習い事のため参加できない生徒が多いので、5校時に実施することが多く、内容はスポーツに偏りがちですが、先生方から石けん作りなど授業内容に則したものにしたらどうかという提案があるようです。又、舎人第一小では、放課後の活動はなく5、6時間目に実施し、内容は低学年がスポーツで高学年は料理を下ごしらえしている間にスポーツを行うといった内容のようです。これに対し、古千谷小では、学年行事に調理をする上で衛生上問題はないのか？という質問が出て、各校夏場のちょうりを、あるいは避けている。生ものは使用せず傷みにくい食材を使用する、手袋やラップを使用して直接手を触れないよう注意しているといった解答があり、各校様々に行事をとらえているようです。

<助言者のまとめ> 足立入谷小学校校長 津布久郁夫先生

人間は、目標を持たずに何かをすることに関して、とてもストレスを感じるものです。保護者は日頃からPTA活動の目標が子供たちの健全な育成のためにあると意識しなくてはなりません。スポーツ、勉強、福祉、お楽しみ会などの行事には、それぞれどんな意義があるのか1人1人理解し、又それらの行事をPTAの目標とどのようにつなげていくのか思案した上で、行事に参加することが大切だと思います。

文責：根橋則子 鈴木絵里子

第2分科会 成人教育

会場校：舎人小学校

参加者：48名

テーマ「参加したい、参加しなくてよかったと思う活動とは・・・」

<事例発表> 古千谷小学校PTA成人教育副委員長 吉田由起江

6月21日(木)「手作り教室 ハワイアンリボン レイストラップ」参加人数61人 参加費300円
委員が講師になり教え、時間内に完成しなかった方もいましたが、楽しかったと喜んでいただくことができた。未就園児を連れた方は、足元に座らせての作業だったので、大変そうだった。

7月4日(水)「給食試食会」参加人数79人 参加費250円 メニュー・冷やし中華・フィッシュパイ・小玉スイカ・牛乳。当日、会場の準備をし、委員が配膳係になり、試食会后に、栄養士の先生から、学校給食の歴史やねらい、栄養などのお話を聞いた。配膳をする人はマスクをつけた方がよい。

<各校の活動内容>

足立入谷小学校 子どもの健やかな成長のみでなく、よりよい大人になるための大人の教育を目標に活動している。・あすなるセミナー、年2回(6月、12月)・すすく会議、年2回(7月、3月)

舎人小学校 給食試食会 7月実施。簡単に作れる朝食、栄養のあるおやつレシピ集を作り、配布。地域学習講座「割りばしで作る花かご」2月実施予定

舎人第一小学校 ボーリング大会 6月実施。舎一ふれあいまつりでフリーマーケット、7月実施。給食試食会、9月実施。料理教室、11月予定。1月詳細未定。

<討議内容>

Q. 未就園児を連れて参加の場合は? : 保育室を設け、委員の中から当番を決めて保育した。試食会の際、お母さんの隣に小さな椅子を準備。ボーリングは親子参加。料理教室は要検討。

Q. 活動費の使い方は? : 講師料が高く、2万5千円から5万円に値上げした。地域講座にかかる費用をこれから検討していく。予算ありきで間に合わすしかない。アイデアを出すと予算内でやれる。

Q. 定例会の時間設定は? : 運営委員会終了後、1週間以内、金曜夜7時。最初の定例会で話し合い、第2木曜日、15時30分に決定。月曜日の午前中と話し合いで決めたが参加率が悪い。

Q. 活動に使える空き教室は? : 早めに相談し、空き教室を確保する必要がある。料理教室の時は参加人数の調整が必要である。

<助言者のまとめ> 古千谷小学校校長 大澤重市先生

資料「PTA Q&A」、「みんなのPTA」に、細かいことが明記されている。今後の活動の中身に活用してほしい。活動の際、数値目標を立て、集めるための宣伝を効果的に行ってほしい。有意義で、楽しいと思える活動内容にするため、会員一人ひとりの意向をくんで決めるとよい。また、委員一人ひとりが、楽しいと思える方向づけが大切。活動費に関しては、節約し、残せるものは残してもよい。

委員を引き受け、自分の仕事のやりくりをして、子供たちのために、子をもつ同じ親として、相談し合えるネットワークづくりの会にしてほしい。親として、子育てについての様々なものを身につけ、自分の考えを深め、広げる会にしてほしい。『PTAここにあり』という活動にしていくことが大切、と助言と励ましの言葉をいただきました。

文責：内藤房子 藤田智佳

第3分科会 校外

会場校：舎人小学校

参加者：42名

テーマ 「スクールゾーン・通学路の安全性について」

<事例発表> 舎人小学校PTA校外委員長 藤井利子

近年スクールゾーンや通学路での死亡交通事故を伝えるニュースをよく耳にするようになりました。校外補導委員会では朝の旗当番での実体験などから、子どもたちの登校時の事故の危険性を話し合ったところ、運転手のマナーの悪さや子どもたちの危険に対する意識の低さなどの意見が出ました。そこで、舎人小学校の校外補導委員として舎人交番へ行き、委員会であがった危険な交差点とスクールゾーンをパトロールの箇所に加えていただくをお願いをしました。その結果交番では出来る限りご協力していただける事になりました。子どもを危険から守るために、まずは大人がお手本を示すことが大事だと思います。誰の子でもどこの子でも危ないと思ったら訓えてあげる事が大人の役目であり、それが危険から子どもを守る近道だと思います。同じ地域の私たちが発信していきましょう。

<各校活動内容>

専門部リーダー研修会 自転車交通安全教室 立て看板作成・補修・取替え

盆踊り、神社祭礼パトロール 夏休み地域パトロール 13ブロック研修会 クリーン作戦協力

学校公開各学校行事のお手伝い 児童貸し出し用傘の点検・修理・補修

「子どもをまもろう110番」ステッカー設置のお願いおよび挨拶

<討議内容>

パトロールについては、働く保護者が増加している中で参加を集う古都が置き中台になっているようです。参加率の高い学校は、たすきと旗を次の方に直接渡しに行く方法をとっていたり、前日に当番内のリーダーが電話連絡にて参加を呼びかけているとの事です。

看板作成については、なるべく役員の大きな負担にならないように、予算も考え、なおかつ子どもやドライバーの目にとまるようなものを作っていく為に各校今後の課題として話し合っていく事になりました。

スクールゾーンや通学路の安全性については、進入禁止の馬出しをしている学校もあるがスクールゾーンがない学校もあるそうです。安全性を確保する為に進入禁止時間内でも人的配置をとる事が望ましく、その為には地域の方々にご協力いただく事も考えていく必要があります。PTAと学校と町会長そして開かれた学校づくり協議会との連携をとり長寿会の方々にもご協力いただく事も考えていきたいと思えます。

<助言者のまとめ> 舎人小学校校長 山本恭子先生

今回の研修会は、出席している委員さん方が、積極的に他校の情報や取り組みを取り入れようとしている姿がみられ大変すばらしいと思えました。そういう意味で有意義なものとなりました。子どもの安全確保の活動には親として全家庭が参加することが望ましく、親として自己の責任を果たすことが大切です。一年生の入学時には保護者の学校に対する意識が高い為、学校側と協力しPTAの活動内容を説明するのもご協力いただく良い方法だと思います。

文責：平間栄子 柴野幸代

第4分科会 広報

会場校：舎人小学校

参加者：58名

テーマ 「特色ある広報紙作り」

<事例発表> 舎人第一小学校PTA広報委員長 蓮沼薫

発行してみて、「よみやすく」「やくにたつ」広報紙作りは本当に難しいと実感しました。前年度を踏襲した、各行事を追いかけて羅列したものになってしまいがちになり、学校だよりとの差別化を図るにはどうしたらいいのか悩みます。舎人第一小学校では、図書ボランティアの紹介や夏休み向けに本の紹介をしました。年間予定表や学年便りに載っていないことを知る為に学校に出向いて情報収集をして、パソコンの普及で同じような図やカットになりがちなので、イラストの得意な保護者や児童を募って描いてもらうと手作り感が出ると思います。又他の学校の広報紙を委員の間で、回覧するのも参考になるのではないかと思います。

<各校の活動内容>

地域の協力者やPTA活動の取材やリサイクル活動に力を入れるなど、各校さまざまな工夫しているようですが、個人情報保護法により、広報誌に写真を載せるのも難しく子どもたちの表情豊かな顔も遠目で撮影したものに替えたり、ぼかしたりとどこの学校も手を加えているようです。

<討議内容>

印刷方法も4校のうち3校が印刷業者に依頼していますが、舎人第一小学校では昨年よりパソコンとジェルジェットプリンターを導入して学校で印刷していますが、低コストで良い反面時間がかかるなどの問題も抱えています。発行部数も各校さまざまで、多い学校と少ない学校とでは倍近く差がありました。

<助言者のまとめ> 舎人第一小学校校長 森島良洋先生

各校が保護者の立場から、学校や子ども・教師・保護者を見て子どもの健全育成のために、教育活動・保護者の研修や交流の様子等を知らせ、意見交換の場やその材料提供としてがんばっていることが、よくわかりました。そして、「互いに忙しい時間の中で編集会議や作業時間のやりくり等の工夫」また、「パソコンによる編集印刷の場合・印刷業者へ発注した場合・手書き印刷の場合等の出来ばえ・労力・コスト面での各校の意見交換等」から、『やるからには子どもたちや学校のためにいいものを作って、役に立ててもらいたい。』という委員の皆さんの思いがよく伝わりました。これからもよろしく願いいたします。

文責：鈴木園恵 酒井和美

中学校ブロック研修会

ブロック名	開催日	会場校
西新井北	9月8日(土)	入谷中学校
江北	7月7日(土)	上沼田中学校
西新井南	9月22日(土)	第七中学校
千住・中央	10月20日(土)	栗島中学校
綾瀬	6月23日(土)	第十二中学校
竹の塚	9月22日(土)	渕江中学校

【研修テーマ】

昭和53、54年度	これからのPTA活動のあり方を求めて
昭和55、56年度	望ましいPTA活動のあり方を求めて
昭和57、58年度	地域に即したPTA活動のあり方を求めて
昭和59、60年度	活力あるPTA活動を求めて
昭和61、62年度	時代の変化に即応したPTA活動を求めて
昭和63、平成元年度	21世紀へむけてのPTA活動を求めて
平成2、3年度	地域の教育環境向上に寄与するPTA活動を求めて
平成4、5年度	これからのPTA活動のあり方を求めて
平成6～11年度	活力あるPTA活動をめざして
平成12年度	新しい時代を切り開くPTA活動
平成13～16年度	教育改革とPTA
平成17～19年度	教育環境の向上と活力あるPTA

西新井北ブロック

第十四中学校
入谷中学校
入谷南中学校
西新井中学校
伊興中学校

1. 月 日 : 平成19年9月8日(土)
2. 会 場 : 入谷中学校
3. 研修テーマ : 教育環境の向上と活力あるPTA
4. 講演テーマ : 特色あるPTA活動について

講演会・パネルディスカッション

会場校：入谷中学校

参加者：174名

テーマ「教育環境の向上と活力あるPTA」～特色あるPTA活動について

～

講師・コーディネーター 帝京大学文学部 教育学科 講師 浪越一喜先生

<各校の活動内容>

第十四中学校

- ・「十四中互親会」・・・近隣小学校と連携し、保護者・教職員がスポーツを通して親睦を深める。
- ・「桜樟祭」・・・模擬店などで得られた利益を部活動の大会遠征費などの支援に回している。

西新井中学校

- ・朝のあいさつ運動・・・1年間を通して3年、2年、1年と毎日3名の会員他、本部、学年を含め5～6名が声かけを実施。
- ・広報誌の発行、各高校への見学会、夏祭りのパトロール、校外誌の発行、給食試食会の実施。
- ・おやじの会やボランティアの方々によるパトロール。
- ・開かれた学校づくり協議会や西中同窓会との連携による活動。

伊興中学校

- ・校内に「彰風園」という庭があり、緑あふれる環境に恵まれている。
- ・「伊興中まつり」・・・本年度30周年を迎えることのPRとともに、バザー等の収益を記念事業費とした。PTA、地域、近隣小学校、卒業生など、沢山の方々の参加により、普段なかなか得ることの出来ない交流ができた。
- ・朝の声かけ運動・・・毎週月曜日の朝、校外委員が生徒たちに声かけ運動をしている。
- ・作品展、広報誌の発行等。
- ・学年委員と専門委員の兼任。
- ・開かれた学校づくり協議会との共催で「親子漢字検定」を実施予定。

入谷南中学校

- ・朝のあいさつ運動・・・毎朝PTAと教職員で実施。
- ・年1回の学年行事。
- ・近隣小学校二校との「三校合同演奏会」。
- ・「楠フェスタ」のお手伝い。

入谷中学校

- ・フラワーボランティア・・・地域の専門職の方と共に植え替えや花壇の整備。
- ・夕やけ教室・・・水・金曜日の放課後に図書室を開放。
- ・校内美化ボランティア・・・夏休み中に親・子の自由参加による校内のペンキ塗り。
- ・ホット・ハット・コール・・・開かれた学校協議会の方々による電話での何でも相談。

< 質疑応答 >

* 第十四中学校

問 大規模校として役員間のコミュニケーションはどのようにしているのか。

答 年7回の運営委員会、開かれた学校づくり協議会、家庭教育部会等を通して話し合いを密に。

問 学区域外生徒のPTA会員のPTA活動への参加状況はどうか。

答 区別なく役員を受けてもらっており、特に問題はない。

* 西新井中学校

問 あいさつ運動の効果は？

答 PTA会員同士の横の繋がり、子どもたちとの繋がりができる。毎日挨拶をしていると子どもたちの方から挨拶するようになった。保護者同士も知り合えるし、先生方とも話ができて、親子ともにプラスになっている。

問 高校見学はどうやっているのか。

答 5月から学年ごとにパンフレットを収集し、行きたい学校の候補を決める。参加者を募集し、夏休み中に2~3校訪問している。

問 おやじの会、ボランティアの構成は？

答 毎年入学式の時に手紙を配布して募集している。PTA会員の他にもOBや同窓会の方も参加して夏休みのパトロールや草取りなどの活動をしている。

* 伊興中学校

問 「彰風園」の維持管理は誰がしているのか？

答 主に主事さん。生徒も清掃などはしている。

問 学年委員と専門委員の兼任とはどのようなものか。

答 まず専門委員を決め、その人が自動的に学年委員となる。最初に学年長等の役職を決めてから、専門委員の委員長等を決める。学年委員長と専門委員長の兼任はない。役員同士の横の繋がりが密にでき役員数も少人数ですむが、これが良いのか悪いのか正直わからない。今後変えていく必要があるのかもしれない。

問 「親子漢字検定」の詳細について教えてほしい。

答 開かれた学校づくり協議会との共催で、今年の10月に初めて行う予定である。これから受験者を募集するので今のところ未定だが、毎年少しずつ輪が広がればと思っている。

* 入谷南中学校

問 三校合同演奏会とあるが、小学校とはどのような交流をしているのか。

答 舎人小、舎人第一小と一緒にやっている。吹奏楽部の生徒が時々小学校に行って、一緒に練習。

問 OBや開かれた学校づくり協議会の方などとの連絡はどのようにしているのか。

答 何か用事があるときなどに、本部役員が交代で顧問や民生委員などの自宅を訪問している。本部役員の誰もが、協議会の方々と知合いになれるように万遍なく回るようにしている。

* 入谷中学校

問 電話相談は誰がどこでどのようにしているのか。

答 開かれた学校づくり協議会の有志の方4人が担当してくれている。それぞれが自宅等で受けてく

れるようになっている。今の所相談があったことはないが、そういう制度があるというだけでいじめ等の抑止力になっているのではないかと思う。

問 「夕やけ教室」とはどういう活動ですか。

答 卒業生や知り合いなどの大学生、教職員などが図書室で勉強をみている。参加人数は少ないときは数名、試験前などは割りと多く10数名位である。

問 校内美化ボランティアについて詳しく教えてほしい。

答：毎年夏休みに、職人さんの保護者の方に養生や塗り方などを教わりながら、校内の廊下等のペンキ塗りをしている。自由参加であるが生徒やPTA会員、開かれた学校づくり協議会の方々、学校ささえ隊の方などが参加している。今年は35名の参加があった。

<各校校長より>

第十四中学校 備里川正人校長

教育環境の向上の基本は親が学校に足を運ぶこと。まず学校に興味をもってもらい、学校行事に参加してもらうことが第一だ。

西新井中学校 笹子隆雄校長

「あいさつ運動」を継続することで、学校から地域へとその効果が波及・浸透していき、その結果地域の方々との連がりもできてきた。PTA会長を中心にPTA会員が連携を取って活動していくことが重要だ。

伊興中学校 澁谷勇一校長

PTAの目標は子どもたちの健全育成だといえる。携帯、パソコン、酒・たばこの自販機、性の問題等、子どもたちのおかれている環境は子どもたち自身にとっても大変な状況である。だからこそ、親子でそういう問題に向き合える機会・環境をPTAが作っていく必要がある。

入谷南中学校 永井恵三校長

PTAの活動を通していろいろな「仲間づくり」をしていって欲しい。人が集まると力になる。自分にあつた仲間を作り、そこから繋がりを広げていくことが大切だ。

入谷中学校 浅松三平校長

学級(担任も含めて)学年が大切な基盤となる。元気・活力は学級PTAから生まれるものだと思う。PTA活動を負担と思わず、楽しんでやって欲しい。

<講演要旨、講評> 浪越一喜先生

これまでの各校の活動報告や質疑応答を聞くと、自分の住んでいる地域と比べても、ここははるかに特色あるPTA、活力あるPTA活動をしている地域だと感じた。今のPTA活動では、興味のない人をいかにPTA活動に取り込んでいくかが課題だといえる。無関心な人たちに、PTA活動を理解してもらい協力してもらうには、草の根的に地道に声をかけていくしかないのかもしれない。

子どもの悩みや問題を皆で共有し、学校全体の問題、PTA全体の問題として取り上げ解決していけるような関係が大事だと思う。また、保護者と先生との関係も、例えば最近多くなった保護者からの理不尽なクレームなどを、PTAと先生との連携の中で解決できるようになればと思う。

これからも、自分の子どものためだけに行動するのではなく、全ての子どもたちのために頑張って活動していただきたい。

江北ブロック

第 八 中 学 校
江 南 中 学 校
新 田 中 学 校
江 北 中 学 校
鹿 浜 中 学 校
上 沼 田 中 学 校
加 賀 中 学 校

- 1 . 月 日 : 平成 1 9 年 7 月 7 日 (土)
- 2 . 会 場 : 上沼田中学校
- 3 . 研 修 テ ー マ : 教育環境の向上と活力ある P T A
- 4 . 講 演 会 テ ー マ : 高校生活に向けて

講演会

会場校：上沼田中学校

参加者：202名

テーマ「教育環境の向上と活力あるPTA」～「高校生活へ向けて」

講師 都立足立西高等学校

校長 渡辺 洋 氏

1. 会長会ブロック長 江北中学校PTA会長 矢口悦道

日頃よりPTA活動にご協力ありがとうございます。今日の研修会において、1つでも2つでも得るものがあると思います。明日からのスキルアップのために役立てて下さい。

2. 校長会ブロック長 加賀中学校校長 田本登喜雄先生

これから教育基本法が変わります。なかでも大きく変わったのが家庭教育という言葉が入ったことです。「家庭教育こそが子供の教育にとって一番大切なものである」そのため家庭での責任がより大きくなります。これを機会に子供達のために何かできること、しなくてはいけないことをお互いに勉強していきましょう。

3. 講演内容

『高校進学を視野に入れた中学校の生活』

中学校での各教科の基礎学力は完全に身につけておいてほしい。また学習に対する姿勢を中学校のうちに養ってほしい。特に国、数、英に関しては継続的に積み重ねるために学力差が出てくるものだからコンスタントに励む必要がある。中学校入学時から部活とともに日々の学習習慣をつけ、学習の時間を決めることが必要です。2期制では3年の前期の成績がそのまま調査書の成績になります。3年生になり意欲的に取り組むと1・2年の頃とは違い、発展的に成長しますので3年生での学習も大切にして下さい。

部活動、委員会活動は学校生活の軸になり、毎日の生活を魅力的なものにかつ意欲的な活動を引き出すものです。また毎日の生活を規則正しいものとして1日1日を張りのあるものにする効果があります。

集団での活動は自主性、主体性、協調性、社会性が養われていきます。高校説明会において部活動に参加することで高校生活の一部を体験し、垣間見ることができます。高校生活へ向けて意欲、意識を高める事ができるので積極的に部活動、委員会活動をやってほしい。

高校生活とは自らの意思による規律ある生活が求められます。自己判断ができる様、中学校で規則正しい生活習慣を身に付ければ高校生活で生きてきます。高校では日々の生活において積極的な態度が求められます。常に自主的に行動する心構えを持ち、何事にも積極的にチャレンジしてほしいと思います。

『高校の進路選択について』

調査方法としては学校 HP、ガイドブック、都教委等の公的資料を参考にして学校案内、学校紹介等の資料を取り寄せる。そして学校訪問、学校説明会、体験入学等に参加し、実際に体験するといいいでしょう。取り寄せた資料をもとに子供の将来の夢や希望を踏まえて学校種（普通、専門、総合科等）を選び、所在地、環境、通学等の地理的条件を調べるとよいでしょう。さらに学校教育方針、教育内容、学校の特色は大きなポイントになるところです。また学校行事、部活動、特別活動等の項目についても重要な事項です。入試の状況として推薦はどの学校でもありますが、一般推薦と文化、スポーツ推薦という特別推薦もあります。そして学力検査の実施状況、試験科目や内容も調べられるといいいでしょう。

最後に卒業後の進路について自分の目指している進路（高校やいろいろなコース）にどれだけ多くの生徒が進んでいるか、どのような進路が選択されているか自分の将来にあてはめて調べておきましょう。

進路決定について足立西高の1年生にアンケートをとった結果は次の通りでした。

《高校を選ぶポイント》

校風と雰囲気
自宅からの距離
部活動と偏差値

《決定の時期》

3年の9月～12月
3年の1月以降
3年の4月～8月

《志望校決定に際して相談した人》

中学校の先生
保護者
塾の先生、友達

ここで申し上げたいのは資料、実際の見学、さらに体験をふまえて先生や保護者のアドバイスを受けて決定するのは良いのですが、最終的には本人に決めてもらいたいのです。なぜなら入学後の状況で良いことも悪いことも自分で決めた学校だという事が学校生活を充実させていく上で心を強くするからです。

『高校入学後の生活』

学習に関しては新たな気持ちで取り組み新しい自分を作るという自覚を持ってもらいたい。スムーズに高校生活に入ることによって学習や部活動等の面で中学の頃とは違った力を発揮することもできるからです。全科目をまんべんなく学習し、その中で興味や関心を持ったことに関わる学習はさらに大切にして自主的に調べ、学ぶことによって将来につながる可能性がでてくるからです。そして進路をみつめたときに自主的、主体的な家庭学習の習慣が必要になってきます。高校生活は規則がゆるくなるのではなく、自分の判断に基づいた行動が期待されます。高校に入ると自由であると勘違いしている子供、自由に行動することで大人になったと感じている保護者が多いが自分のとった行動に責任が生じてくるのだということを知っておいて下さい。

学校生活の中で目的をもち、部活や委員会、その他の活動を通し将来の夢をもって毎日を過ごしてもらいたい。夢中になる活動があると学校生活を充実させることになり、目的をもつことでより一層学校へ行くことも楽しくなります。また自分と同じ目的をもった仲間の中ではお互いに向上しあえるよい友人関係をつくれることができます。目的意識の希薄な生徒は心配されるような行動に結びつきやすいです。高校生になるとアルバイトをする生徒が増えますが学習への意欲や心身の成長のための大切な時間を失うことになります。バイト先では多様な人と接する中で自分が完成していないと色々な影響を良いことも悪いことも受けやすい。友人関係や金銭感覚においても危険な状態に陥るため、慎重にされて不必要なアルバイトは避けた方が良いでしょう。

将来へ向けて自分調べをして中学から高校へ進む人は多いが高校から先は多様である。学校ではあらゆる資料を用意しているが本人が自ら行動を起こさないと先へは進めません。学校まかせ、本人まかせの保護者も多く見られますが親としてアドバイスできる最後の機会ですので共に考えて下さい。

《事前アンケートによる Q&A》

Q、都立高校推薦入試について

A、文化・スポーツ推薦と一般推薦があります。（一般推薦との併願も可）

選考方法は「調査書＋面接」（一部の学校では作文、実技検査なども実施）

*ただし合格後は私立への変更は不可

Q、都立高校の現状

A、都立高校にはさまざまな種類の学校がありますが、いずれの学校でも「独自性」を打ち出すことを強く意識するようになってきていると思います。最近では「各学校のブランド化」と言うそうです。

*足立西高では20年度より「特進クラス」の設置

Q、親子の考え方の違い

A、学校選択については、親子ともに「将来像」をイメージすることが大切かと思います。その上で、双方の（親子の）考えに相違があれば、とことん話し合うことしかありません。具体的に「行きたい学校」と「行かせたい学校」が違う場合は、ぜひ親子そろってそれぞれの学校を見学して下さい。（お互いに偏見は持たずに）その上で、最終的な結論を出してはいかがでしょうか。言うまでもありませんが、話し合いや学校見学を進めている間も勉強は怠らないように。せっかく意見が一致し、志望校が決まっても実力が伴わなければなんにもなりませんから…。

西新井南ブロック

第 四 中 学 校
第 五 中 学 校
第 六 中 学 校
第 七 中 学 校
第 九 中 学 校
第 十 中 学 校
扇 中 学 校

1. 月 日 : 平成19年9月22日(土)
2. 会 場 : 第七中学校
3. 研 修 テ ー マ : 教育環境の向上と活力あるPTA
4. 講 演 会 テ ー マ : 心の成熟とコミュニケーション

講演会

会場校：第七中学校

1. 講師・演題

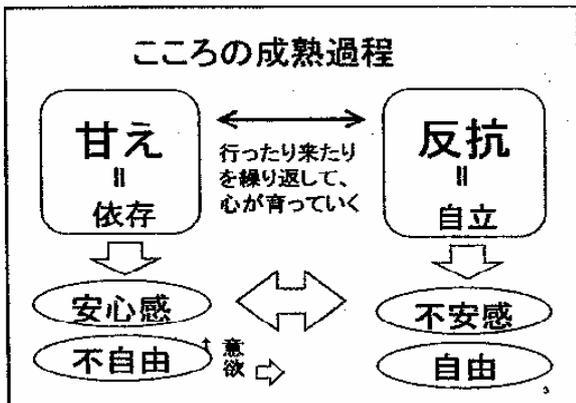
湯浅 大朗 (ゆあさ まさお) 先生

明星大学大学院にて大石幸二先生に師事し、卒業後、東京都多摩市内の小学校にてスクールカウンセラー等の勤務を経て、現在、臨床心理士として「子ども学校相談支援室」に勤務。

“心の成熟と、コミュニケーション (子どもの自立をささえるために)”

こころの成熟に必要なこと

- ・甘えと反抗(依存と自立)について
- ・自尊心(自尊感情)の理解
- ・育ち(発達)の道筋とその時々課題
- ・思春期の子どもたちに
 伝えたいメッセージ
- ・思春期の子どもと
 向き合うためのスキル



幼児期のスキンシップから思春期のやや反抗的な態度も甘えのひとつと考え、不安感から再び「甘え」に戻ったりする事を繰り返しながら、自立に向かい、「自分には存在価値がある」という自尊心を育てていく。心の成熟の進行は、それぞれの子どものペースで進めていくこと。

甘えとは

- ・相手の愛情を求めること
 ↓ (満たされる)
- ・「わかってもらえた！」という実感
- ・自分は愛されている(愛される価値のある人間なんだ)と実感できる

}
自立
心の育ちや学び
支える
前提
基盤

子どもに自身を持たせ、いろいろな挑戦をさせることで自尊心を芽生えさせ自立に導く。自立の過程で「甘え」は不可欠だが、「甘えさせる」と「甘やかす」は違うので気をつけなければならない。

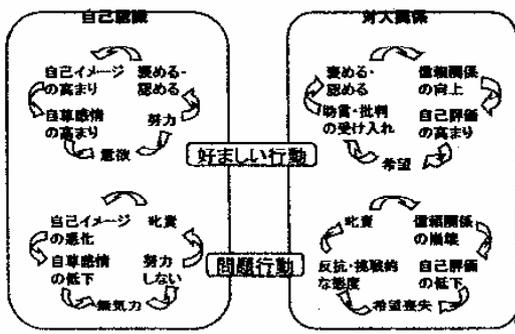
反抗とは

- 甘えを基盤にして自分の意志で動き出すこと
(意欲の高まり)
- 行動範囲の拡大 } 自分で考え、やってみる力を発揮する
- 経験の積み上げ } ||
- 甘えで蓄えた力や意欲を発揮する

自立
心の育ちや学び } 支える 機会
体験

幼児期に十分な甘えを体験していると、それをもとに大きな心の発達出来るが、不十分な場合は、僅かな挫折で自立が妨げられる。現代社会は、子どもの成長を急ぎすぎる傾向があるので、「甘え」の不十分なケースが増えている。

自尊感情・評価に関する好・悪循環 : 当たり前なこと、でも価値深いこと



人間の成長は、自己と対人関係の中で様々な経験をし、喜びや挫折を繰り返しながら遂げるものである。

人が生きるうえで、大切な人から受けた重要なメッセージ

- あなたは正しいと信じているよ
- あなたを頼りにしているよ
- あなたは、毎日のさまざまな出来事に自力で対処できると分かっているよ
- あなたの言うことには、耳を傾けているよ
- あなたのことを気にかけているよ
- あなたは私にとって、とても大切な存在だよ

成長に合わせて、子どもには適切なメッセージを送り、子どもからの心のサインを見逃さない様にしたい。

A. 積極的な受容のある港 (エネルギー補給基地)と見守る愛情。

- 子どものため『悩む機会』を奪っていませんか？
- 理想的な子ども像を抱いていませんか？
- 親の不安と子どもの問題の同一化。
- 自身の不安や理想像に向けて、先回り、先手の対応。自身の不安解消傾向。
- 完全無欠の親御さんは、存在しない。共に悩む存在へ。

幼児期の子どもに対しては、「話を聞く親」でありたい。自我の発達している子は、親の思う様な態度をとらないが、温かく見守りたいものである。

**B. 立派な大人と認識、対等な深い相互関係
(表面より、可能な限り素直・正直に、家族の
明確な枠付け)**

脳の成熟は13歳で100%

- 子どもの全ての行動を理解しようとしていませんか？(できますか？)
- コントロールしようと望んでいませんか？
- 『今は、血のつながりのある成長に向かうひとりの人間』と理解。
- 解からないのが必然。『本音』は安定・安心が保障された時、唐突に語られる。時には『待つ』ことも必要。

11歳頃から始まる反抗期は自立の第一歩である。大人の態度もよく観察しているので、嘘や表面的な言動は見抜かれてしまう。大人も子どもも、前向きに乗り切ろう。

**C. 自身の経験を『語り』、生きる意義の
伝達(明朗さとユーモアを交えて)**

- 親の仕事に嫌気が差していませんか？
- 誰かに頼ること... 恥ずかしいと思いませんか？(完全無欠の保護者?!)
- 共に悩む・支え合う存在として。

18歳頃迄は、自分について思い悩むので、嫌味な言い方はせずにユーモアを交えて、大人達の体験を話し、思春期を共に悩む存在となりたいものである。

2. 質疑応答

3. おわりの言葉

足立区立第七中学校PTA会長 下開慶一

今日は臨床心理士の湯浅先生にお忙しい中お越し頂きまして、思春期の親と子供の関わり方を、幼い頃からの子供の感情や意識について、一時間半ほどに渡りましてご講演頂きました。私が一番印象に残ったのは、子供が生まれて初めて寝返りをうった時の、親として嬉しく思った気持ちを、いつまでも大事に持ち続けて子供を接していきたいという事です。皆さんもそれぞれお感じになられた琴があると思います。是非とも実践に活かして頂ければと思います。

千住・中央ブロック

第一中学校
千寿桜堤中学校
千寿青葉中学校
第十一中学校
青井中学校
栗島中学校

1. 月 日 : 平成19年10月20日(土)
2. 会 場 : 栗島中学校
3. 研修テーマ : 教育環境の向上と活力あるPTA
4. 講演会テーマ : 中学生を健やかに育てる親のあり方

講演会

会場校：栗島中学校

参加者：125名

テーマ「教育環境の向上と活力あるPTA」～「中学生を健やかに育てる親のあり方」

講師 竹ノ塚警察署生活安全課係長 斎藤喜一警部補

私は昭和23年(110番が制定された年)福島県で生まれました。母と祖父から『ならぬものは、ならぬ』と厳しく躰けられました。『ならぬものは、ならぬ』とは、【倫理(人のふみ行なうべき道・道徳の意)】をわかりやすく表した言葉です。昭和41年上京、警察官になりました。警察官になってからも、母親と祖父から言われた『ならぬものはならぬ』という言葉が頭からはなれず、ずっと自問自答しながら仕事を続けてきました。

千住警察の時に、恐喝・暴行などを繰り返している少年と接しました。私は『何で、こんな事やるんだ?』と尋ねました。始めは、黙して語らなかつた少年が、根気強く話し掛ける内にポツリポツリと話し始めました。少年が言うには『お前が悪いんだ』というレッテルを貼られて『誰も自分の話を聞いてくれない』と言うのです。それから、一週間ほど、じっくり時間をかけて話を聞きました。ただし、【聞くだけ】に専念しました。『そんなだから、こうなったんだよ』何て言う事は、絶対にしませんでした。少年は『学校には行きたくない。ここ(警察)に来てもいいか?』と言うので、上司と相談し、了解を得て、我々が構うことは仕事があり出来ないの、それからは、応接室で一人ぼつんと居るようになりました。そういう状況の中で今度は『勉強道具持って来てもいいですか?』と、少年が言うようになりました。一週間程この状況が続き、少年から『明日から学校に行くよ』と声をかけてきました。その時、私自身も・当時の係員も【よく話を聞いてやる】という事が、一番良い事ではないのかな!と感じたのです。その少年の母親も共働きで忙しく、『後にしてよ』という言葉が、少年にとっては寂しかったのではないのでしょうか?聞いて欲しかったのに親も誰も話を聞いてくれない。だんだん、やけくそになって、色々な問題・事件を起こすようになったのではないかと思います。道をそれてしまった少年が、【誰かに話を聞いてもらう】そんな些細なきっかけで立ち直ることができるのです。今も、少年係を担当しております。とにかく相手の話を聞こう、話を聞いた上で、同僚・先輩などに相談し、少年に対して行動を起こすように心掛けて仕事をしております。あせっても良い事はありません。

千住署勤務の頃、息子の中学校PTA保健体育の委員長をやりました。その時に、学校の先生から『お父さんが学校に来られる様になる方法はないですか?』と相談を受けました。帰宅して子供と何気ない会話の中で『部活を見に来てもらったら?』というアイデアをもらい、先生方と相談して【部活参観】を企画しました。そうすると、多数の父親の参加があり、スポーツ部では、お父さん達と練習試合を行ったり、文化部では、英語クラブが英会話の練習に子供と一緒に参加したりと、その後のPTA活動

に理解・協力してもらえようになり、学校行事にも参加して頂けるようになりました。私の経験から『ならぬものは、ならぬ』の精神と『子供の話をよく聞く』『親と子がたくさん接触する』という事が、自ずと立派なお子さんが育っていく事だと思います。

< 質疑応答 >

質問：我が子の話を聞く！となりますと、どうしても感情が先にたってしまって、うまくいきません。

何か【コツ】のようなものがあれば、教えて頂きたいのですが？

回答：大切なのは、親子のコミュニケーションです。母親と子供のコミュニケーションは、普段の何気ない会話の中から成されているのですが、父親と子供のコミュニケーションは、そうはいきません。子供は正直です。こちらの都合で、忘れた頃にコミュニケーションを取ろうと話し掛けても、なかなかうまくいきません。日常生活の中で、簡単な挨拶・問いかけ(『今日は学校どうだった?』『部活はどうだ?』など)をしていくのが良いのではないのでしょうか?毎日、話をする事で子供の方も親に対して、話をしてみようかな?これ聞いてみようかな?と思うようになります。

質問：少年が話を出来るように引き出された斎藤さんと少年の間でどのような人間関係があったのか?どのような取り組みをなさったのか?教えて頂きたいです。

回答：【相手の気持ちを知ろう】という気持ちで、焦らず、時間をかけて相手の話を聞く。無理に話を聞く事はしない。無心に聞く事だけに専念したのが良かったのではないかと思います。

質問：他にも事例があれば、お聞かせください。

回答：子供は、みんな寂しがりで、自分の寂しさを紛らわす為にグループで犯罪を行っています。不登校の子供が、携帯電話のメール・学校裏サイト等と呼ばれている色々なサイトを通して接触し、連絡し合っています。夜中(23時以降)は絶対に歩かせないで下さい。携帯電話など有害サイトは、フィルタリング(有害サイトに接続不可)して、悪い情報を子供に触れさせない様にしてください。

【事例についての補足】

主な事例・・・万引き・自転車泥棒・バイク盗・ひったくり・ガスパン(ガスボンベを吸う)

< 各学校の所感 >

千寿桜堤中学校(運営委員)

携帯電話・裏サイト等、実状の掴みにくい問題が増えている事も気になります。11時以降の外出、必要以上の携帯電話の使用など、中学生生活の基準から外れない様に見守っていかうと改めて思いました。情報があふれる中で、選別する力が問われるので、そういう事も子供と話しながらコミュニケーションを計れたらと思います。その為にも大人がゆとりの持てる社会になっていく事も大切なのは、と思いましたが、どうしても親の目線で転ばぬ先の杖、という様に口をはさんでしまい、最後まで話が聞けずに終わってしまいがちですが、無になって聞く事が、子供の心を開くのだと良いヒントを頂きました。

第十一中学校（成人委員）

今日のお話を聞いて 子供の話をよく聞く “ という事が大切だと思いました。子供の話の途中で口を出してしまう事が多いので、子供の考えをよく聞く、その為には、日頃から子供とのコミュニケーションをとる事が大切で、先程のお話にもあったように、父親のPTA参加・部活動見学等でお父さんともコミュニケーションが取れるようになる。そういう事で、子供の犯罪が減っていくと思います。今日は、貴重なお話をありがとうございました。

青井中学校（校外委員）

幼少の頃にお母様から「だめなものはダメ」と言い聞かされていた事を社会人になってからも度々思い出したと伺って、先日、娘が携帯電話の使用料が一万円を越えて、取り上げた事を思い出しました。「中学生が携帯電話に一万円も使うとは何事だ。一万円稼ぐのに大人がどれだけ大変な思いをして働いているのか」と言い聞かせました。今、大事な事は、勉強時間や睡眠時間を削ってまでメールする事ではありません。子供が携帯電話を持っている事は、親にとっても便利な面もありますが、「だめなものはダメ」なのです。子供が成長して思い出し、その事を理解し、納得してくれば良いと思います。

第一中学校（広報委員）

今回の講演会に参加して、子供の話を聞き、会話する事の大切さを改めて実感しました。母親だけでなく父親が男性の目から見て子供と会話をする事も必要であると思います。また、子供達はインターネット等から、私たち大人が考える以上の速さで情報を取り入れており、特にブログ上でのいじめは陰湿でこれまで以上に大人が注意していかなければならないと思いました。微妙な年頃の子供を持つ親として、大変参考になりました。

千寿青葉中学校（学年委員）

今日のテーマ「中学生を健やかに育てる親のある方」というのは、自分自身においてすごく大きなテーマです。小学校に比べ中学校になると、子供の方でも来て欲しくないという思いもあり、参観される保護者の方々も各クラス2~3名と少ないです。斎藤警部補からお話がありました、お父さんを学校へ呼ぼう、部活の見学を通して...では、大変、感銘を受けました。又、普段から話を聞いていないと正直に話せない、というお話では、難しい事ですが感情を抑えて、今日あった事など話を聞く姿勢を持ちたいと思いました。

< 講評 > 千寿桜堤中学校校長 高橋和夫先生

『健やかに育っている中学生』の姿とはどういう姿なのでしょう？やらなくてはならない事を、きちんとやっている子供が、『健やかに育っている中学生』だと思います。それは、一つには、勉強です。各教科の勉強、道徳の時間やクラブ活動・総合的学習など、これを疎かにする中学生は、そこから、健やかさが失われていくのではないかと考えます。勉強もしっかりやり、その上で勉強以外の事をやる、そういう中学生に私達は育てたいと考えています。もう一つは、部活動・生徒会活動、地域に出るボランティア活動・家庭での役割分担など、それらの中で、勉強以外に一つ、夢中になれる・全力を注げ

る活動の時間を持ち、その両方がバランスよく成し遂げられている中学生の姿を見た時に、この子は『健やかに育っている中学生』だと、感じるのではないでしょうか。

また、大人が『やってはいけない事は、やってはダメなのだ。理屈ではないのだ。』というモラルを子供に言えるかどうか。そして、言える風土・文化が今の日本・足立区の地域社会の中にあるのか、という事を、少し反省してみる必要があるのでは？と私は講師の話を承りました。

情報化社会の中で子供達は、被害者にも、加害者にも成り得る、恐ろしい状況にあります。一つの家庭の、一人の子供だけを守るのではなく、子供達全体を見守れる社会を目指す事が、学校・PTAの役目ではないかと思えます。子供達に、情報活用能力・情報モラル等、必要な能力を持たせて、情報社会に巣立って行ける様、保護者の皆様にご協力をお願いいたします。PTAの皆様と学校が協力し合い、足立区の子供達が健やかに育っていける様に頑張りたいと思えます。

什の誓い（掟）

- 一、年長者の言ふことには背いてはなりません。
- 一、年長者にはお辞儀をしなければなりません。
- 一、虚言（ウソ）を言ふ事はなりません。
- 一、卑怯な振る舞いをしてはなりません。
- 一、弱いものをいぢめてはなりません。
- 一、戸外でモノを食べてはなりません。
- 一、戸外で婦人と言葉を交へてはなりません。

ならぬ事はならぬものです。

綾瀬ブロック

第十二中学校
第十三中学校
東綾瀬中学校
蒲原中学校
谷中中学校

1. 月 日 : 平成19年6月23日(土)
2. 会 場 : 第十二中学校
3. 研修テーマ : 教育環境の向上と活力あるPTA
4. 分科会テーマ : 第1 魅力ある成人活動のあり方
第2 子ども達を取り巻く環境と校外活動
第3 子どもの未来と進路活動
第4 家庭・学校・地域における広報誌の役割

第1分科会 成人

会場校：第十二中学校

参加者：33名

テーマ「魅力ある成人活動のあり方」

<各校の活動における問題点と工夫>

東綾瀬中：企画する側も参加する側も働いている人が多く平日の活動が難しいので、一人でも多くの方が参加して楽しんで頂けるように、決められた事をするのではなく、新しい事にチャレンジしていきたいと考え、運動の場、勉強の場、癒しの場、趣味の場等自分も参加できると思えるものがみつかるように企画をしている。

蒲原中：前年度の活動記録をもとにした内容で活動しているが、仕事を持っている人が多いので、時間調整や委員の役割分担をし、負担を軽くできればと思います。参加側、企画する側も楽しく気軽に参加できるように工夫する。

谷中中：仕事をしている人が多く、委員のなり手が少なく行事への参加人数も少ない。手紙やプログラム等を工夫し、講演会（思春期の子供の心、そして親のあり方等）等を取り入れ全員参加型の活動にしていく。

十二中：仕事を持つ方が多い中、協力的に参加しているので特に問題はなく、前年度のノートを参考に行事や活動をしたいと思っている。

十三中：在籍人数で仕事を分担し、片寄りのないよう活動をしている。個人の負担を減らす事により無理なく楽しめる活動を心掛け、役員だけではなく色々な行事に参加して頂く父兄の方々、子供、保護者を通じて交流を持てるようになれば成人活動が楽しくなるのではないかと考えています。多くの保護者の方々にスポーツの応援・観戦をお願いしていきたい。

<助言者のまとめ> 第十三中学校校長 渡辺弘行先生

成人教育部の活動というのは、PTA活動の中では「楽しく・役立つ活動」が主になっている、と言えます。成人教育部として、楽しく、役立つ独自の行事を計画することができます。その行事に参加することによって、保護者同士の人間関係が深まったり、その活動自体が「癒し」になったり、知識や技術が身に付くことによって参加者が役立つことにもなります。そういう意味で、成人教育部の活動を積極的に行うことは大変意義のあることです。

協議の中で、「委員のなり手がなくて困る」「参加者がすくない」というような話が出ていましたが、委員や参加者の負担を、できるだけ軽くするような工夫、行事の内容を充実させたり、広報活動を効率的に行うことも必要です。またねたとえ参加者が少人数であっても、続けていくことが大切です。

最後に、各校の活動内容を拝見すると、「家庭教育を考える」のような内容が入っていないのが意外でした。中学生の子供を持つ親として、子育てで悩むこともあると思いますので、そんな視点での講演会や協議会を計画してみるのも、今後に向けて考えていただければ、と思います。

文責：吉本晴美 加藤広子

第2分科会 校外

会場校：第十二中学校

参加者：40名

テーマ「子どもを取り巻く環境と校外活動」

<谷中中 内田PTA会長より>

夜回り先生で有名な水谷先生の「子どもたちよ！大人たちへ」の中から、ちょっと紹介させてください。

“子どもたちにとって、その生活はたった二つの世界しかありません。一つは夜の家庭、もう一つは昼の学校。これが子どもたちにとって、きちんと愛してもらえ、きちんと評価されるものなら、夜の世界に来てさまよったり、暗い部屋で死を考えたりしません。……”

<討議内容>

パトロールについて

- ・ 気軽に声をかけるのは危険なのでしないようにと警察の講演会で指導があった。
- ・ 先生も一緒にまわってくれれば、先生達から声をかけていただける。
- ・ 上からの目線でなく、目線を落として接する。パトロールで見守っていることが抑止力になっている。
- ・ 知っている子なら声かけ出来るが、まったく知らない子には無理。一人でも多くの子供達と接する機会を増やす、子供の顔をどんどん覚える活動をすることが大切なのは。
- ・ 親も何十年か前は中学生。大人になったからエライんじゃない。まず親として活動に参加する姿勢が子供に伝わると思う。

最近の環境の変化について

- ・ アリオやフレスポなど、昔は高校生になってから行っていたような所に行く子が増えている。
- ・ 塾が終わってからおなかがすいて、コンビニに夜遅く寄ってしまうのが気になる。
- ・ 部活動で疲れて帰ってきて遊ぶ時間がない。家でパソコンをやっている子もいるようだ。
- ・ ネットの書きこみが問題になっている。夏で明るい時間が長くなり、先生から門限を決めてくださいと指示があった。
- ・ 親がその日その日の行動を把握する。親の意識・態度をきちんとしないと、子供がズルズルとなってしまうのではないか。

<助言者のまとめ> 谷中中学校校長 本庄文男先生

問題を起こさない子どもの特徴

- ・ 親とよく話す
- ・ 家にいるとほっとする
- ・ 学校が楽しい
- ・ 部活動や習い事に熱中している
- ・ 本音で話せる身近な大人の存在
- 子どもを取り巻く心理的な環境への配慮 -

子どもの生活環境・地域の安全確保（地域全体の防犯意識、安全生活意識の向上）

メール、インターネット、ゲーム等のバーチャル環境の問題

各学校のPTAごとに話し合いの深化を。・学校で行うセーフティ教室に保護者の多数参加を。

・ 校外生活に関する地域懇談会の企画、運営

・ 地域安全マップの中学校版の作成 等を検討してはどうか。

文責：伊藤幸子 川崎真奈美

第3分科会 進路

会場校：第十二中学校

参加者：36名

テーマ「子どもの未来と進路活動」

最初にエンカウンターを行い、各校及び分科会のコミュニケーションを図りました。

<各校の活動報告>

谷中中 進路委員会はなく、懇親会等学年行事の他、五役の手伝い。

十二中 学校説明会の日程連絡。卒業生の進路報告の冊子発行。高校の制服を展示。懇親会。

東綾瀬中 昨年度とは趣を変えた進路冊子の作成。

蒲原中 茶話会・懇親会・学校行事の手伝い。進路の冊子作り。卒業対策。

十三中 懇親会、学校行事の手伝い。高校の先生や卒業生の話を聞く会開催。一年間の予定表を作成。

<討議内容>

まず初めに、一年生の親に不安なことを聞きました。「上の子ども通っているのに、特に不安はない。」という方もいる一方、「小学校の時と、親子・先生との関係が変わってきた。あまり口をきかない。進路に関しては、日によって言うことが違う。」「大人になったつもりでいるが、まだ子ども。集中力がない。」「遊び場が遠くなって心配だ。」「中間テストの結果が悪くて、塾に行こうか迷っている。」「部活動と勉強の両立が難しく、苦しんでいる。」等、多くの不安の声が聞かれました。

次に、二年生の親からは、「部活動に熱中している。好きな教科しか勉強しない。」「二年のうちから高校見学に行って、目標を決めたほうがいいと話している。」「部活も勉強も中だるみ状態。将来についてはまだ決めていない。」「部活だけ。進路についてはこれから。」「自分のペースがつかめてきた。学校生活を楽しんでいる。」と、まだ具体的に進路を決めている家庭は少なく、部活動中心の生活が見えてきました。

最後に三年生の現状について尋ねると、「目標はあるが、結果が出ないと落ち込む。」「女の子は自分で早く具体的に進路を決めたが、男の子はまだ迷っていて、親も一緒に迷っている。」「推薦で早く決めたい、と楽な道を選ぼうとしている。」「勉強は後回し。」「親子で考える高校が違う。」と、模索中の様子が見られました。中には、「目標がすでに決まっている。」「子どもと一緒に高校見学に行ったら、そこを目標にするようになった。」「親の押し付けでは勉強しない。」「進路について、友だちから情報が入るようになってきた。」「子どもを監視するのではなく観察している。」「失敗すると親のせいにしてしまうので、最終決定は子どもにさせたい。」という参考になる発言がありました。

<助言者のまとめ> 蒲原中学校校長 犬塚喜久男先生

子どもにとって、進学は人生最初の人生選択・自己決定です。自ら意思決定したことだからこそ、納得し、頑張ることができるので、最後は子どもに決定させてください。その前提として、どんなに忙しくても、子どもの話を聞き、情報提供をしてやってください。ただし、親の押しつけがあると子どもは反発します。また、体験的に実感しないと、心が動かず、体は動きません。ですから、実際に高校に行ったり、通っている人の話を聞いて、情報を親子で共有し、最終的に子どもが自己決定できるようにしたら良いかと思います。

文責：小林久美子 福本寿美子

第4分科会 広報

会場校：第十二中学校

参加者：32名

テーマ「家庭・学校・地域における広報紙の役割」

<各校の活動内容>

谷中中 78号 特集号として教職員の紹介を6月発行、79号9月、80号3月に発行予定。

十二中 広報紙「じゅうに」を年3回発行。常置委員会・ブロック研修会に参加。学校行事の手伝い。

東綾瀬中 広報紙「東綾瀬」を年3回発行、123号7月、124号12月、125号3月発行予定。常置委員会・ブロック研修会・講演会に参加。その他学校行事・PTA活動への参加応援。

蒲原中 広報紙「蒲原」を年3回発行。研修会・講演会参加。PTA活動、学校行事の参加、手伝い。

十三中 広報紙「あしの芽」を年3回発行。常置委員会・ブロック研修会に参加。学校行事・PTA行事への手伝い。

<討議内容>

仕事を持つ委員さんが多い中、活動する場所や時間、作業の分担方法、について話し合った。参加校、全てが学校を利用し、4校が活動時間を夜にしており、学年毎に広報紙を担当。作成する上での工夫・問題点として、十三中では初めてという方が多いが、集まりの最後に次の日程を決め、メールで連絡を取り合う。十二中では休日の昼も活動し、出来る人が出来る事を分担、連絡網にメールを使用。東綾瀬では集まりが偏らないように午前・午後に分けるが、参加されない方がいる。また、初めての方には仕事が理解されない等の問題点。蒲原中では連絡が夜になるので急な変更が出来ない点や年度によってパソコン操作に力量の差が出て、負担になる等の問題点。引継ぎノートを作成して、印刷所が積極的に関わっている。谷中中では委員が9名と少なく全ての号を全員で作成、年度の初めに年間予定をたて、役割を分担。決める事を箇条書きにし、無駄なく決めた。司会者から区の予算の関係で警備員さんが削減され、夜いつでも学校を利用することが出来なくなるという問題提起があった。

予算の削減のため、十二中と谷中中ではパソコンで編集したものを、印刷やコピーのみ業者に依頼。各学校地域にも配布するが、十二中と蒲原中では近隣は届けている。谷中中は郵送で7,000円。

内容などについて話し合われる中、子どもの写真掲載、肖像権の問題について疑問が出た。

<助言者のまとめ> 東綾瀬中学校校長 千葉武志先生

広報紙の役割は、PTA活動を広く、PTA・地域に紹介するPTAの顔です。そしてPTA活動を通して、学校や子ども達の様子を親の目で見て伝えることでPTAと地域の架け橋の役割を担っています。作成にあたっては、教育界でも改革の中、環境教育・食育・情報教育・法教育・金融教育と社会の課題が学校に集中しています。柱・テーマとして、「親の目」から何が知りたいか、保護者のニーズをしっかりと掴む事が大切です。編集にあたっては過去の広報紙や広報紙コンクール等でのプロの評価を参考に、勉強会を開催したり、十二中さんのようにパソコンの編集ソフトを活用する、また逆に手書きで温かみのある手作りの良さを活かして作成するのも良いと思います。発行にあたり、保護者だけでなく、地域に広めるために、各学校でホームページを立ち上げ、広報紙を掲載してはいかがでしょうか。

学校の利用時間の問題、子どもの写真の掲載については、学校はPTA活動を支援していく立場であり、子どもの元気な姿は広報紙には欠かせないものです。学校で十分に協議して頂きたいと思います。

文責：八戸静恵 川淵晴美

竹の塚ブロック

東島根中学校
渚江中学校
竹の塚中学校
花畑中学校
花畑北中学校
花保中学校
六月中学校

1. 月 日 : 平成19年9月22日(土)
2. 会 場 : 渚江中学校
3. 研修テーマ : 教育環境の向上と活力あるPTA
4. 分科会テーマ : これからのPTA活動のあり方

第1分科会

テーマ「これからのPTA活動のあり方」

<事例発表> 花畑北中学校PTA1学年委員長 船橋由紀江

最近はどこ家庭も仕事をもっている家庭が多く、学校行事に参加したくてもなかなか休みを取るのがとても困難な状況で、PTA役員を決めるのもどこの学校も苦戦していると思います。そんな中でPTA活動もどうやっていくか年々難しくなっています。親が子供に目を向ける事はもちろん、いろんな情報が入るこの時代の子供達を守る為にも親が子供達は学校でどんな事をしているのか、親が興味を持たなくてはいけないと思います。親が子供の事をもっと知るには、やっぱり学校はとても大切な場所となっているので、PTA活動のなかでの、もっと繋がりが持てるようになれば良いと思います。

<各校の活動内容>

東島根中	親睦会	百人一首大会・おしるこ作り	卒業を祝う会				
淵江中	朝のあいさつ運動(前期一回・後期一回)	給食試食会	先生と委員の茶話会	親子スポーツ大会	卒業生のためのコサージュ作り	卒業を祝う会	
竹の塚中	茶話会	学年行事					
花畑中	運動会パトロールお手伝い	学校公開お手伝い	茶話会	懇談会	スポーツ大会	移動教室・修学旅行ビデオ鑑賞会	新年会・歓送迎会・卒業を祝う会
花畑北中	3学年主催で4校の高校の先生方を招いての説明会お手伝い	職場訪問の事前事業・あいさつの仕方・掃除の仕方など	ビーチボールバレー	おやじの会お手伝い			
花保中	懇談会	歓送迎会	卒業を祝う会	学校公開受付			
六月中	茶話会	講演会	卒業を祝う会				

<討議内容>

どんな行事を行ったら来てもらえるか、中学生の親子が興味も持つものは何か考えるのが難しい。進路が近くなると保護者の出席が多数増える。配布物が届かないなどの意見が出ました。中には、行事のプリントを配布して返事の無い家庭には役員が電話連絡を入れて確認をとったら、出席の人数が増えた。どこの学校も行事の内容や保護者の出席者の少ない事に悩んでいます。

<助言者のまとめ> 花畑北中学校校長 田幸徹先生

PTA活動について話し合ったところ、やはり保護者の行事に対する参加もなかなか難しく、どこの学校も工夫をしながら参加してもらえる状況です。例えば、手紙を2度出したり、出欠連絡の無い家庭に電話をかけたり、いろいろな工夫をしています。親子スポーツ交流会は出席が多かったようです。

先生、保護者とのコミュニケーションがうまくとれることにより、解決策が見つかるのではないのでしょうか。今後も、是非頑張ってくださいと思います。

文責：栗原信子

第2分科会 成人

テーマ「これからのPTA活動のあり方」 成人部

参加者の人数集めの難しさ

行事がある事に、集まりが悪いため二度、三度お手紙を出さなければならない。さらに、講師の手配も難しい。そこで、東島根中、湊江中、竹の塚中、花畑中、花畑北中、花保中、六月中の学校便などを使って、成人委員長宛に他校でも行事の参加が出来るように情報交換をしたらよいのではないのでしょうか。と言う案が出ました。

役員決めの難しさ

生徒数も減りお仕事をしている忙しい親の多い中、毎年どこの学校も役員決めに苦労している。参考として花保中学校では、来年度の役員を決めるにあたって前の年から声かけを心がけている。

制服リサイクル回収について

比較的冬服の集まりは良いが夏服の集まりが悪いため、衣替えの時期にあてて年に二回行って集める方法をとったら良いのではないのでしょうか。

給食試食会について

栄養士の先生の話の後、子供達の食べている所を見学したり「食について」をテーマに文化祭に向けて展示作りをしている学校もありました。

学校見学

何校かは保護者を集めバスで、都立、私立の両方の高校見学めぐりなどの活動をしていました。

7校での情報交換は、なかなかできないことなので参考になりました。

これからのPTA活動にいかしていければ良いと思います。

第3分科会 校外

参加者：30名

<事例発表> 花畑中学校PTA校外委員 和田ひとみ

学年別にパトロールのコース及び人数を割振り、パトロールを毎年行っているが、今年は生徒数の減少によりコースごとの人数に大きな差がでてしまった。さらにパトロール召集の連絡についても、学校ホームページ掲載などを行い連絡方法の強化を図ったが参加者の増加は見られていない。

<各校の活動内容>

竹の塚中：巡回型のパトロール。日程により町会のお祭りに合わせている。先生方にも参加の協力を頂いている。校外委員長さんは、本年度青色パトロールの講習会に参加し活動を広げている。

東島根中：パトロールの召集連絡に対し、当日の参加者が少ない。(他のいくつかの中学校も同意見)

淵江中：クラスごと5箇所のパトロールしているが、巡回の範囲が広い(遠い)コースもある。

花保中：盆踊りのパトロール(校外委員のみで回る)及び、中間・期末テスト終了後や学期末などに合わせた月に一度のクラスパトロールを実施。メンバーは先生、地域の防犯部の方々も参加している。

六月中：クラス別でパトロール実施。約2/3の保護者が参加している。(先生方も参加)

花畑北中：校外委員のみで回る盆踊りパトロールと酉の市パトロールを徒歩で行っている。

<討議内容>

(1)パトロールの集まりが悪いのは

・連絡網がうまく流れない。・学校側が連絡網を流すことに抵抗がある。(個人情報保護)

*連絡網ではなくメール配信をしている他区もある。今後検討の余地あり。

(2)パトロール以外の活動は？

・保護者・地域・学校・開かれた学校づくり協議会など合同で地区集会を行っている。

・自治会や近隣小学校と合同で地域クリーン作戦に参加している。

<まとめ>

(1)学校選択制度により中学校間での生徒数の増減の差が生じている。今後減少している中学校では学校のみでの活動ではなく、地域や近隣の他学校と合同で協力し活動をすることも一案である。

(2)パトロール実施内容は、巡回する時間が子どもに分かってしまっている点、巡回範囲・巡回方法などの問題について今後検討を要する。(なお、現状でも生徒への抑止効果があるとの意見あり。)

<助言者の話> 花畑中学校校長 大塚康弘先生

校外委員は夏休みや盆踊りなどのパトロールが活動の中心になってしまっていますが、参加者が少なかったり、学校間でパトロールの範囲が広い学校があったりなどと問題がある中で、これからのPTA活動というのはいかに地域を巻き込んで行おうかというの力前提ではないだろうか。青色パトロールやクリーン作戦、また地区集会など地域の方々と関わるいい機会なのではないのでしょうか。学校に地域の方をお呼びしたり各町会の集まりに保護者や先生方が行~~く~~などしたりした事もありました。特に校外は学校外の事が主になります。先生、保護者、地域とが一体となって子どもたちのために何ができるのかということを考えていってほしいと思います。

文責：上妻明美

第4分科会 広報

テーマ「これからのPTA活動のあり方」

<事例発表> 六月中学校PTA広報委員長 萩原英子

近頃は仕事をしている保護者の方が多く、又それぞれの家庭の事情などもあり、全員が揃って委員会を開く事が大変難しくなっています。そこで、新役員顔合わせの時や運動会の時に、取材内容等大まかなことを決定しました。担当は出来る時に出来る人が行うということで委員の皆さんに納得していただきました。広報誌作りに参加できない方には今回の研修会などその他の活動を担当してもらい、みんなが一つでも仕事出来る様にしたいと考えました。

広報委員は「他の委員より忙しいのではないか」「パソコンが使えないから何も出来ないのではないか」「文章を書くのが苦手」などマイナスイメージがたくさんありますが、各校の皆さんと意見を出し合いながら、今後の活動の参考にさせていただきたいと思います。

<各校の活動内容>

東島根中 広報誌「東島根」年2回発行、学校行事手伝い

淵江中 広報誌年3回発行

竹の塚中 広報誌「竹の葉」年3回発行

花畑中 広報誌「花中だより」126号発行、PTA行事、学校行事手伝い

花畑北中 広報誌発行、三十周年行事手伝い

花保中 広報誌「黄菖蒲」年2回発行

六月中 教職員紹介号、広報誌「みなづき」年2回発行、学校行事手伝い

《討議内容》

印刷業者にどの段階で発注しているかについて

レイアウトまで完成させて発注している学校、原稿や写真などをCD-ROMに入れ、レイアウトは印刷業者をお願いしている学校、全てを委員がやっている学校など各校さまざまでした。

学校行事など子供達の感想をどの様に収集しているかについて

多数の学校では「原稿依頼書」を作成し、先生をお願いをして集めてもらっている様です。他には修学旅行など学年限定の場合、対象学年の広報委員のお子さんをお願いしているという学校もありました。

その他

広報委員はなり手が少ないですが、「自分の書いた原稿・写真が広報誌として残る」「子供との会話が増えた」「行事の時などは取材をしながら近くで子供が見られる」といった良い面もあるので、今後は良い面をアピールしながら広報委員のなり手を増やして生きたい。

<助言者のまとめ> 六月中学校校長 中村史傳先生

今日のこの機会だけではなく、今後も情報交換をしていってほしいと思います。広報委員は事務的にも専門的で大変という意識が強いようですが、引継ぎがしっかりできれば次の担当の皆さんもスムーズに取り組むことができると思います。パソコンが出来る出来ないではなく、いろんな面でのアイデアを出し合い各校の特色を活かして、楽しみながらがんばっていただきたいと思います。

文責：福土恵美子

第5分科会 進路

会場校：瀏江中学校

参加者：33名

テーマ「これからのPTA活動のあり方」

<事例発表> 本日は竹の塚ブロック研修会、進路部の発表校として参加させていただきましたが、本校のPTAには進路部がありません。学校の方で1・2学年の保護者を対象に定期的に説明会を行い、三者面談・個別の面談等を繰り返し行うことによって、生徒一人一人に合った進路指導をしていただいています。3年生の教室がある廊下には各高校からのパンフレットやポスターを掲示し、生徒が積極的に学校訪問を行うなどの自主性を育て、自分の進路について真剣に考えられるように指導していただいています。私たち保護者にも学校通信や「進路指導室より」という手紙を配布し、情報を共有することで私たちの不安を取り除いてくださり、子どもの将来に対しての私たちの自覚や意識を高める手伝いをして下さっているのだと思います。本日は皆様がどのような活動をしているのか、また先生方や子供たちへの関わり方、良い点・悪い点等について積極的に討議していただけたらと思います。これを学校に持ち帰り、今後の参考にさせていただきたいと思います。

<各校の活動内容>

瀏江中学校 高校訪問 通信紙“ホットライン”の発行

花畑中学校 高校訪問 学校公開・文化祭手伝い

六月中学校 高校見学会の計画と実施 運動会手伝い 文化祭の展示(見学会の感想など)

花保中学校 3学年の学年部が活動 進路説明会の実施

花畑北中学校・東島根中学校・竹の塚中学校は委員会が無し

<討議内容>

どの様に高校を選んでいるか？

特色ある学校

アンケートを出して決める

都立2校、私立2校など

進路部がない学校から

人数が少ないので部を立ち上げるのは難しい

役員がいらない 負担が大きい

あれば参加してみたい

<助言者のまとめ> 竹の塚中学校校長 永野敏先生

PTAの方々の日頃のご協力、大変感謝いたします。今の時代、いろいろな情報が手に入ります。個々により状況が違いますので、インターネットで調べたりする事も良いと思いますが、実際に訪問し、足を運んで得た情報は素晴らしいと思います。高校訪問は時期をずらして行くのも一つの方法ではないでしょうか。別の一面も見られると思います。生徒達には、高校で何をしたいのかよく考えて、高校を選択してほしいです。ぜひ、このような活動は引き継いでほしいと思います。

第5分科会

テーマ「これからのPTA活動のあり方」

<事例発表> 淵江中学校PTA副会長 剣持明子

学校選択制になり、早4年になりますが、各学校の状況はいかがでしょうか。わが校では、年々生徒数が増え、活気づいている反面、問題点も増えているようにも感じます。本部役員に携わっていく中で、学校へ行く機会も多く、先生方と話す機会も増し、学校の事もわかってきました。また、他校との情報交換する場に参加し横のつながりもできます。その他、講習会、研修会への出席、行事への参加などで、学ぶこともあり、役員をやってよかったと思えることも事実です。しかし、年々学校及びPTA活動に対して、保護者の意識が薄れているように感じます。生徒の学区が分散することで、地域の方々とのコミュニケーション不足や、学校への要望ばかりで学校行事やPTA活動に協力できない保護者も出てきました。挨拶運動など生活態度の啓蒙活動は続けていますが、保護者への啓発活動そして情報発信を常に訴えていかなければならないと思います。また、役員を引き受けてくれる方が少ないため、PTA活動やブロックでの行事の見直し等も必要ではないでしょうか。

以上、さまざまな課題がありますが、PTA活動を通して得た経験は大変有意義で貴重なものです。これからも、子供のために微力ですが活動していきたいと思えます。

<各校の活動内容>

PTA総会・歓送迎会・運営委員会・委員総会・学校行事お手伝い・文化祭展示・あいさつ運動・ブロック行事参加・講演会・研修会参加・西の市パトロール・親子スポーツ交流会・制服リサイクル・新年会・学校公開お手伝い(パトロール)・各町会盆踊り・地域清掃ボランティア

<討議内容>

PTA会費の未収があり、困っている。全員完納を目指しているが、なかなか難しい。不登校家庭には先生にお願いするなど対策は講じているが毎年の課題になっている。

学区が分散しているため、地域のかたがたとの理解、協力も得られにくい。

選択性により生徒数の増減があるが、増えてもPTA役員のなり手がなく、また減ることにより役員個々の役割負担が増え、PTA活動が成り立たなくなっていくのではないかと不安もでてくる。PTAのこれからのあり方についても、考えていく時期ではないかと思う。

東島根中学校では、PTA会費から運動会の参加賞を出し還元したり、花畑中学校では親子で教室のペンキ塗りをしたり、清掃活動をして地域にアピールする活動を行っている。

<助言者のまとめ> 東島根中学校校長 増淵裕康先生

選択性については、時代の流れの部分もある。見方を変えれば、いろいろな学校、地域から来る事が情報源の拡大、チーム作りの輪を広げることにもつながるのではないか。良いところがあれば、情報交換をして活用することで活気づくこともあると思う。本部の方は各校大変だと思うが、何か、問題があれば学校に相談して欲しい。個々、学校ごとに解決方法があったり、他校と協力できることもある。

これからも、学校と保護者とのパイプ役としてご協力をお願いしたい。

文責：吉田雅子 志田信子

平成19年度

足立区立小・中学校PTA
ブロック研修会実施記録

足立区教育委員会
青少年センター

発行 平成20年7月

足立区栗原1-3-1
TEL (5242) 8163
FAX (5242) 8165